文部科学省　国立大学改革強化推進補助金事業

四国における e-Knowledgeを基盤とした 大学間連携による大学教育の共同実施

四国地区５大学連携による教育の質向上の実現

事業報告書

2015年度版

目次

巻頭言 1
1. 事業概要 2
1.1. 事業理念 2
1.2. 事業実施計画 2
1.3. 事業実施体制 2
2. 活動状況報告 2
2.1. 平成 26 年度（未報告分） 2
2.2. 平成 27 年度 4
2.2.1. 事業実施概要 4
2.2.2. 組織体制 4
2.2.3. 開講科目 5
2.2.4. システム基盤の運用 7
2.2.5. 各ワーキンググループ報告 8
2.2.6. 各委員会報告 66
2.2.7. シンポジウムの開催 79
2.2.8. スキルアップ研修会 98
2.2.9. 広報活動 99
2.2.10. 事業実施内容の点検・評価 103
2.2.11. 平成 28 年度事業実施計画 105
2.2.12. 総括 106
3. 関係規則等 108
3.1. 大学間申合せ 108
3.2. 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則 108
3.3. 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会規程 110
3.4. 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会規程 111
3.5. 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会規程 112
3.6. 各大学分室規則等 113
3.6.1. 徳島大学分室 113
3.6.2. 鳴門教育大学分室 118
3.6.3. 愛媛大学分室 121
3.6.4. 高知大学分室 122
4. 連絡先情報 123

巻頭言

本報告書は、平成 27 年度に四国地区 5 国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）で行われた『四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施』事業の活動状況をまとめたものです。

本事業は、国立大学改革強化推進補助金で採択された「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成」事業を構成するひとつであります。特に、本事業は、四国の e-Learning 基盤を活用して「四国地区における 5 国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ることを目指しています。その実現のために、四国地区 5 国立大学が相互に連携し、基幹校である香川大学に大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（以下、センター四国）を設置するとともに、他の 4 大学にセンター分室を設置し、事業を推進しております。

平成 27 年度は、平成 26 年度と同様に事業実施フェーズとしては試行期に位置付けられております。今年度の実施内容としまして、インターネットを用いたフルオンデマンド型 e-Learning による共同実施科目（知プラ e 科目）の共同開講、知プラ e 科目の提供計画案の策定及びコンテンツの開発・蓄積、さらに、学期単位及び年度単位の自己点検項目の整備による事業実績の定量評価が挙げられます。平成 28 年度からの拡充期に備え、「四国 5 大学型共同教育実施モデル」の整備を行いました。

本事業は、異なる理念や教育システムをもつ大学間での講義の共同実施のため、大前提として、5 大学の教育システム（時間割など）はいじらない方向で検討を進めております。対面講義ではなく、フルオンデマンド型 e-Learning を取り入れるとともに、センター四国ウェブページの機能を強化による学生への履修情報の一元配信など、インターネットを効果的に活用した共同開講の仕組みを整備しました。これにより、大きなトラブルもなく 5 大学間で共同開講ができ、平成 26 年度（単位互換）に比べ、科目提供大学以外からの履修者の大幅増につながりました。

さらに、平成 27 年度は事業シンポジウムを教育システム情報学会と共催で開催、また、本事業で得られた研究成果（著作権処理、受講抽選方法の改善及び学修支援など 6 件）を三つの学術学会で発表し、学術的な観点から事業成果の情報発信に務めました。学術学会等で得られた教育システムに係る専門的知見は、今後の事業改善に活用する予定です。

一方、単位の実質化という観点から、今後は e-Learning 講義における教育の質保証が問われることとなります。本事業では教育の質保証ワーキンググループを中心に、フルオンデマンド型 e-Learning で単位を出すために e-Learning 講義に備わっていなければならない条件を明確にし、レビューシート等による実効性を担保する予定です。

上記の取り組みにおいてご尽力いただいているセンター四国及び分室のスタッフの皆様、企画・運営委員の皆様、各大学で本事業を支えていただいている各部局・事務の皆様、更に、外部評価委員の皆様に、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりますが、我々は、新しい大学連携 e-Learning の動向に注意しながら、本事業を通じて、連携国立 5 大学全体の教育の質の向上を図るよう取り組んでまいります。引き続き『四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施』事業による各種活動に対してご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

香川大学 理事・副学長（教育担当）
藤井 宏史

1. 事業概要

1.1. 事業理念

我が国の地方国立大学は、教育研究機関として、地域に根ざし、世界に発信することが求められている。四国の 5 国立大学は、四国そしてそれを構成する 4 県に立地する大学として、四国地方の知的基盤を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる人材を輩出することを重要な使命としている。

本事業では、e-Knowledge コンソーシアム四国（eK4）で蓄積された e-Learning 基盤を強化した教育の共同実施を行うための母体として、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 （センター四国）を設置する。センター四国では、大学間連携により、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完するコンテンツを開発することで、教育の質の向上を図る。科目選択の幅が広がることによって、履修者の興味や学習ニーズにあった科目履修が可能となる。また、各大学の状況（時間割など）に依存しない教育プログラムの開発により、学生にとっては、四国のどこに居ても、いつでも何度でも受講できる共同実施の運用モデルを確立する。

1.2. 事業実施計画

平成 26 年度から大学教育を共同実施する。そのため、平成 24～25 年度を準備期、平成 26～27 年度を試行期、平成 28～29 年度を拡充期として、平成 30 年度より大学教育の共同実施を定常化させる。

特に、本事業報告の平成 26 年度を含む試行期では、大学教育の共同実施に向け、各分室が主査となるワーキンググループを発足し、諸課題について検討することが計画されている。ワーキンググループの中で教育の質保証やコンテンツ開発の仕組みの枠組みを定め、e-Learning コンテンツや開講科目の質を担保することを計画している。また、大学間における共同実施の協定を定める等大学教育の共同実施の基盤整備を進めることが計画されている。

1.3. 事業実施体制

大学教育の共同実施を行う部局として、基幹校の香川大学に大学連携 e-Learning 教育支援センター四国を設置する。また、各大学にセンター四国分室を設置する。センター四国及び分室は、主に、以下の業務を行うものとする。

(1) 大学教育・大学院教育の共同実施に向けた組織体制の整備に関すること
(2) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること
(3) 共同実施による教育プログラムの開発に関すること
(4) オープンコンテンツ開発に関すること
(5) 遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤強化に関すること
(6) 共同実施の運用モデルの確立に関すること

2. 活動状況報告

2.1. 平成 26 年度（未報告分）

2.1.1. 委員会

平成 27 年 3 月に実施された企画委員会の議事次第を以下に示す。

第 6 回企画委員会

（1）日　時　平成 27 年 3 月 2 日（月）14 時 15 分から
（2）場　所　高知大学　共通教育棟 1 号館 2F　127 番教室
（3）参加者　教員 11 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）各 WG の進捗状況報告について
（6）協議題
・協議題 1　受講者認証について
・協議題 2　平成 27 年度履修等手続きについて

・協議題 3　平成 27 年度事業実施計画線表について
・協議題 4　その他
（7）報告議題
・報告議題 1　サンプル授業設計進捗状況について
・報告議題 2　第 6 回四国 5 大学連携事業に係る理事間の意見交換会、第 77 回四国国立大学協議会の報告
・報告議題 3　事業報告書 2014 について
・報告議題 4　その他
（8）決定事項
協議題 1　受講者認証について
・平成 28 年度以降は「GaKuNin」が使えるように検討を進めていくこととなった。
協議題 2　平成 27 年度履修等手続きについて
・案のとおり了承された。
協議題 3　平成 27 年度事業実施計画線表について
・案のとおり了承された。

2.1.2.　スキルアップ研修会

平成 27 年 3 月に実施された第 2 回スキルアップ研修会の概要を以下に示す。

【日時】平成 27 年 3 月 6 日（金）13:30～17:00
【会場】香川大学幸町キャンパス南 5 号館 2 階 PC ルーム 3 及び e-Learning スタジオ
【講師】坪内美樹氏（合同会社坪内美樹事務所代表、トーキング・プランナー）
【内容】
座学：e-Learning における話し方講座
実習：e-Learning における話し方クリニック講座

トーキング・プランナーの坪内美樹氏を招いて「e-Learning における話し方」をテーマとしたスキルアップ研修会を実施し、15 名の参加があった。

座学「e-Learning における話し方講座」では、話し方の基本テクニック、手鏡を使ったセルフトレーニング法、スタジオ収録における話し方のポイントについての講義があり、実習「e-Learning における話し方クリニック講座」では、数分間程度の模擬授業をとおして話し方の助言があった。更に、実習終了後には活発な質疑応答が行われた。

2.1.3.　センター四国教員人事（選考経緯）

◆センター四国

センター教員　藤本　憲市　助教（平成 27 年 4 月 1 日付け採用）
（岩城　暁大　助教の平成 27 年 3 月 31 日付け退職に伴う後任補充）

※採用者の選考経緯
- 募集期間平成 26 年 12 月 26 日から平成 27 年 1 月 26 日で公募開始
- 3 名の応募あり
- 2 回の教員選考委員会で 1 名の面接実施候補者を決定、面接を実施後、教員選考委員会で助教 1 名の採用者決定

企画委員会委員　後藤田　中（平成 28 年 1 月 1 日付け就任）

2.2.　　平成 27 年度

2.2.1.　事業実施概要

平成 27 年度の「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業の概要は以下のとおりである。

(1) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行

四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行を行い、明らかになった課題の解決方法を検討した。

- センター四国 Web ページを活用した履修案内の共通化
- 自己点検評価項目及び実施要領の決定
- 成績評価に係る手続等の決定
- コンテンツ視聴確認シート及び実施要領の決定
- コンテンツの相互視聴確認
- 教育の質保証に関する授業改善アンケートの実施要領の決定

(2) システム基盤の運用

導入されたシステムを利用してコンテンツの開発、大学間打ち合わせ等を行った。

(3) 教育の実施

平成 27 年度後期に計 7 科目の e-Learning 科目を共同開講するための準備を行った。

(4) その他

- コンテンツ提供計画の検討
- 学外からの成績入力方法の検討

なお、上記以外にもシンポジウムやスキルアップ研修会を行い、e-Learning の啓蒙・普及・成果の公開も行った。これらの詳細については、次章の活動状況を参照されたい。

2.2.2.　組織体制

平成 27 年度の運営委員会委員及び企画委員会委員は以下のとおり。

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会委員

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	委員長	藤井　宏史	理事・副学長（教育担当）
	センター長	林　　敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井　　礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	藤本　憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	事務職員	髙﨑　一成	修学支援グループリーダー
徳島大学	分室長	金西　計英	大学開放実践センター教授
	事務職員	三好　信幸	学務部教育支援課課長
鳴門教育大学	分室長	宮下　晃一	大学院学校教育研究科教授
	事務職員	戸田　陽介	教務企画課長
愛媛大学	分室長	田中　寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長 （理工学研究科教授）
	事務職員	信高　雄一	教育センター事務課長
高知大学	分室長	立川　　明	大学教育創造センター准教授
	事務職員	井上　博文	学務課長

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会委員

大学名	委　員	氏　名	所　属　等
香川大学	センター長	林　　敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井　　礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	藤本　憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	第 3 条第 1 項第 4 号委員	後藤田　中	総合情報センター助教、工学部助教
徳島大学	分室長	金西　計英	大学開放実践センター教授
	分室教員	高橋　暁子	総合教育センター特任准教授
鳴門教育大学	分室長	宮下　晃一	大学院学校教育研究科教授
	分室教員	竹口　幸志	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室講師
愛媛大学	分室長	田中　寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長 （理工学研究科教授）
	分室教員	根本　淳子	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室　准教授
	分室教員（併任）	仲道　雅輝	総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼教育企画室講師
高知大学	分室長	立川　　明	大学教育創造センター准教授
	分室教員	竹岡　篤永	大学教育創造センター特任助教
	分室教員	三好　康夫	教育研究部自然科学系理学部門講師（理学部）

2.2.3.　開講科目

下表のとおり、平成 27 年度後期に 7 科目を共同開講し 777 名が履修した。

平成 27 年度後期開講科目一覧

科目提供大学	科目名	主担当教員
徳島大学	知の探訪	金西 計英
	モラエスの徳島 －グローバリズムと異邦人－	宮崎 隆義
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914–1920 －四国の収容所を中心に－	井戸 慶治
香川大学	地域コンテンツと知財管理	村井　礼
	香川を学ぶ	林　敏浩
	情報のいろは	林　敏浩
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	立川　明

平成 27 年度後期開講科目履修者数

開講大学	科目名	徳島大学			鳴門教育大学			香川大学			愛媛大学			高知大学			合計		
		履修希望者	履修登録者	履修確定者	履修希望者	履修登録者	履修確定者	履修希望者	履修登録者	履修確定者	履修希望者	履修登録者	履修確定者	履修希望者	履修登録者	履修確定者	履修希望者	履修登録者	履修確定者
徳島大学	知の探訪	4	4	4	0	0	0	7	7	5	26	20	19	6	6	6	43	37	34
	モラエスの徳島－グローバリズムと異邦人－	2	2	2	0	0	0	12	12	7	30	30	30	8	8	8	52	52	47
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ―四国の収容所を中心に―	2	2	2	0	0	0	20	20	16	20	20	19	4	4	4	46	46	41
香川大学	香川を学ぶ	3	3	3	0	0	0	174	174	165	60	60	60	14	14	14	251	251	242
	情報のいろは	3	3	3	0	0	0	41	41	35	68	68	68	17	17	17	129	129	123
	地域コンテンツと知財管理	1	1	1	0	0	0	215	215	215	39	39	39	5	5	5	260	260	260
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	2	2	2	0	0	0	14	10	8	14	10	10	10	10	10	40	32	30
合計		17	17	17	0	0	0	483	479	451	257	247	245	64	64	64	821	807	777

また、共同開講科目の各大学における開講区分及び共同開講科目を用いた教育の質向上への貢献状況は下記のとおりである。

〈徳島大学〉

徳島大学では、知プラ e で提供を受けている授業を、教養科目群、社会性形成科目群として開講している。さらに、教養科目群科目として「歴史と文化」「生活と社会」「自然と技術」、社会性形成科目群として「共創型学習」を開講している。本学では、科目を集約することで共通教育の授業の多様性を、柔軟に保つことで、学修機会の保証を実現している。

〈鳴門教育大学〉

鳴門教育大学では、教育の実施体制等に関する目標として教員養成大学に相応しい教育の実施体制をさらに充実させ、大学間の連携・ネットワークを活かして多様で柔軟な見方や考え方のできる教員を養成するために、四国地区大学間連携による共同実施の授業科目を設定し実践した。

〈香川大学〉

香川大学では、他大学の特色ある教育・研究分野の授業科目を、主題科目や学問基礎科目として幅広く開講することで、バランスの取れた履修担保という全学共通教育カリキュラム改革（共通教育スタンダードの徹底）に貢献できた。

〈愛媛大学〉
愛媛大学では、本事業で開発された科目を共通教育科目として全学に提供することで、基盤教育における学習内容・学習方法の選択肢拡大を実現した。

〈高知大学〉
高知大学では、本学及び他大学の特色ある教育・研究分野の授業科目を共通教育の教養科目として開講することで、多様な学術分野に触れるとともに、現代的な課題に目を開く機会を提供し、幅広い教養と、それを身につけるための学習力の習得に貢献した。

各大学における知プラ e 科目の開講区分

提供大学	科目名	各大学における開講区分				
		徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
徳島大学	日本におけるドイツ兵捕虜 1914－1920	教養科目群・歴史と文化	四国地区5国立大学連携科目	主題Ｂ－1「歴史のなかの 21 世紀」	教養科目　主題探究型科目「歴史を考える」	共通教育教養科目人文分野
	モラエスの徳島-グローバリズムと異邦人-	教養科目群・歴史と文化		主題Ｂ－2「グローバル社会と異文化理解」	教養科目　主題探究型科目「地域と世界」	共通教育教養科目人文分野
	知の探訪	社会性形成科目群 ・ 共創型学習		主題Ｂ－6「人間と健康」	教養科目　主題探究型科目「現代と科学技術」	共通教育教養科目生命・医療分野
香川大学	地域コンテンツと知財管理	教養科目群・生活と社会		主題Ｂ－4「文化と科学・技術」	教養科目　主題探究型科目「社会のしくみを考える 」	共通教育教養科目社会分野
	香川を学ぶ	教養科目群・生活と社会		主題Ｂ－7「地域と生活」	教養科目　主題探究型科目「地域と世界」	共通教育教養科目社会分野
	情報のいろは	教養科目群・自然と技術		学問基礎科目「情報科学」	教養科目　主題探究型科目「現代と科学技術」	共通教育教養科目自然分野
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	教養科目群・自然と技術		主題Ｂ－5「生命と環境」	教養科目　主題探究型科目「現代と科学技術」	共通教育教養科目自然分野

2.2.4.　システム基盤の運用
平成 25 年度に導入された Multipoint Control Unit (MCU)、Learning Management System (LMS)、スタジオなどのシステムを活用し、e-Learning による大学教育の共同実施に向けての各種会議やワーキンググループ（WG）による打ち合わせ、e-Learning 科目のコンテンツ制作、e-Learning 科目の開講（運用）を行った。その運用実績を次ページの表に示す。

システム基盤の運用実績

大学名	運用実績
徳島大学	MCU：遠隔講義、知プラの打ち合わせ（SICO（知プラの知財）、知プラｅ、アドミッションの打ち合わせ）、四国経済連合会のセミナー等で合計 40 回利用した。 LMS：平成 27 年度後期において、知プラｅ科目を 3 科目配信した。
鳴門教育大学	キャリア教育科目検討 WG では、遠隔会議・遠隔 講義システム、LMS の使用なし。
香川大学	MCU：大学間打ち合わせ 6 回、委員会を 6 回、WG 等打ち合わせを 2 回開催した。また、遠隔会議実施にあたり、接続実験を 1 回実施し、円滑に接続できるよう準備を行った。 スタジオ：また、平成 28、29 年度開講予定科目のうち、10 コンテンツを制作しており、平成 27 年度末までには 48 コンテンツを制作する予定である。 LMS：平成 27 年度後期において、香川大学提供の知プラｅ科目（3 科目）の配信を行った。
愛媛大学	共同教育実施モデル検討 WG では、今年度遠隔会議を実施していない。
高知大学	遠隔会議・遠隔講義システム：平成 27 年 7 月 13 日、23 日、8 月 5 日に学内での通信テストで、9 月 16 日に香川大学を含む 7 大学との遠隔会議で使用した。また同年 4 月～9 月までに、授業動画の収録のため合計 31 回使用した。その他、システムの問題に対応し、運用レベルを維持している。 LMS：平成 27 年高知大学開講の知プラｅ科目 1 科目の配信を実施した。また、学内での活用を広く推進した。なお平成 28 年に向けて、新たに 1 科目を開発中であり、コンテンツの蓄積を実施している。

2.2.5.　各ワーキンググループ報告

2.2.5.1. 共同教育実施モデル検討ワーキンググループ

【はじめに】今年度の WG の活動は、平成 26 年度までに立案した共同実施案に基づき実際に共同実施を試行する中で、平成 28 年度からの本格的な共同実施に向けた各手続きの問題点の洗い出しと改善に取り組むことであった。現在も e ラーニング授業を実施している最中であるため、履修登録から授業開始までの実施状況に絞り各大学から収集し、どのように対応してきたかを確認した（表 1）。

【トラブル等回避のための事前策】連携大学間共通の策として、センター四国のホームページ上に各大学の履修案内を用意し、対象の全学生に必要な履修の基本情報を提供した。また、大学によって提供する PC 環境が異なるため､作成した教材がすべての大学から閲覧できることを事前確認する仕組みを用意した。

各大学での事前策は、大学の履修システム等に合わせて適宜行った。履修のための説明会や履修者に e ラーニングの操作に関するガイダンスを実施する大学もあった。また、他科目との履修と同じ手続きであるため、特別な策を講じなかった大学もあった。

【LMS 及び履修登録段階でのトラブルと対応】連携大学間共通としては、教材閲覧確認の体制に課題があった。メールを通して閲覧確認の実施報告を行うため煩雑になりやすく、また、対象大学間でのやり取りがされるため、センター校で全体を把握しにくい状況が起きた。よって一部運用ルールを変え、常にセンター校が全体の進捗を把握できるようにした。

各大学では、学習開始前の閲覧に関する問い合わせが多かった。履修学生が Moodle にアクセスする際は、事前に通知された「コース登録キー」を用いて閲覧権を得るような仕組みをとっているが、この方法を理解できなかった学生からの問い合わせが最も多かった。各トラブルに関しては、個別に対応することで解決できた。

【今後の課題】今回得られた実施状況により、大きな問題はなく授業が開始されていることを確認できた。一方、連携内の運用はできる限り簡便化し、混乱を避けるような対応が求められる。また、学生からの問合せは無くならないと考えながらも、できる限り学生が自律的に学ぶことができる環境づくりを支援している必要がある。

授業実施中の調査であったため、成績判定については検討できなかった。この点も引き続き調査を行う必要がある。

平成 27 年度履修登録から授業実施までの状況

大学	トラブル等回避のための事前策	LMS 及び履修登録段階での トラブルと対応
共通	・センター四国ホームページ上に、各大学学生向け履修案内 Web ページを作成した。 ・大学間でコンテンツ視聴が正しくできることを、「コンテンツ視聴確認シート」を用意して開講前に確認した。	＜大学間連携でのコンテンツ視聴確認のやり取りについて＞ ［内容］コンテンツ視聴依頼及び回答については、提供大学が開講大学へ依頼する際に送付する「コンテンツ視聴確認連絡票」に以下のとおり実施した。 ①■依頼■提供大学窓口担当者から開講大学送付窓口担当者へ依頼 ※本連絡票に「コンテンツ視聴確認シート」を添付し送信 ②■回答■開講大学は視聴確認実施後、提供大学送付窓口担当者へ回答 ※本連絡票に「コンテンツ視聴確認シート」を添付し送信 大学間でのやり取りのため、確認結果をセンター校で把握できなかった。 他大学間でのやり取りも状況も把握しにくかった。 ［対応］確認結果をセンター校が把握できるようにするため 企画委員 ML 及び企画委員会事務陪席 ML へも同報することになった。
香川	・センター校として 5 大学の学生の利便性を向上させるため、センター四国 Web ページの「開講科目一覧」 http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/subject.html#subject_list に、科目名、担当者、単位数、配信開始日、レポート締切日等の情報を掲載するとともに、 各大学学生向けの履修案内 Web ページへのリンクを作成した。 ・香川大学内 ・知プラ e 科目の履修案内（平成 27 年度第 2 学期）を作成した。・履修者抽選システムを構築し運用した。 ・知プラ e 科目の履修方法に関する説明会を 5 回開催した。計 172 名の学生が参加した。 ・知プラ e 科目が開講されることを周知するためのポスターを作成し、各部局で掲示した。	1. [内容] 香川大学には、大学連携用 Moodle 及び香川大学 Moodle の二つの LMS が稼働しているが、学生が香川大学 Moodle にアクセスしていた事例があった。 [対応] 質問メールに対し、正しい URL をメールで回答した。 来年度からは、シラバスに履修案内 Web ページの URL を明記する。 2. [内容] LMS のコース登録キーが分からない又は忘れたから教えてください、との問い合わせがあった。 [対応] 問い合わせメールに対し、コース登録キーの周知方法を回答した。 来年度からは、シラバスに履修案内 Web ページの URL を明記する。 3. [内容] LMS 登録期限後に、登録させて欲しいとの救済依頼があった。 [対応] LMS 登録期限を延期することで対応した。

徳島	・本学の学生に対しては対面でガイダンスを実施した	他大学の学生よりサンプル動画が視聴できない旨の問い合わせがあり、ブラウザを Chrome に変更し視聴するように回答したところ、解決した。
鳴門教育	特になし	1. [内容]履修登録期間中に履修登録する学生は見られなかったため、予定していた説明会も実施することができなかった ［理由］教員免許に関わる科目を複数履修していること、ボランティア活動を行っていることなど、 学生自身が総体的に能動的な学習活動を行っており、学生自身も学びの時間を確保することが困難である 2. [内容]通常科目と知プラ科目の履修方法が異なるため、学生の視点に立った場合、わかりにくいと思われる ［対応］今後、鳴門教育大学学生向けの知プラホームページに、履修方法・履修登録期間・成績登録期間などを明示する工夫などが考えられる
高知	特になし	特になし
愛媛	特になし	<学生からの問合せ対応> 1. 履修登録について [内容] 履修登録をすぐに実施してよいかの確認 ［対応］担当教員より、履修登録についての説明が書かれた Web サイトと問合せ先について回答した 2. 動画視聴について ［内容］サンプル動画を見ようとしたところ、読み込み後に何も表示されず、動画が見られない。 ［対応］利用されているブラウザが IE である可能性があったため、演習室 PC の Chrome（クローム）で視聴するように指示した。 3. 受講方法について ［内容］どのような形で授業行っているのか、事前に理解したいため、講義についての詳細を教えていただきたい。 ［対応］学生はすでに Moodle を閲覧できる状況であるにもかかわらず、閲覧していないためこのような問い合わせがあったと判断し、「登録キー」を使った登録方法について指示した。

2.2.5.2. コンテンツ開発検討ワーキンググループ

平成 27 年度は、コンテンツ運用細則の見直し、コンテンツ視聴確認のためのシート作成、コンテンツ視聴確認による問題点の洗い出しと解決を図った。以下、それぞれについて詳述する。

(1) コンテンツ運用細則

平成 26 年度に作成した知プラ e 科目の e-Learning コンテンツの動画スペックを整理した運用細則について、各大学が担保すべき最低スペックの見直しと一部の文言修正を検討した。最低スペックについては、検討の結果、平成 26 年度と同じスペックとすることとなった。一方、動画コンテンツの形式と書き出しに関する箇所については、「動画コンテンツは各大学の PC ルーム等での視聴ができる形式とするが、動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うこととする。」を「動画コンテンツは各大学の PC ルーム等での視聴ができる形式とする。動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うことを推奨する。」のとおりに修正した。これは、香川大学で e-Learning システムの負荷テストを実施した結果、2,000 人を超えるクラスが発生するとサーバ・ネットワークの負荷上限を超える恐れの

あることが判明したことから、動画コンテンツの書き出し設定については、受講上の問題がない程度にビットレートを下げても良いようにするためである。

コンテンツ開発等検討 WG 運用細則　第 2 版（2015 年 7 月 14 日版）

この運用細則は、四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業における「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（以下、知プラ e 事業）で開講する e-Learning 科目のコンテンツを四国 5 国立大学（以下、連携大学）で開発することに関し、細則を定めるものとする。

1）視聴担保する PC のスペック
下表のスペックを満たす PC での視聴を担保する。

視聴担保する PC のスペック一覧

視聴担保する PC スペック	
OS	Windows 7 相当以上
ブラウザの種類	IE (ver.8) 以上 を推奨
Adobe Flash Player バージョン	ver.13 以上
システム メモリ	1GB 以上

2）動画コンテンツの書き出し設定
動画コンテンツは各大学のＰＣルーム等での視聴ができる形式とする。動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うことを推奨する。

動画コンテンツの書き出し設定の案【香川大学での設定】

ビデオ書き出し設定	
ビデオ設定	
コンテナ	FLV
映像解像度	480p ※4:3 なら 640×480 16:9 なら 854×480
フレームレート	25（または 29.97）
ビットレート	（オーディオ含めて） 500～800kbps
オーディオ設定	
音声コーデック	AAC（または MP3）
チャンネル数	ステレオ
周波数	44.1kHz（または 48kHz）
ビットレート	128kbps（または 96kbps）

3）細則の更新について
コンテンツ開発ガイドライン運用細則は年度ごとに更新を行う。また、必要に応じてその都度更新を行う。

(2) コンテンツ視聴確認シート
コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づいて、知プラ e 科目の受講学生がコンテンツを視聴できるか事前に各分室で確認するため、以下のとおりコンテンツ視聴確認の手引き及びコンテンツ視聴確認シートを作成した。

コンテンツ視聴確認シート

科目名：
提供大学：
URI:
コース登録キー:
コンテンツ視聴
用パスワード:

特に確認が必要な項目等

上記科目のコンテンツ（LMS 上で開示されているものすべて）について、コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき、下記のとおり視聴確認をお願い致します。

コンテンツ視聴確認リスト

確認大学　：
確認期間　：平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日
確認担当者：
視聴場所(*)：
(*) 視聴確認は、各大学の PC ルーム等に設置している PC で実施してください。
視聴ブラウザ(*2)：IE (　　)、Firefox (　　)、Chrome (　　)、Safari (　　)
(*2) 括弧内に視聴ブラウザのバージョンを記入してください。

提供大学の LMS へのログインとコース登録について
☐ LMS へのシボレス認証経由のログインができた
☐ LMS 上の科目を登録（コース登録）できた
ログインやコース登録ができない場合は、できる限り詳細な状況を記載してください。

コンテンツの視聴について
☐ 開示されているすべてのコンテンツを視聴できた
☐ 視聴できないコンテンツがあった
具体的に:

記入例

コンテンツ視聴確認シート

科目名：	香川を学ぶ
提供大学：	香川大学
URI:	https://lms-sp.itc.kagawa-u.ac.jp/moodle2015/course/view.php?id=6
コース登録キー:	Study-Kagawa
コンテンツ視聴用パスワード:	設定していない

特に確認が必要な項目等
・第 2 回目に flash アニメーションで作成したコンテンツ（○○のしくみ）があるので確認願います
・flv 等の動画コンテンツは使用していないので確認不要

上記科目のコンテンツ（LMS 上で開示されているものすべて）について、コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき、下記のとおり視聴確認をお願い致します。

コンテンツ視聴確認リスト

確認大学　：徳島大学
確認期間　：平成 27 年 9 月 2 日　～　平成 27 年 9 月 4 日
確認担当者：徳島　太郎
視聴場所(*)：徳島大学情報センター内 PC ルーム
　(*) 視聴確認は、各大学の PC ルーム等に設置している PC で実施してください。
視聴ブラウザ(*2)：IE (ver.11)、Firefox (　　)、Chrome (44.0.2403.155 m)、Safari (　　)
　(*2) 括弧内に視聴ブラウザのバージョンを記入してください。

提供大学の LMS へのログインとコース登録について
■ LMS へのシボレス認証経由のログインができた
■ LMS 上の科目を登録（コース登録）できた
　ログインやコース登録ができない場合は、できる限り詳細な状況を記載してください。

コンテンツの視聴について
□ 開示されているすべてのコンテンツを視聴できた
■ 視聴できないコンテンツがあった
　具体的に：
　・第 1 回　ガイダンスにおける「ガイダンス」（動画）が再生できませんでした。
　・第 2 回 栗林公園の美と歴史における「資料」（PDF ファイル）が閲覧できませんでした。

コンテンツ視聴確認の手引き

1. 科目提供大学の科目担当教員及び分室が、開示しているすべてのコンテンツの視聴確認を入念に行ってください。
2. 科目提供大学分室において、コンテンツ視聴確認シートにおける「科目名」、「提供大学」、「URI」の項目を記入してください。科目開講大学（科目提供大学を除く）分室宛にコンテンツ視聴確認シートを送付してください。
3. 科目開講大学分室において、当該科目（コース）の URI にアクセスし、開示されているすべてのコンテンツについて視聴確認を行ってください。視聴結果を「コンテンツ視聴確認リスト」に記載し、視聴確認期限までに科目提供大学分室へ返送してください。
   - 動画については、動画の冒頭 5～10 秒間の再生ができることを確認できれば「視聴できた」と判断してください。
   - 音声のみのコンテンツについても同様に、冒頭 5～10 秒間の再生ができることを確認できれば「視聴できた」と判断してください。
   - 資料（PDF ファイル等）については、ウェブブラウザ上又は視聴確認 PC にインストールされているソフトウェアで閲覧（表示）できることを確認してください。
   - その他のコンテンツ（小テストなど）についても、ウェブブラウザ上で閲覧（表示）できることを確認してください。
4. 科目提供大学分室は、科目開講大学分室から返送されてきた「コンテンツ視聴確認リスト」を科目担当教員へ転送してください。もし視聴に問題のあるコンテンツがあった場合は、コンテンツ配信開始日までに修正してもらえるよう、科目担当教員へ合わせて連絡してください。

(3) コンテンツ視聴確認結果

徳島大学、香川大学、高知大学から提供されている平成 27 年度後期開講の知プラ e 科目について、コンテンツの視聴可否を 5 大学で相互に確認した。相互視聴確認の過程で明らかとなった問題点及びその解決法、並びに視聴確認の最終結果についてまとめた。

【徳島大学】

- 香川大学、高知大学で、メディアサイトで作成した動画コンテンツ（徳島大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が視聴できないトラブルが発生した。徳島大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを開放する対策を施した結果、解決した。
- 香川大学教育用 PC の Internet Explorer (IE) で徳島大学のコンテンツ視聴ができないトラブルが発生した。Microsoft Silverlight のバージョンや IE の設定に起因していることが判明したため、香川大学教育用 PC にインストールされている Silverlight のバージョンアップ及び IE の設定を変更してもらうことで解決した。
- 高知大学で、「モラエスの徳島」の第 3 回講義のみ視聴できないトラブルが発生した。コンテンツの容量を小さくし、再アップロードした結果、解決した。
- 愛媛大学演習室 PC の Internet Explorer(IE)で徳島大学のコンテンツ視聴ができないトラブルが発生した。演習用 PC は設定変更が困難なため、Chrome での視聴を推薦することとした。(その旨徳島大学の LMS 内に掲示する。)
- 愛媛大学演習用 PC(IE 及び Chrome)で「モラエスの徳島」の参考リンクの Flash が組み込まれたサイトが視られないトラブルがあった。PC のセキュリティ設定が原因と考えられるため、Flash 部分(写真等)については、現状のままとした。

【鳴門教育大学】

- 平成 27 年度開講科目について、徳島大学 3 科目（知の探訪、日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 -四国の収容所を中心に-、モラエスの徳島 -グローバリズムと異邦人-)、香川大学 3 科目（情報のいろは、地域コンテンツと知財管理、香川を学ぶ)、高知大学 1 科目（サイエンスリテラシーの化学）について視聴確認を行った。本事業コンテンツ開発ガイドラインに則り、PC ルームにて視聴確認を行

った結果、上記 7 科目について授業動画の再生に成功した。また、パワーポイントなどの資料のダウンロードも行うことができた。

【香川大学】

- 徳島大学提供の動画コンテンツ（徳島大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が香川大学から視聴できないことが明らかとなった。徳島大学側のファイアーウォール設定において、徳島大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを学外向けに開放してもらうことで解決した。
- 徳島大学提供 Mediasite 形式の動画コンテンツが香川大学教育用 PC の Internet Explorer（IE）で視聴ができないことが明らかとなった。Microsoft Silverlight のバージョンや IE の設定に起因していることが判明したため、香川大学教育用 PC にインストールされている Silverlight のバージョンアップ及び IE の設定を変更することで解決した。
- 香川大学提供の動画コンテンツ（香川大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が高知大学から視聴できないことが明らかとなった。高知大学側のファイアーウォール設定において、香川大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを開放してもらうことで解決した。
- 香川大学提供の動画コンテンツ（香川大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が香川大学内の一部の部局（ネットワーク）から視聴できない問題が発覚した。当該部局のファイアーウォール設定において、香川大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを開放することで解決した。

【愛媛大学】

- 徳島大学提供の動画コンテンツ（徳島大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が愛媛大学 IE で視聴できないことが明らかとなった。インストールされている Microsoft Silverlight が最新のバージョンであれば視聴可能であった。また、Microsoft Silverlight のプラグインが無い場合は、HTML5 での配信があり、どの形式でも視聴可能な状態であった。本学の演習室の PC は、Microsoft Silverlight が最新のバージョンでないため、バージョンアップをしなければ視聴することができないことが判明した。演習室の PC の Microsoft Silverlight のバージョンを変更するには、部会の審議等の手続きが必要なうえ、半年に 1 回の更新となっているため、現状視聴可能な Chrome で視聴するよう学生に通知することで解決を図った。
- 高知大学提供の一部の動画コンテンツ（TBL 紹介）が愛媛大学 IE から視聴できないことが明らかとなった。ブラウザを Chrome に変更することで解決を図った。

【高知大学】

- 徳島大学提供の「モラエスの徳島」の第 3 回目講義映像のみ視聴できなかった。徳島大学側に動画コンテンツを再アップロードしてもらうことで解決した。
- 香川大学提供の動画コンテンツが高知大学から視聴できなかった。香川大学から指定された IP アドレスに対するファイアーウォールの設定を行ったが解決しなかったため通信内容を確認したところ、指定された IP アドレスが間違っていることがわかった。実際に通信しようとしている IP アドレスに対してポートを解放することで問題が解決した。

コンテンツ視聴確認の最終結果を下表のとおり簡単にまとめた。

平成 27 年度第 2 学期（後期）　知プラ e 科目のコンテンツ視聴確認結果

科目提供大学	授業科目名	コンテンツ視聴確認大学				
		徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
徳島大学	知の探訪		問題無し	問題無し	Mediasiteコンテンツを IE では視聴不可。本学の LMS に「現在のブラウザで視聴不可の場合は、Chrome 等他のブラウザで視聴を試してください」のような一文を掲載する。	問題無し
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 －四国の収容所を中心に－		問題無し	問題無し	Mediasiteコンテンツを IE では視聴不可。本学の LMS に「現在のブラウザで視聴不可の場合は、Chrome 等他のブラウザで視聴を試してください」のような一文を掲載する。	問題無し
	モラエスの徳島 －グローバリズムと異邦人－		問題無し	問題無し	Mediasiteコンテンツを IE では視聴不可。本学の LMS に「現在のブラウザで視聴不可の場合は、Chrome 等他のブラウザで視聴を試してください」のような一文を掲載する。	問題無し
香川大学	情報のいろは	問題無し	問題無し		問題無し	問題無し
	地域コンテンツと知財管理	問題無し	問題無し		問題無し	問題無し
	香川を学ぶ	問題無し	問題無し		問題無し	問題無し
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	問題無し	問題無し	問題無し	問題無し	

2.2.5.3.　教育の質保証等検討ワーキンググループ

(1) 平成 27 年度の検討課題

教育の質保証検討 WG は、これまで、「知プラ e」事業における質保証の課題に取り組んできた。具体的には、平成 26 年度にコンテンツの設計及び、運用に関するガイドラインを作成した。

一方、高等教育における e ラーニングの活用において、質保証を考える上でマクロ的な視点と、ミクロ的な視点の両方からの検討が必要なことが明らかになってきた。平成 26 年度の質保証検討 WG の取り組みはミクロ的な視点からのアプローチであり、今後、マクロ的な観点からの質保証検討にも取り組む必要がある。本年度の課題の一つとして、マクロ的な課題への検討を挙げることとする。

また、e ラーニングの多様的な活用への対応が挙げられる。高等教育を取り巻く課題はグローバル化しており、地方国立大学もこうした潮流から無縁ではいられない。e ラーニングのグローバル化は、e ラーニング活用の多様化を生み出している。MOOCs (Massive Open Online Courses)の出現以降、インターネット接続の環境さえあれば、無償で、誰もが、世界中のどこからでも高等教育サービスを受けられるようになった。サービスのグローバル化は、押しとどめることはできない。e ラーニングによって普遍的な高等教育のサービスが提供される一方で、個人へ適応した教育への転換もすすんでいる。e ラーニングを活用することで、一斉講義のような形態から、個々の学生へ合った教育の実現が進んでいる。SPOC (Small Private Online Courses) や反転授業のような、ブレンド型の授業が広がっている。知プラ e においても、このような大きな変化を前提に、質保証をどのように継続するかの検討を始める必要がある。急速に進むグローバル化を踏まえ、e ラーニングの活用形態の多様化への対応が求められるものと考える。

(1-1) ガイドラインの改善

本質保証検討 WG では、平成 26 年度に二つのガイドラインを作成した。ガイドラインは作成すれば、それで終わりというわけではない。PDCA サイクルに基づき、継続的に改善をしなればならない。平成 27 年度は授業を実施する予定であるが、そこから課題を収集し、ガイドラインの改定へ繋げる必要がある。具体的には、本年度内に、課題点をとりまとめる予定である。

(1-2) 教育方針に基づいた科目開発

教育の質保証を考える上で、最近は、マクロ的な観点からの議論が重要視されている。各大学では教育方針、アドミッション・ポリシー (AP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、ディプロマ・ポリシー (DP) の三つのポリシーが制定され、それぞれ養成するべき人材像が規定されている。教育の質はポリシーに基づいて議論しなければならない。ある科目の達成目標が、大学の定める育成するべき人材像とずれているのでは質保証を保つことはできない。各科目の目標は教育方針と整合している必要がある。

しかし、知プラ e の提供科目は、一つの科目が同時に複数の大学へ提供されている。ある科目の目標を、同時に、五つの大学のポリシー全てと適合させることは困難である。大学毎にシラバスをかき分け、五つのシラバスを作成することは現実的ではない。科目の目標と各大学の教育方針とをどのように適合させるか検討する必要がある。

(1-3) 評価方法の改善

教育の質を向上させるためには、適切な評価が必要である。教育の質保証検討 WG では、平成 26 年度に e ラーニング授業の授業評価アンケートを試作した。対面授業の授業評価アンケートは授業改善に資する情報であり、知プラにおいても提供科目の改善のための重要な情報である。併せて、授業評価アンケート自身の改善も検討する必要がある。また、e ラーニングを用いることで、各種の情報がシステム上に蓄積される。今後、システムに蓄積した学習履歴の活用についても検討する必要がある。ラーニングアナリスティクスとして、学習に関わる各種の情報の活用が研究されており、知プラ e 事業においても、ラーニングアナリスティクスの活用の検討を始める必要がある。

(1-4) 教育の質向上のための手法について

e ラーニングを取り巻く環境は、急激に変化している。知プラ e 事業も、この変化を無視するわけにはいかない。知プラ e 事業が学生に対する教育サービスについて、一定の質を保つためにも、変化に対応する必要がある。e ラーニングの活用形態が、一挙に多様化しており、知プラ e においても、最低限の質保証を越えた質向上という観点から多様な e ラーニングの活用方法について、調査をしておく必要がある。単に手法を調べるだけではなく、試験的な科目の実施について具体的に検討する必要がある。教育の質を向上させるため、新しい形態の e ラーニングを実施するための体制を整えることは急務であり、そのための議論を始めるに遅いことはない。

(1-5) その他の検討事項

本事業を進める上で、個別の事項で、教育の質を保証するという観点から検討する必要のある事項については本 WG で検討することとした。平成 26 年度は、担当教員の指定した教科書や参考図書の整備に関する検討をおこなった。

(2) 検討スケジュール

下記の日程で各課題の検討を行った。

4 月

・WG の方向確認及び各連携大学の進捗状況確認

・前年度の授業評価アンケートの結果の収集

9 月

・授業評価アンケートの結果の検討

・授業評価アンケートの修正

12 月

・教育の質向上に関する調査

1 月
・教育の質向上に関する検討
・教育方針と科目目標に関する検討
2 月
・授業評価アンケートの実施
・ガイドライン施行に基づく課題の抽出
・ガイドラインの課題検討
・ガイドラインの課題検討
3 月
・教育の質向上に関する検討
・教育方針と科目目標に関する検討

(3) 検討の概要
(3-1) ガイドラインの改善の検討
教育の質保証検討 WG では、平成 26 年度に作成した「オンライン授業設計ガイドライン」、「オンライン授業運用ガイドライン」に関して、平成 27 年度は改訂作業をおこなう予定である。本年度は実際に授業をおこない、実施から見える現実の課題を抽出する予定である。年度末に向けて、実施から得られた検討課題を収集する。集められた課題に基づき、次年度の授業改善に向けた施策を検討するとともに、必要に応じてガイドラインを改定する予定である。

(3-2) 教育方針に基づいた科目開発の検討
現在は、知プラ e 全体として科目の目標設定に関する方針が明確ではなく、各科目の教員が個別に目標を定めているにすぎない。各大学が定める教育方針と、科目の目標との関係をどうするか、現状では明らかではない。そこで、平成 27 年度は、知プラ提供科目の目標の取り扱いについて議論を始める。 例えば、知プラ e としての教育方針を定め、知プラ e の科目はこの教育方針に従うものとすれば、整合性についての問題を回避することができる。そのためには、知プラ e のポリシーを作成する必要がある。今後、知プラ e の教育方針についての議論を進める予定である。

(3-3) 評価方法の改善の検討
平成 26 年度に授業評価アンケート様式を試作した。平成 27 年度は、この評価アンケートを実施し、回答を集める。また、アンケートの実施に伴う課題を抽出し、課題の検討をおこなう。そこから、授業評価アンケートを見直し、必要に応じて次年度に向け授業評価アンケートの改善をおこなう。また、学習履歴の活用について検討をおこなう。学習履歴の分析方法についての調査をおこなう。学習履歴からどのようなことが分かるのか、ラーニングアナリスティクスの事例の収集や、実践校への調査をおこなう。その上で、知プラ e として、学習履歴をどのように活用するかの検討を始める。

(3-4) 教育の質向上のための手法についての検討
新しい e ラーニングの活用方法についての調査をおこない、教育効果の向上について検証を進める。一方で、MOOCs 等の調査も併せておこなう。e ラーニングの活用形態は、大きく変化することが予測される。そのため、ブレンド授業での利用を想定し、これまでとは異なる活用形態での実施を始める必要がある。平成 27 年度は、反転授業等の効果の検証と、実施体制についての検討を始める。

(3-5) その他の事項の検討
5 大学連携事業で e ラーニング授業の実施に向けて、運用上 5 大学間で必要となる事項についての検討をおこなう。

(4) 成果物
オンライン授業設計ガイドライン（改訂版）及びオンライン授業運用ガイドライン（改訂版）

(5) 今後の課題
引き続きガイドラインの改善を進める。また、検討を始めた e ラーニングの活用の多様化を、一層進

める予定である。

知プラ e　質保証 WG
2014 年 8 月 25 日
第五稿【確定】

四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」　オンライン授業設計ガイドライン

１．e ラーニングコンテンツの範囲

(1) このガイドラインで取扱う「e ラーニングコンテンツ（以下、「コンテンツ」という。）」とは、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。[i, ii]

２．e ラーニングコンテンツの定義

(1) 単独で利用可能な最小単位の教材を「オブジェクト」という。[iii]

(2) 複数オブジェクトを組み合わせて構成されたコンテンツ群を「モジュール」という。１モジュールは授業１回分に相当し、次の要素を含む。

イ 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画など [iv]

ロ 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など

ハ 自主的な学修を促すためのコンテンツ：参考情報（リンク集、コラム、アドバイス）など

ニ 上記３点を含むことで、学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。

(3) 複数のモジュール、つまり授業数回分をまとめた単位を「ブロック」という。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。[v]

(4) 複数のモジュールまたは複数のブロックで１コースを構成する。１コースとは、単位付与の基準に相当する学修活動を満たすモジュール（またはブロック）群のことである。[vi]

３．成績判定

(1) モジュールに含まれる学修活動 [vii] は出席に相当する。全モジュール内の学修活動を 3 分の 2 以上 [viii] 実施・提出することで学業成績の判定要件を満たす。

(2) 成績評価はモジュールに含まれる学修活動以外の学修成果（試験・レポート・作品課題など）の組み合わせで評価する。評価対象となる試験・レポート・作品課題などは それぞれにおいて 6 割以上の点数を取得することで単位取得の最低条件とする。これによってすべての学修成果物で一定以上の成果を収めていることを確認する。

４．ｅラーニングコンテンツを用いた授業設計

(1) １科目ごとに１コースを用意する。

(2) １コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用意する。各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃えることで、学修者にとって学びやすい環境を整える。[ix]

(3) コンテンツの公開開始及び公開終了は原則としてブロック毎に定める。推奨学修期間は毎週設けるが、公開開始及び公開終了を毎週設けず、数回分のまとめ学修も可能にする。

(4) コースの導入にはシラバスを示したうえで、シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを用意する。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回用意しても良い。

イ 科目担当者によるイントロビデオ（顔を見せて動機づけをする目的に限定した短編）

ロ 授業概要（タイトル、進め方、コンテンツの利用方法、学修活動の実施方法など）

ハ スケジュール（コンテンツの公開日及び締切日、推奨学修日）

ニ 単位取得の条件（モジュール内の学修活動が出席に相当する旨、成績評価対象と基準点、基準点を満たすための最低条件）

(5) コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを用意し、学修者が任意で利用できるものとする。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか１つ以上を含む。

イ 参考情報（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）

ロ 前提知識の学修または発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ（小テスト、小レポート、電子掲示板など）[x]

ハ 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段（e メールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど）

---

[i] 知のプラットフォーム形成事業のシステム基盤を用いたとしても、共同実施ではなく、各大学が単独で実施する科目は対象外とする。

[ii] フルオンライン以外の形態の授業におけるコンテンツの利用を妨げるものではない。ただし、利用に当たってはコンテンツの著作権者の許諾の範囲において利用する。

[iii] VOD、PDF ファイル、電子掲示板が設置されていた場合は、それぞれ単独で利用することが可能なため 3 オブジェクトとみなす。複数ファイルで構成することで意味のある教材として利用できる場合は、まとめて 1 オブジェクトとみなす（たとえば複数の HTML・CSS・画像ファイルなどで構成される Web ページ）。

[iv] 具体的には、テキストファイル、VOD、PDF ファイルなど。

[v] たとえば、1 ブロックがモジュール 1～5、2 ブロックがモジュール 6～10、3 ブロックがモジュール 11～15 という 3 ブロックで構成する。

[vi] たとえば 1 単位を付与するのであれば、1 コースには 45 時間の学修活動を行うことになるだけのモジュール数を用意する。

[vii] 2. ｅラーニングコンテンツの定義(2)ロを指す。

[viii] 各大学または各学部において出席数に関する規則がある際は準拠する。

[ix] たとえば対面授業で 1 単位の授業科目 15 回で実施していた場合は、1 コースに 15 回分のモジュールを用意し、1 モジュールは 3 時間分の学修活動に相当するコンテンツを用意する。過度に負荷が高すぎたり、容易すぎたりするモジュールを用意しない。

[x] 2．ｅラーニングコンテンツの定義(2)ロとは目的が異なる。たとえば、授業内容についていけない学修者対象の基礎的な用語を覚えるための小テストや、逆に授業内容を超えた発展的な議論を行うための電子掲示板などを用意する。

知プラ e　質保証 WG
2014 年 12 月 24 日
第四稿

四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」　オンライン授業運用ガイドライン

１．e ラーニングコンテンツの範囲

(1) このガイドラインで取扱う「e ラーニング」とは、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するフルオンライン授業を指す。[i,ii]

２．e ラーニングコンテンツの定義

(1) e ラーニングコンテンツの定義は、オンライン授業設計ガイドラインに準拠する。

３．学生サポート

(1) 学生サポートとして、主に「ICT 技術支援」「学修支援」の２つの機能を置く[iii]。

(2) 情報活用技術（ICT）支援

(ア)学生に対して e ラーニングの情報活用技術（ICT）的側面の支援を行うために、テクニカルヘルプデスク（電子メール、電子掲示板等）の設置や LMS の利用マニュアルの整備等を行う。また、技術的な支援サービスへのアクセス方法を学生に周知徹底する。

(3) 学修支援

(ア)学生およそ 50 名につき 1 名の学修支援者を配置する 。学修支援者は、科目担当教員、アシスタント教員、学生チューター―などが担当する。

(イ)学修支援者は、電子メールや電子掲示板等のメッセージ機能を用いて、科目内容や学修方法等について、適宜、指導助言や対話を行う。

(ウ)学習支援者は、学生が e ラーニングで効果的に学ぶための新たな学修スキル（自己調整学習、能動的学習、協調学習など）の獲得を支援する。e ラーニングでは新たな学修スキルが必要であることを学生に周知し、コースワークへの組み込みや介入等を行う。

(エ)学修支援者は、関連リンク、オンラインデータベース等、オンラインで利用可能なリソースを学生に提示する。また、図書館にある参考文献の紹介、対面の機会など、オフラインのリソースも提供可能であれば提示する。

(オ)学修支援者は、学生がオンラインコミュニティを構築することを推奨し、支援する。

(4) その他

(ア)専門の機器や学修教材を使用する場合、オリエンテーションやグループ活動など対面で行うことに意味がある活動を含む場合、成績評価においてセキュリティ上の課題が懸念される場合などは、学生に対面での出席を要求することができる。

(イ)学生が目的のコースへたどり着けるように十分なガイドを行う。特に多数のコースがある場合は、LMS においてコースのカテゴリ化やカリキュラムマップの導入等を行う。

(ウ)学生の個人情報の取り扱い等には十分に配慮し、適切なセキュリティレベルで運用する。

4．学修支援者サポート

(1) 本章での「学修支援者」とは、3．で挙げた学生の学修支援機能にあたるすべての者（科目担当教員、アシスタント教員、学生チューター等）を言う。

(2) 学修支援者に対して e ラーニングの情報活用技術（ICT）的側面の支援を行うために、技術職員の配置やヘルプデスクの設置、LMS の利用マニュアルの整備等を行う。

(3) 学修支援者の ICT スキル向上のために、研修等を実施する。

(4) 学修支援者に対して e ラーニングの教育的側面の支援を行うために、インストラクショナルデザイナーによるコンサルディングの実施や、e ラーニング実践事例集の整備等を行う。

(5) 学修支援者の e ラーニングを用いた教育スキル向上のために、研修等を実施する。

---

[i] 知のプラットフォーム形成事業のシステム基盤を用いたとしても、共同実施ではなく、各大学が単独で実施する科目は対象外とする。

[ii] フルオンライン以外の形態の授業におけるコンテンツの利用を妨げるものではない。ただし、利用に当たってはコンテンツの著作権者の許諾の範囲において利用する。

[iii] 1 人の人材または 1 組織が 2 つの機能を担ってもよい。各機関の実情に合わせて柔軟に実現する。

[iv] 科目内容や学修者ニーズ、学修支援者の作業負荷等を考慮して、各機関において慎重に調整する。

2015/9/28　確定版

知プラ事業　授業改善アンケートの実施要領

- 目的：授業改善の参考資料とするため
- 対象者：知プラ開講科目の履修者
- 実施期間：各科目の閉講時（1 週間程度）
- 実施方法：
  - LMS（Moodle）上の各コースにフィードバックモジュールとして授業改善アンケート設置
    - 知プラとして開講する自大学のすべての科目に授業改善アンケートを設置してください
    - 必要に応じて、別添のフィードバックモジュールの xml ファイルをインポートしてください
    - 各コースの閉講 1 週間前程度にアンケートが公開されるよう、設定をお願いします
    - コーストップページの目立つ場所に設置し、コメントを添えるなど、学生へのアンケートの周知を工夫してください
    - 実際に設置作業をする担当者は、各大学で調整してください
  - 質問内容の詳細は次ページ以降参照
  - 各大学で実施されている授業評価アンケートとは別に行う
- アンケート結果の取り扱い：
  - 各大学（センター分室）で開講科目の結果を取りまとめ、質保障 WG へ報告
  - 質保障 WG で 5 大学の結果を取りまとめ、次年度の改善策などを検討
  - 質保障 WG から企画委員会へ、アンケート結果（5 大学まとめ）を報告
  - 質保障 WG から各大学のセンター分室へ、アンケート結果（5 大学まとめ）を報告
  - 各大学のセンター分室から科目担当教員へ、アンケート結果（5 大学まとめ＋担当科目の結果）を報告

【設置例】

2015/9/28　確定版

授業改善アンケート(授業の最後にお答えください。)

このアンケートは、授業に対する意見や要望を集め、授業内容・方法等の改善を行っていくためのデータを得ることを目的として実施するものです。全 29 問あり、およそ 10 分の回答時間を想定しています。アンケートのご記入をお願いします。

成績評価等について不利益になることはありません。また、個人が特定されるような情報については授業担当教員に提供しませんので、安心してご協力をお願いします。

また、個人が特定されない形で分析・研究結果を公表する可能性がありますので、あらかじめデータの引用を許諾くださるようお願いします。

I【受講に対する意識について】

質問1.　授業を受ける前にシラバスを読みましたか.
①　すべて読んだ
②　半分以上読んだ
③　軽く目を通した
④　全く読まなかった

質問2.　シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？
①　十分に理解していた
②　少し理解していた
③　目標は知っていたが理解していなかった
④　目標があることさえ知らなかった（授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった）

質問3.　授業を受ける前に授業内容に関する関心度はどうでしたか.
①　とても関心があった
②　ある程度関心があった
③　どちらでもない
④　あまり関心がなかった
⑤　全く関心がなかった

質問4.　あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？（シラバスへのリンク）
①　十分に達成できた
②　少し達成できた
③　あまり達成できなかった
④　まったく達成できなかった

II【e ラーニング授業への取り組み方に関して】

質問1. e ラーニングの授業は初めてですか。
①　初めて
②　以前に取り組んだことがある（最後まで行った）
③　以前に取り組んだことがある（最後まで行かなかった）

質問2.　学習の進め方の計画と実際の進め方について教えてください。
①　学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。
②　学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。
③　特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。
④　最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。
その他：::⑤具体的に

質問3.　学習が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。（予定通りに進んだ方は①にチェックしてください。）
①　予定通りに進んだ。
②　締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。
③　友人など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。
④　教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。
その他：::⑤具体的に

質問4.　本授業（e ラーニング）を受講した場所について、主にどこで受講しましたか.
①　大学内の PC が常設してある部屋（PC 教室、図書館など）
②　大学内の PC が常設してある部屋以外の場所
③　自宅
その他：::④具体的に

質問5.　本授業（e ラーニング）を受講した時間帯について教えてください.
①　平日の授業の空き時間
②　平日の朝や放課後（授業時間帯の前後）
③　土日や祝日
その他：::④具体的に

質問6.　この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、学習（ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む）をしましたか？数回分まとめて取り組むことが多かった場合も、できるだけ 1 週あたりに平均して答えてください.
①　4 時間以上
②　2 時間以上 4 時間未満
③　30 分以上 2 時間未満
④　30 分未満
⑤　わからない

質問7.　本授業（e ラーニング）で使用している学習支援システム（Moodle）の操作について
7-1 操作方法で迷ったりしましたか？
①　迷った
②　迷わなかった

7-2　7-1 で迷ったとお答えした方にうかがいます．迷った際、どのように解決しましたか.（複数回答可）
①　自分で解決した
②　近くにいる友人に聞いた
③　同じ科目を履修している仲間に聞いた
④　教員に聞いた
⑤　e ラーニングの授業をサポートする部署（職員）に聞いた
⑥　誰にも聞かなかった
その他：⑦具体的に

質問8.　e ラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください.

質問9.　e ラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください.

III【授業全体について】

質問1.　この授業の難易度は、適切でしたか？
①　難しすぎた
②　少し難しかった
③　適切だった
④　少し易しかった
⑤　易しすぎた

質問2.　この授業の学習量は、適切でしたか？
①　学習量が多すぎたので、減らすべきである
②　学習量は多いが、減らす必要はない
③　どちらともいえない
④　学習量は少ないが、増やす必要はない
⑤　学習量が少なすぎるので、増やすべきである

質問3.　教材についてお聞きします．次の教材は学習目標に到達する上で有効でしたか？
(5. 非常に有効だった、4. 有効だった、3. あまり有効ではなかった、2. まったく有効ではなかった、1. 教材としては提供されたが使用しなかった、0. 教材として提供されなかった)

1	視聴覚教材（ビデオ等）	5	4	3	2	1	0
2	教科書・参考書や配布資料	5	4	3	2	1	0
3	紹介された参考リンク（インターネット上の情報源）	5	4	3	2	1	0
4	クイズ（小テスト）	5	4	3	2	1	0
5	掲示板（フォーラム）における受講者同士のディスカッション	5	4	3	2	1	0

質問4.　この授業の Moodle 上の説明（例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示）は、わかりやすかったですか？
①　非常にわかりやすかった
②　わかりやすかった
③　わかりにくかった
④　非常にわかりにくかった

質問5.　授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？
①　非常に工夫されていた
②　工夫されていた
③　あまり工夫されていなかった
④　まったく工夫されていなかった

質問6.　この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によってどのように変わりましたか？
①　非常に強くなった
②　少し強くなった
③　ほとんど変わっていない
④　以前よりも弱くなった

質問7.　全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？
①　非常に有意義だった
②　有意義だった
③　あまり有意義ではなかった
④　まったく有意義ではなかった

質問8.　この授業を、友人や後輩にお勧めしたいですか？
①　非常に勧めたい
②　まあまあ勧めたい
③　あまり勧めたくない
④　まったく勧めたくない

【その他】

質問1.　この授業について、良かった点を、具体的にお書きください.

質問2.　この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください.

質問3.　個人が特定されない形で公表される分析・研究結果におけるデータの引用を許諾いただけますか？*
①　許諾する
②　許諾しない

平成 27 年度　知プラ科目アンケート報告

１）実施概要
平成 27 年度に開講した以下の科目について、履修者を対象に Moodle 上で科目の改善を目的としたアンケートを実施した。実施期間は各科目終了後、1 か月程度である。またアンケートは匿名で実施した。

開講大学	科目名	回答者数	承諾者数
香川大学	香川を学ぶ	125 名	115 名
	地域コンテンツと知財管理	32 名	29 名
	情報のいろは	11 名	9 名
徳島大学	知の探訪	3 名	3 名
	モラエスの徳島	1 名	1 名
	気象災害を防ぐ	1 名	1 名
	地震・火山災害を防ぐ	2 名	2 名

２）アンケート結果（主なコメント）

＜よかった点（自由記述）＞

- 香川を学ぶ：講義内容（香川について学べたなど）、いつでもどこでも自己ペースで学べる、など。
- 地域コンテンツと知財管理： 説明が分かりやすいという意見が多い。
- 情報のいろは：「講師の授業進行が非常に人を引き付け、又、不明な個所のメールを送った際、質問に対するレスポンスが早く、よい授業だと感じた。」
- 知の探訪：講義内容（自分の知りたい内容の講義を、初学者の段階で概要だけでも知ることができた）
- 地震・火山災害を防ぐ：テスト日程がほかの授業とずれている、講義動画の隣に資料がある
- 気象災害を防ぐ： 回答なし
- モラエス：回答なし

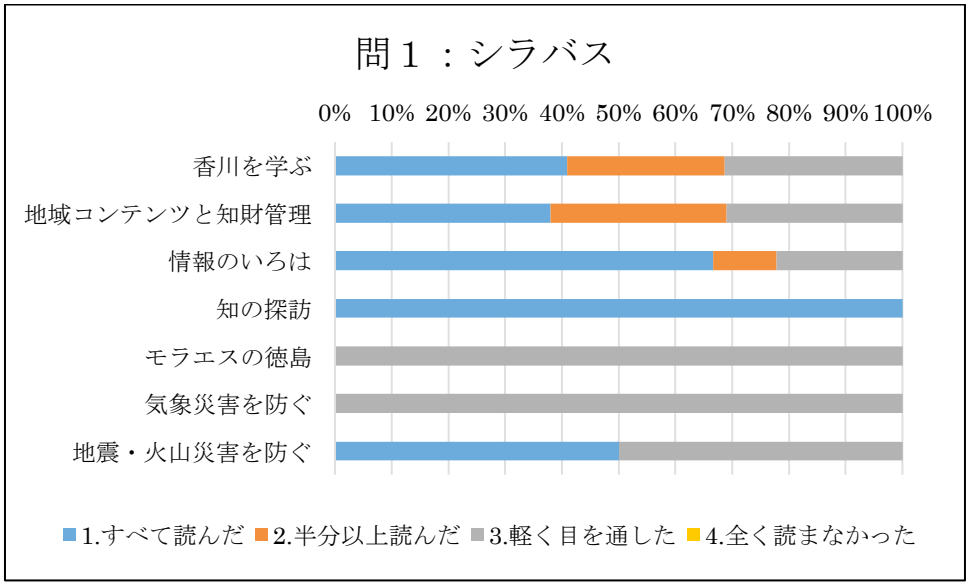
＜改善要望（自由記述）＞

- 香川を学ぶ：音質の改善要望が多数。
- 地域コンテンツと知財管理：特になしが多い。しいていえば、授業時間を一定に、小テストの解説を丁寧に、など。
- 情報のいろは：「工学的な要素が強く、理系ではないと理解に苦しむところも多々あった。浮動小数点やビットシフトの回など。」など、基礎的内容の解説の要望が 2 件。応用的内容の追加要望が 1 件。
- 知の探訪：ビデオが長すぎる
- 地震・火山災害を防ぐ：試験に関する説明の追加、ビデオ内容の訂正
- 気象災害を防ぐ：ビデオの文字が読み取りにくい
- モラエス：回答なし

３）アンケート結果詳細

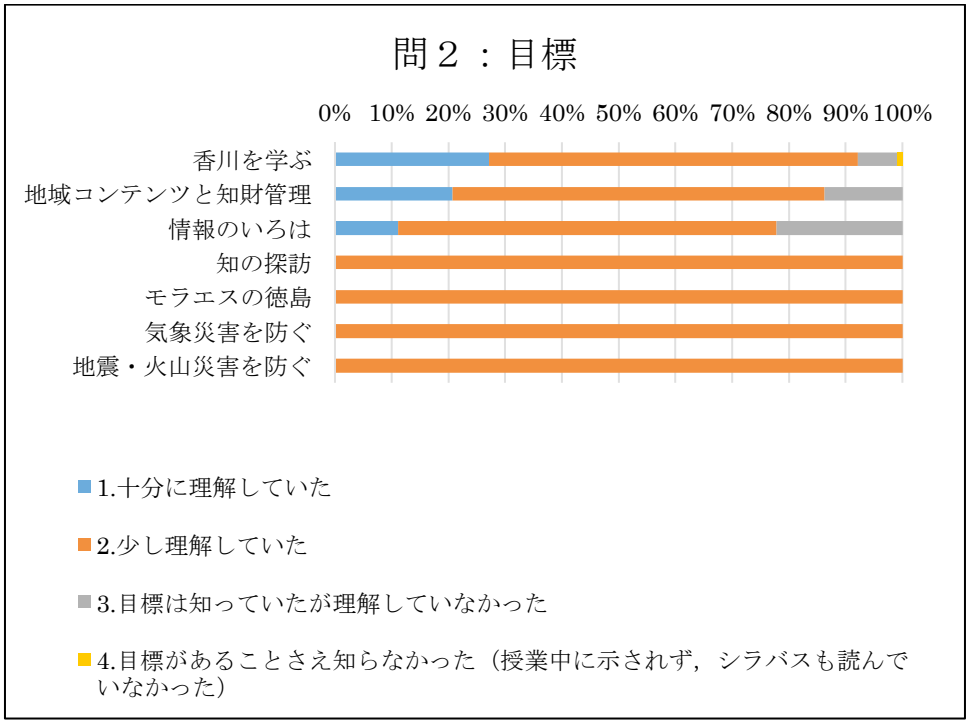
問 1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか？

	1.すべて読んだ	2.半分以上読んだ	3.軽く目を通した	4.全く読まなかった
香川を学ぶ	47	32	36	0
地域コンテンツと知財管理	11	9	9	0
情報のいろは	6	1	2	0
知の探訪	3	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	1	0	1	0



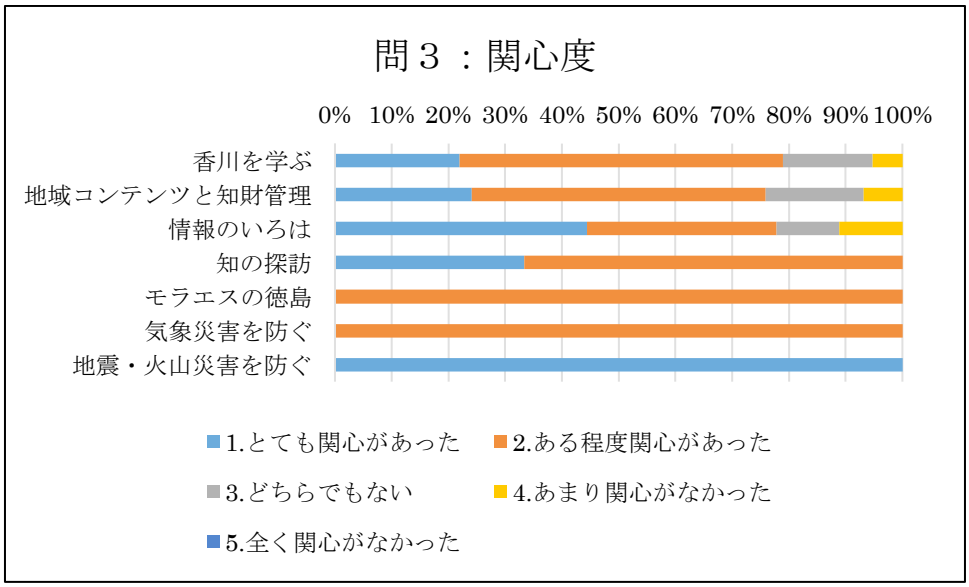
問 2.　シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？

	1.十分に理解していた	2.少し理解していた	3.目標は知っていたが理解していなかった	4.目標があることさえ知らなかった（授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった）
香川を学ぶ	31	74	8	1
地域コンテンツと知財管理	6	19	4	0
情報のいろは	1	6	2	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0



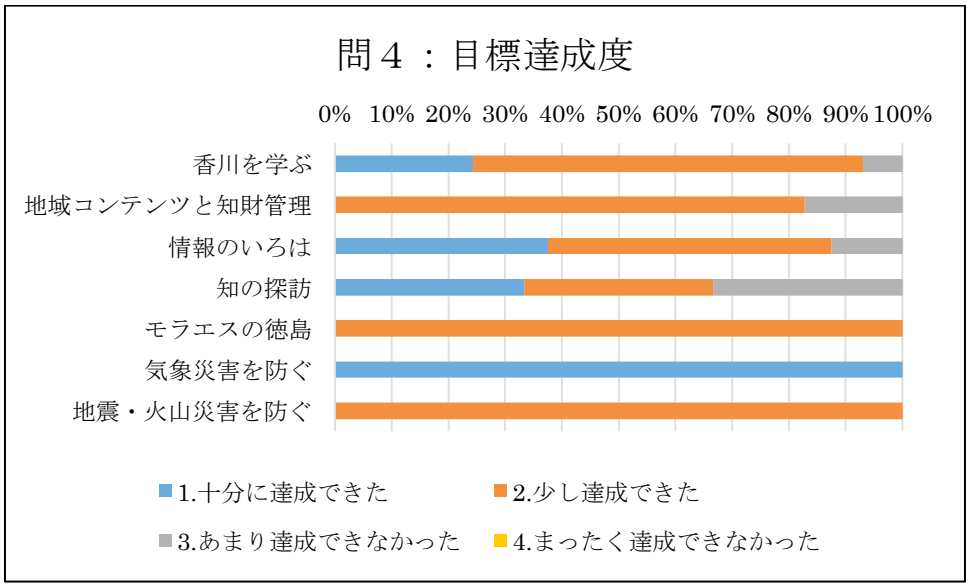
問 3. 授業を受ける前の関心度はどうでしたか？

	1.とても関心があった	2.ある程度関心があった	3.どちらでもない	4.あまり関心がなかった	5.全く関心がなかった
香川を学ぶ	25	65	18	6	0
地域コンテンツと知財管理	7	15	5	2	0
情報のいろは	4	3	1	1	0
知の探訪	1	2	0	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	2	0	0	0	0



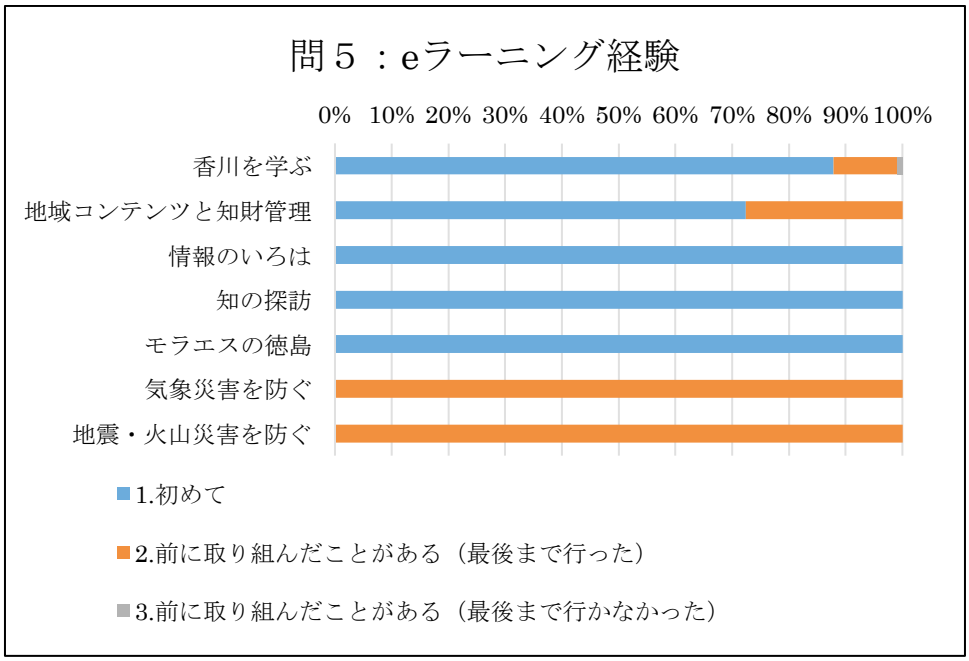
問 4. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？

	1.十分に達成できた	2.少し達成できた	3.あまり達成できなかった	4.まったく達成できなかった
香川を学ぶ	28	79	8	0
地域コンテンツと知財管理	0	24	5	0
情報のいろは	3	4	1	0
知の探訪	1	1	1	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0



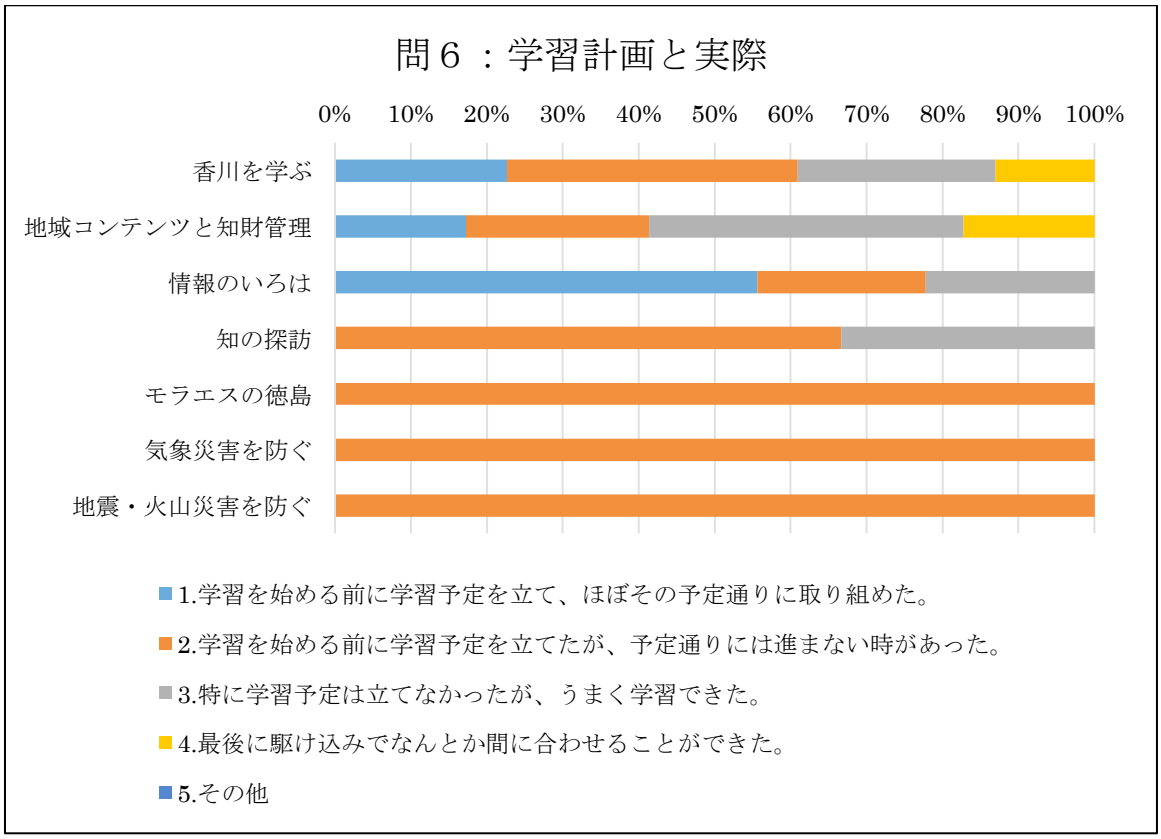
問 5.　e ラーニングの授業は初めてですか？

	1.初めて	2.前に取り組んだことがある（最後まで行った）	3.前に取り組んだことがある（最後まで行かなかった）
香川を学ぶ	101	13	1
地域コンテンツと知財管理	21	8	0
情報のいろは	9	0	0
知の探訪	3	0	0
モラエスの徳島	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0



問 6. 学習予定の立案と実際の進め方について教えてください。

	1.学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。	2.学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。	3.特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。	4.最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。	5.その他
香川を学ぶ	26	44	30	15	0
地域コンテンツと知財管理	5	7	12	5	0
情報のいろは	5	2	2	0	0
知の探訪	0	2	1	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0

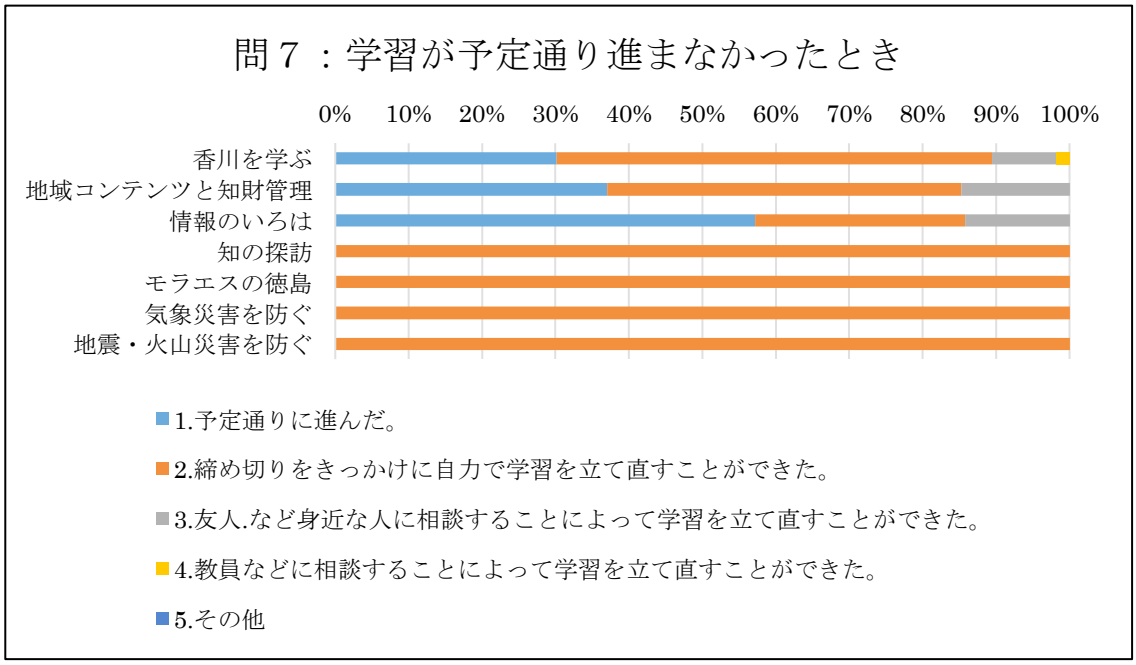


上記で、5.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

回答なし

問 7. 学習が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。（予定通りに進んだ方は 1.にチェックしてください。）

	1.予定通りに進んだ。	2.締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。	3.友人.など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。	4.教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。	5.その他
香川を学ぶ	34	67	10	2	0
地域コンテンツと知財管理	10	13	4	0	0
情報のいろは	4	2	1	0	0
知の探訪	0	3	0	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0

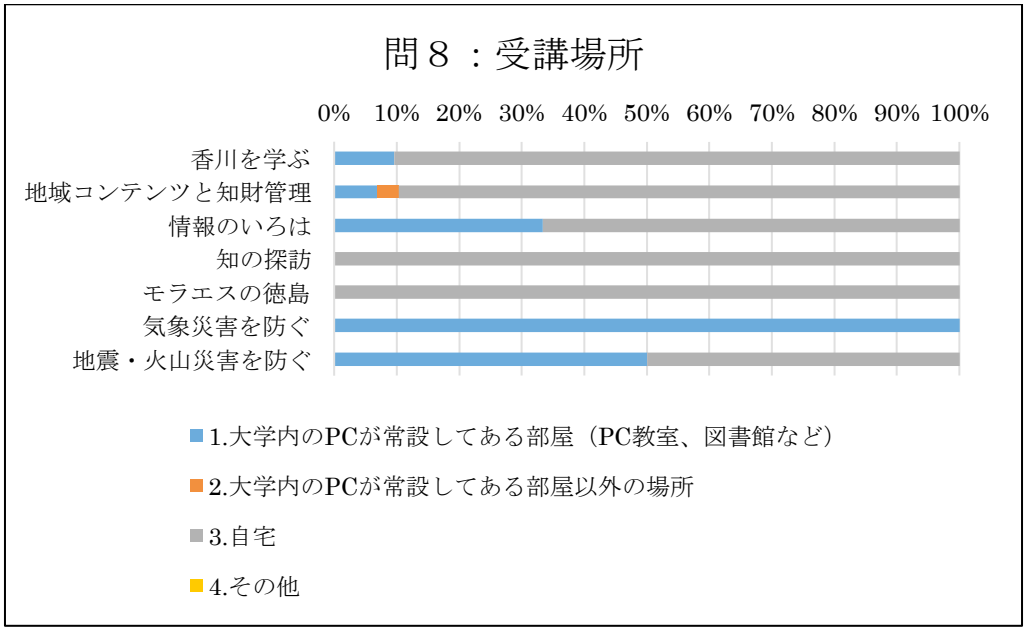


上記で、5.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

回答なし

問 8. 本授業(e-ラーニング)を受講した場所について、主にどこで受講しましたか？

	1.大学内の PC が常設してある部屋（PC 教室、図書館など）	2.大学内の PC が常設してある部屋以外の場所	3.自宅	4.その他
香川を学ぶ	11	0	103	0
地域コンテンツと知財管理	2	1	26	0
情報のいろは	3	0	6	0
知の探訪	0	0	3	0
モラエスの徳島	0	0	1	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	0	1	0

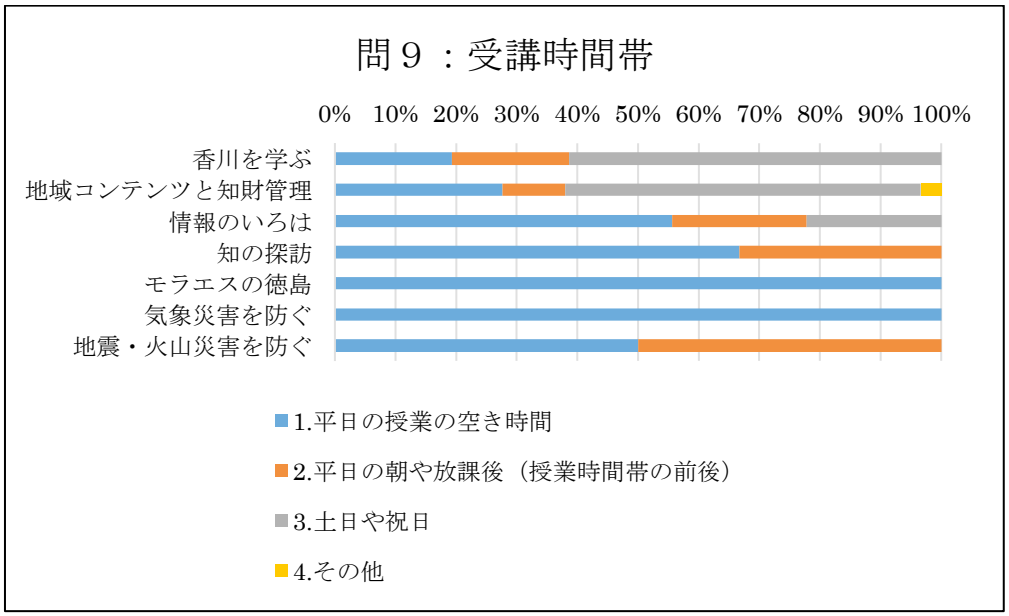


上記で、4.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

回答なし

問 9. 本授業（e ラーニング）を受講した時間帯について教えてください。

	1.平日の授業の空き時間	2.平日の朝や放課後（授業時間帯の前後）	3.土日や祝日	4.その他
香川を学ぶ	22	22	70	0
地域コンテンツと知財管理	8	3	17	1
情報のいろは	5	2	2	0
知の探訪	2	1	0	0
モラエスの徳島	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0

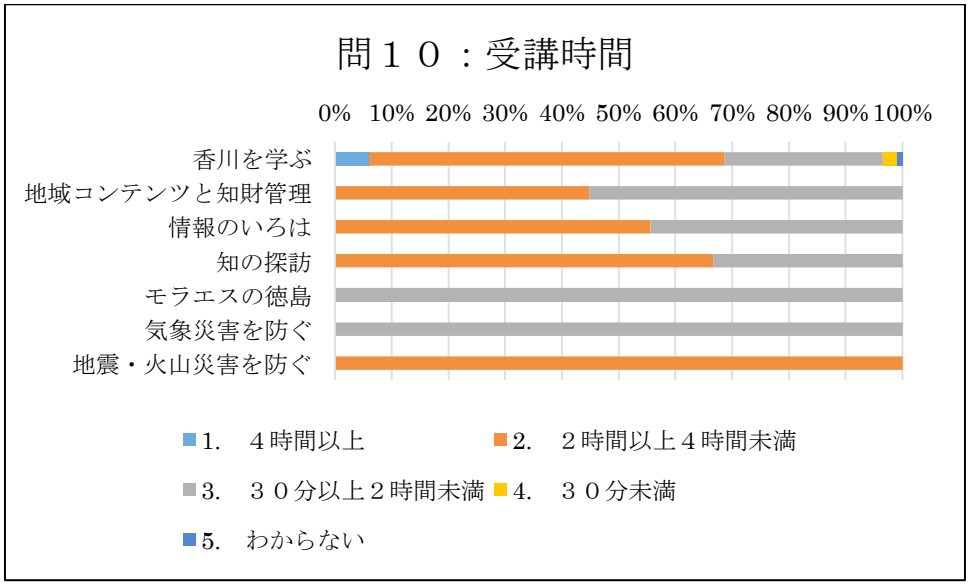


上記で、4.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

地域コンテンツと知財管理　回によってばらばら

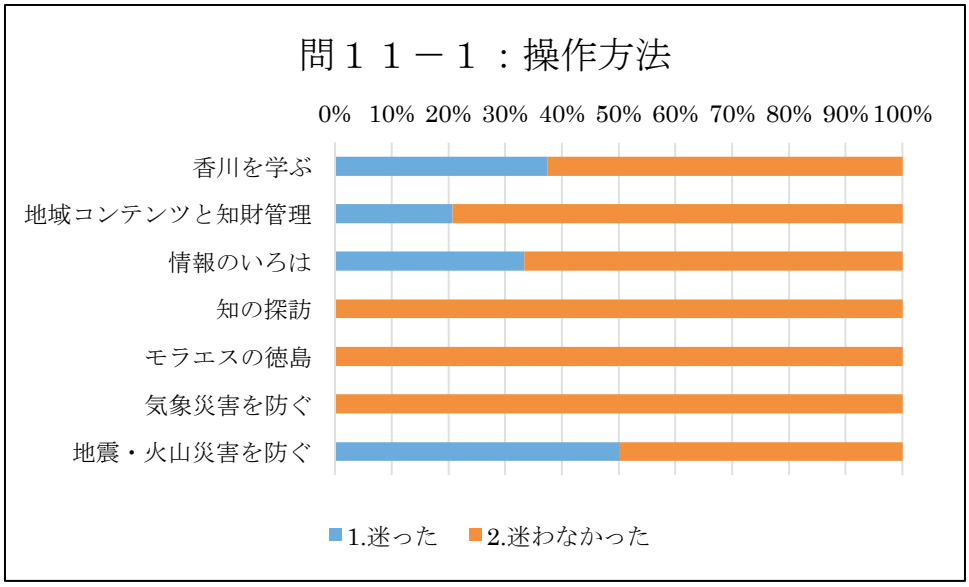
問 10. この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、学習（ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む）をしましたか？数回分まとめて取り組むことが多かった場合も、できるだけ 1 週あたりに平均して答えてください。

	1. 4 時間以上	2. 2 時間以上 4 時間未満	3. 30 分以上 2 時間未満	4. 30 分未満	5. わからない
香川を学ぶ	7	72	32	3	1
地域コンテンツと知財管理	0	13	16	0	0
情報のいろは	0	5	4	0	0
知の探訪	0	2	1	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0



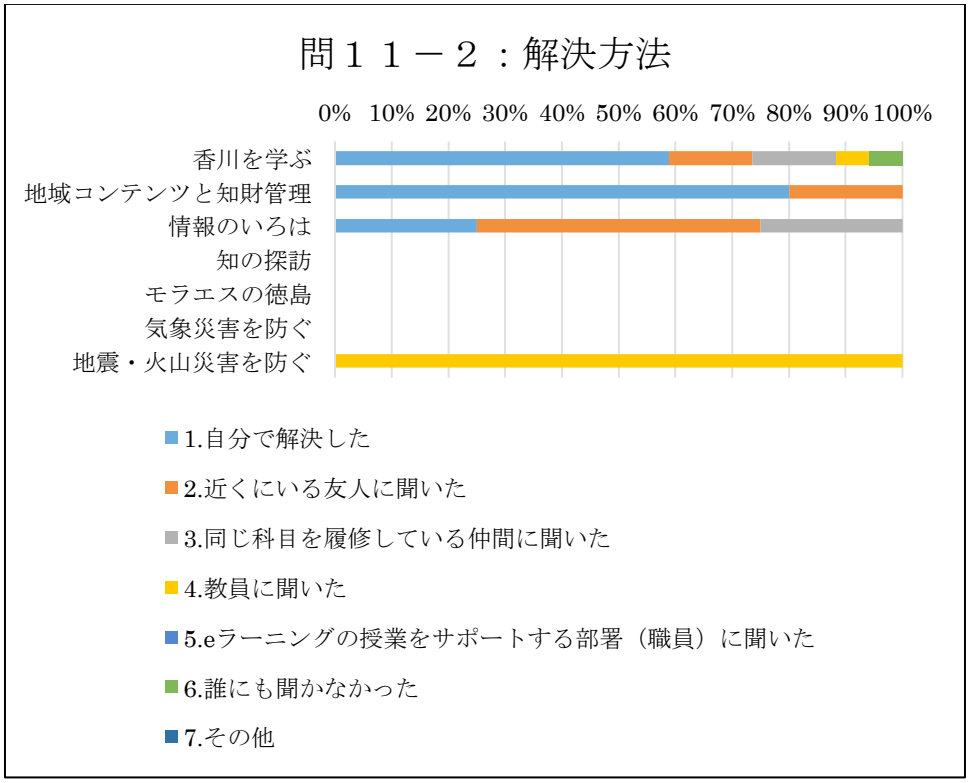
問 11-1. 操作方法で迷ったりしましたか？

	1.迷った	2.迷わなかった
香川を学ぶ	43	72
地域コンテンツと知財管理	6	23
情報のいろは	3	6
知の探訪	0	3
モラエスの徳島	0	1
気象災害を防ぐ	0	1
地震・火山災害を防ぐ	1	1



問 11-2. 上記で、迷ったとお答えした方にうかがいます。迷った際、どのように解決しましたか？（複数回答可）

	1.自分で解決した	2.近くにいる友人に聞いた	3.同じ科目を履修している仲間に聞いた	4.教員に聞いた	5.eラーニングの授業をサポートする部署（職員）に聞いた	6.誰にも聞かなかった	7.その他
香川を学ぶ	20	5	5	2	0	2	0
地域コンテンツと知財管理	4	1	0	0	0	0	0
情報のいろは	1	2	1	0	0	0	0
知の探訪	0	0	0	0	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	0	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	0	0	1	0	0	0



上記で、7.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

回答なし

問 12．e ラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください。

香川を学ぶ	空き時間にネットがつながる所であればどこでも出来る点
香川を学ぶ	自分の都合に合わせて何回かに分けて、授業が受けられる。
香川を学ぶ	いつでも受けることができる。
香川を学ぶ	自分の都合の良い時に授業を受けることができる
香川を学ぶ	自分のペースで学習を進められる点。
香川を学ぶ	私は実家生で、家から学校まで通うのに少し時間がかかるので、自宅でも授業が受けられるというのはとても助かりました。
香川を学ぶ	普段の授業とは違い自分の好きな時間に開始できること、また、聞き逃した部分も何度も聞き返すことができる点。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強することができること。
香川を学ぶ	授業を受ける前は、この授業は簡単に終わらせられると思っていたが、授業後の課題設定の難易度がちょうどよく、実際はどの授業よりも真剣に取り組まなくてはならなかった。結果として、よかったと思う。
香川を学ぶ	自分の都合に合わせて講義が受けられる点。
香川を学ぶ	自分の好きな時に受けることが出来る。
香川を学ぶ	都合のいい時に受けることができる
香川を学ぶ	自宅で受けられるため、時間に束縛されることなく計画的に授業が受けられること。
香川を学ぶ	理解できない時に、もう一度見ることができます。
香川を学ぶ	いづでも繰り返し学習できる。
香川を学ぶ	自宅で観られる。マリン通にはありがたかった。好きな時間に利用できる。
香川を学ぶ	いつでもどこでも学習できる
香川を学ぶ	あいている時間にできるところ
香川を学ぶ	聞き逃したところを聞き返すことがてきるところが良い点だと思いました。
香川を学ぶ	自宅で行える点。
香川を学ぶ	自分のペースで授業が進められる。
香川を学ぶ	自分のペースで学習ができ、自主的に取り組まなければついていけないので、自ずと自主性が出てくる点。
香川を学ぶ	自宅で学習することができる。
香川を学ぶ	何度も気になったところを再生できる点
香川を学ぶ	いつでもできた
香川を学ぶ	家でできる点。
香川を学ぶ	いつでも受講できる。
香川を学ぶ	他県から来た大学生にその県について様々な視点で知ることができる。
香川を学ぶ	いつでも、自分の都合のつく時間に受講できること
香川を学ぶ	いつでも授業を受けることができること。
香川を学ぶ	自分のやりたい時間にできること。
香川を学ぶ	自分の都合のよい時間に講義を受けることができ、わからない部分は一度停止して調べながら講義を受けられる点。
香川を学ぶ	いつでもどこでも好きな時にできる。何回でも聞き直すことできる。
香川を学ぶ	自分の空いた時間に出来るし、寝坊して授業に遅刻という事態には必ずならないこと。
香川を学ぶ	自分のペースで学習を進められる点。
香川を学ぶ	時間に囚われずに学習できる点
香川を学ぶ	一回で聞き取ることができなかった部分を巻き戻して、何度でも視聴できる点。
香川を学ぶ	自分が学びたいときに学ぶことができる。
香川を学ぶ	家でできるので勉強する時間をゆっくりとれるし、聞き逃したところはもう一度巻き戻して聞くことができるところはいいと思う
香川を学ぶ	自分の空いている時間でできる。

香川を学ぶ	何度でも聞き直せる点。
香川を学ぶ	自宅で授業を受けられる。
香川を学ぶ	私は工学部２年なので本学に行く手間が省ける自分のペースで受講できる。
香川を学ぶ	いつどこでも時間があればすることができる
香川を学ぶ	いつでも都合のよい時間帯に視聴が可能である点。
香川を学ぶ	好きな時に受講できる。
香川を学ぶ	どんな場所でも受けられる。
香川を学ぶ	自宅で学習できる点
香川を学ぶ	自宅で自分の時間に合わせて学習できる
香川を学ぶ	授業の時間帯を自分で設定できるところ
香川を学ぶ	いつでも受講可能な点
香川を学ぶ	自宅で勉強できる。学習する時間を自由に決められるので、時間を有効に使うことができる。何度でも講義が受けられる。香川大学であれば、本学以外のキャンパスからだと本学にいかなくていいので日々の負担が減る。
香川を学ぶ	時間を見つけて自分の好きな時に受講できるところ
香川を学ぶ	都合のよい時間に学習することができる
香川を学ぶ	各々の都合のいい時間に学習できる。
香川を学ぶ	何度も見ることができるので、普段の授業よりも内容を理解しやすいと思う。
香川を学ぶ	自分のスケジュールに合わせて講義を受けることができる点
香川を学ぶ	自宅で空いた時間に受講することが出来る。
香川を学ぶ	視覚的効果が強く、何度でも視聴を繰り返すことができる点。
香川を学ぶ	自分のペースですることができる。
香川を学ぶ	自分のペースでできるところ。
香川を学ぶ	いつでも受講できる点。
香川を学ぶ	何度でも再生ができるので聞き逃してしまうことが少ない。
香川を学ぶ	いつでも授業を受けられること。
香川を学ぶ	好きな時に受けられる
香川を学ぶ	自分がやりたいと思った時間に授業を受けられたり、分割して見られたりする点。
香川を学ぶ	好きな時間での受講が可能。集中して取り組むことができる。
地域コンテンツと知財管理	映像を繰り返し視聴することが出来る点。
地域コンテンツと知財管理	いつでも何度でも学習できる。
地域コンテンツと知財管理	時間、場所に縛られず、自宅で出来る点。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時間に視聴できる
地域コンテンツと知財管理	自分の都合のいい時間に学習できる点。 分からないことがあっても、その場でスマホやパソコンで調べられる点。
地域コンテンツと知財管理	何回も動画を再生できるところ。
地域コンテンツと知財管理	自宅で自分の好きな時に受講できる。
地域コンテンツと知財管理	自分の都合のいい時に授業が受けられるところ
地域コンテンツと知財管理	何回でも巻き戻ったり、過去の回を見直せる点

地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時間に取り組める点、聞き取れなかった部分を繰り返し聞くことができる点。
地域コンテンツと知財管理	どこでも学習できる点。視聴覚効果が生かされている点。時間に制約がない点。
地域コンテンツと知財管理	空いている時間を見つけて自由度の高い学習ができる。
地域コンテンツと知財管理	自宅で好きなときにできる
地域コンテンツと知財管理	一つ目は自分の好きなタイミングで受けることができるところ。二つ目は動画を途中で止めることができるところ。
情報のいろは	空き時間で受講ができるので、仕事をしながらでもやりやすい
情報のいろは	自分の都合の良い時間に授業を受けられる点がとてもよかった。また、うまく聞き取れなかった場合や、理解できなくて、もう一度聞きたい時など、何回でも繰り返して聞くことができる点もよかったと思う。
情報のいろは	空いている時間を有効活用できるし、分からないところを何度でも見返せるので、便利だと感じた。社会人の場合、土日祝日が基本的に休みなので、じっくりと取り組むことができる。
情報のいろは	わざわざ大学に行かなくて済みますし、提出期限までに課題を提出すればいいので課題を行う予定が組みやす所がいいと思います。
情報のいろは	繰り返し聞くことができ、また、周りに生徒がいないので、気を遣わずに自分のペースでできる点。
情報のいろは	自分の都合が良い時に、学習できるのが便利だと思います。そして、何回も授業を聞き直すことができるので、復習がしやすいです。
モラエスの徳島	実際に講義を受ける場所を自分で決めたり、自分のペースで学習を進めることができること。
知の探訪	あらゆる専門分野のスペシャリストの講師の先生方のお話がきけるめったにない機会であるところはこの授業での良い点だと思う。
知の探訪	自分のペースで学習できる点。分からないところや興味のあるところを繰り返し聞くことができる点
地震・火山災害を防ぐ	いつでもできる

問 13. e ラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください。

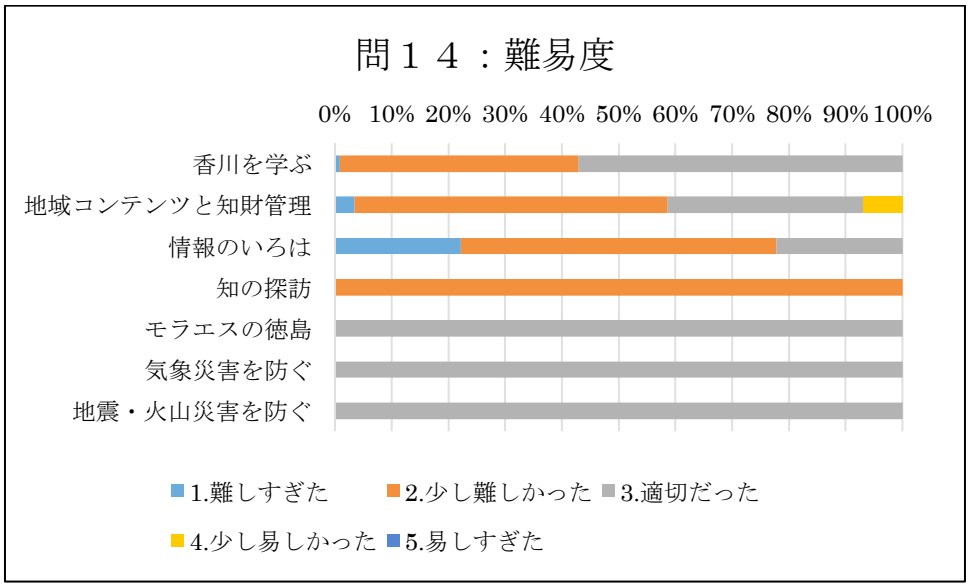
香川を学ぶ	聞き取りづらいところがある点
香川を学ぶ	音が聞こえにくいことがある。
香川を学ぶ	声の聞き取りと画質の悪さ
香川を学ぶ	時々、講師の方の声が聞き取りづらい点。
香川を学ぶ	個人的な意見で申し訳ないですが、自宅で視聴することが多かったので、集中力があまり続かずに、だらだらと時間を過ごしてしまいがちでした。家で９０分ずっと集中してＶＴＲを見続けるのは少し厳しかったです。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強することができるので、計画をしっかりと立てないと後で困ってしまう。
香川を学ぶ	声が聞き取りにくい授業が時々あった。（第五回）
香川を学ぶ	特に難しいと思うことはなかったが、双方向の授業でないために生じる問題はあると思う。
香川を学ぶ	音声が悪く聞くとりにくい。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	臨場感が伝わらない。
香川を学ぶ	ちゃんと時間取らないとできません。例えば、平日見る時間がないので、いつ見ればいいなど。

香川を学ぶ	サボると後々大変。
香川を学ぶ	自宅にいるので集中力がなかなか続かない。音声が聞き取りにくいとやりづらい。
香川を学ぶ	対応できる電子機器がないとみられない。
香川を学ぶ	自主的にやる必要があること
香川を学ぶ	最初パソコンに慣れていない人には時間を要するという点。
香川を学ぶ	聞き取りづらい場面が多々あった点。
香川を学ぶ	たまに聞き取りが難しい。
香川を学ぶ	忙しい時期は、思うように学習時間が確保できず、締め切りを誤って覚えていたり、忘れたりすると、提出に間に合わない点。困ったことがあっても、直接先生方に相談できない点。スクリーンに映し出される文字が見えにくいときや、声が聞き取りにくいときがある。疑問があっても、直接その授業の担当教員に質問できない点。
香川を学ぶ	授業の質問事項への対応
香川を学ぶ	聞き取りづらいこと、言っていることを漢字であらわせられないことがある
香川を学ぶ	音声が不明瞭なことがある点。PC がないと勉強できない点。
香川を学ぶ	映像において、話している人の声が聞き取りづらいこと。
香川を学ぶ	いつかやればいいという意欲の低下につながることもあること
香川を学ぶ	動画再生画面の拡大ができないため、黒板が見づらいこと。
香川を学ぶ	パソコンがうまく動いてくれないとき、思うように学習が進まないこと。
香川を学ぶ	なかなか計画通りに進まず、締切りギリギリになってしまうことが数度あった。
香川を学ぶ	教授に質問すること。
香川を学ぶ	たまに聞き取りづらいことがある。
香川を学ぶ	特にない。
香川を学ぶ	直接教員との意思疎通が図れない点
香川を学ぶ	音声が乱れていたり、雑音が入ったりすると、声が聞こえにくくなってしまう点。
香川を学ぶ	聞き取りにくいことが多少ある。
香川を学ぶ	まわりの雑音などが映像に入ってると、声がとても聞き取りにくい。そして、話してる人も声が小さいと尚更である。編集でボリュームを変えてほしい。
香川を学ぶ	パソコンが苦手な人はパソコン操作。
香川を学ぶ	学校で受ける授業時間以上の時間がかかってしまうこと。
香川を学ぶ	決められた時間ではないので気をつけていても予定通りできない時がある。
香川を学ぶ	自主性が無いといけないのでモチベーションの維持が難しい
香川を学ぶ	することを忘れてしまうことがある。
香川を学ぶ	e ラーニングにおいて難しいと思う点は、特にないと思います。
香川を学ぶ	やり遂げようという意志がないと続かない。
香川を学ぶ	言っていることが理解できない点。
香川を学ぶ	講義の映像に集中できない点
香川を学ぶ	毎回の課題が大きい。ビデオ、レポート作成まで含めると一つの講義の時間一時間半を大幅に超える。
香川を学ぶ	聞き取りにくい所が多い。あと、レジュメが手書きだと読み取れなかったり授業を理解したくても出来ない回が多々あった。
香川を学ぶ	過去の講義が多いため情報が古いことがある点。聞き取りにくいことがある点。
香川を学ぶ	音が聞きづらすぎることがある
香川を学ぶ	講義を受講した後に自分でその内容をまとめるところ
香川を学ぶ	打ち込んでいたものがすべて消えてしまったときに修復ができないところ。
香川を学ぶ	たまに音声が悪いことがあり、聞き取りにくい点
香川を学ぶ	音声が聞き取りづらいことがある。
香川を学ぶ	雑音が入るととても聞き取りづらい。専門用語を口頭で言われると漢字等が分かりづらい。
香川を学ぶ	ときどき聞き取れないときがあった。

香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	集中力の持続
香川を学ぶ	雑音が入ってしまって聞こえにくいこともある。
香川を学ぶ	いつでも受けられるので授業を忘れてしまうことがある。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	途中自分のパソコンが壊れ、学校のパソコンでしようと思ったが、休日のためパソコンルームが使用できなかった。
香川を学ぶ	聞き取りにくい箇所がある
地域コンテンツと知財管理	特にありません。
地域コンテンツと知財管理	後回しにするとつらくなる。
地域コンテンツと知財管理	わからないところをリアルタイムで聞けない点。
地域コンテンツと知財管理	決まった時間の縛りが無いためルーズになる
地域コンテンツと知財管理	質問をするのに抵抗があった。
地域コンテンツと知財管理	慣れてきたら学習意識を維持することが難しい。
地域コンテンツと知財管理	学習計画を自分で守ならければならないこと
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	即座な質疑応答
地域コンテンツと知財管理	進捗状況が個人のやる気に大きく依存する。
地域コンテンツと知財管理	たまに受講を忘れた
地域コンテンツと知財管理	祝日などで授業がない週にも動画が配信されていて、それに気付けなかったところ。
情報のいろは	ハンドアウトとの兼ね合いが少し難しい
情報のいろは	対面ではないため、疑問に思った時に直接質問できない点に不便さを感じる時があった。
情報のいろは	夜間主なので、１日に２コマ進むため、１日に２回分のレポートを提出しなければならないので、大変だった。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	パソコンがないと受講できない。（当たり前ですが。）
知の探訪	専門知識がない段階での講義内容の理解は難しいと思う。
知の探訪	自分でスケジュール管理をしなければいけないので、継続がむずかしい点
地震・火山災害を防ぐ	締切りギリギリになってしまう

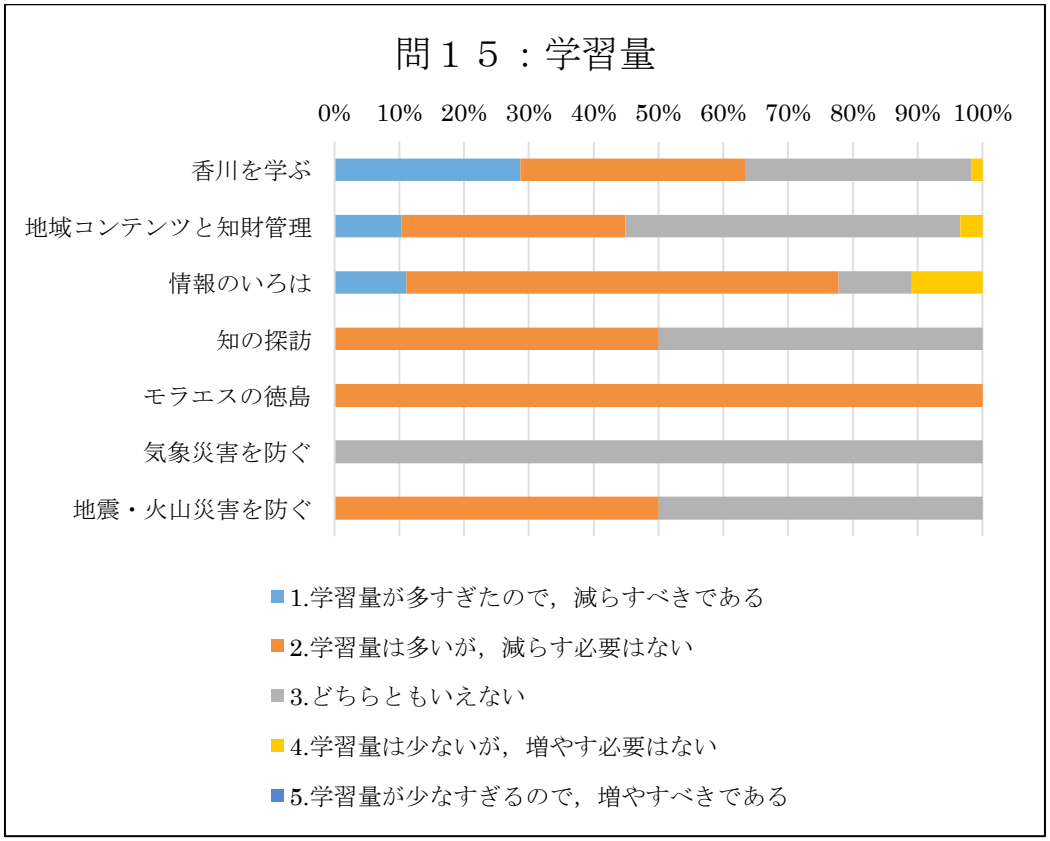
問 14. この授業の難易度は、適切でしたか？

	1. 難しすぎた	2. 少し難しかった	3. 適切だった	4. 少し易しかった	5. 易しすぎた
香川を学ぶ	1	48	65	0	0
地域コンテンツと知財管理	1	16	10	2	0
情報のいろは	2	5	2	0	0
知の探訪	0	3	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	0	2	0	0



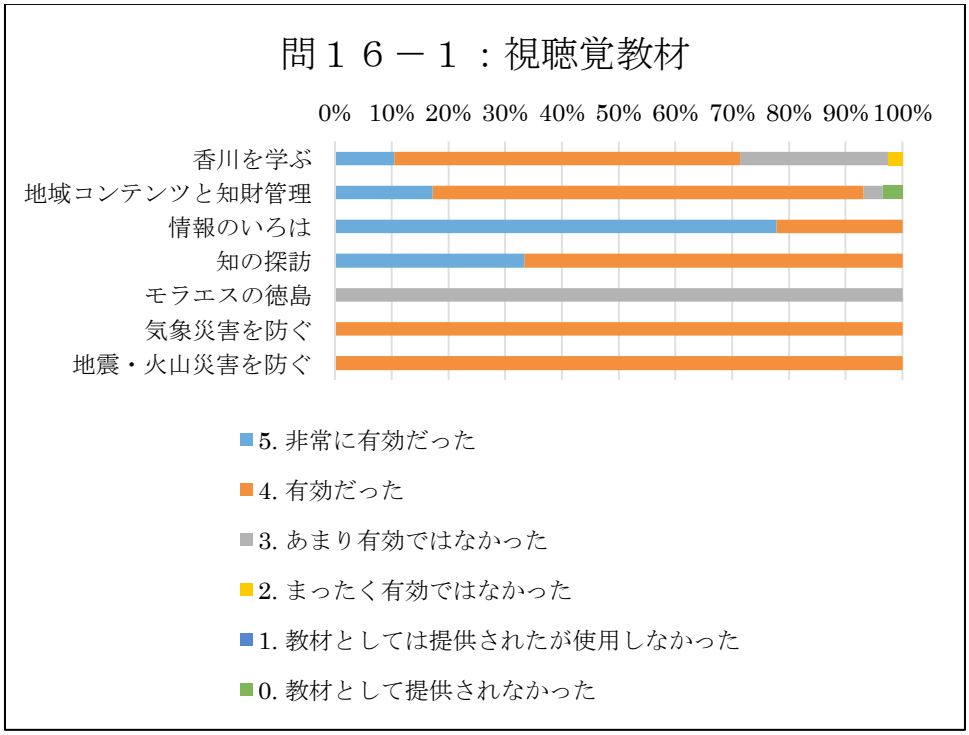
問 15. この授業の学習量は、適切でしたか？

	1. 学習量が多すぎたので、減らすべきである	2. 学習量は多いが、減らす必要はない	3. どちらともいえない	4. 学習量は少ないが、増やす必要はない	5. 学習量が少なすぎるので、増やすべきである
香川を学ぶ	33	40	40	2	0
地域コンテンツと知財管理	3	10	15	1	0
情報のいろは	1	6	1	1	0
知の探訪	0	1	1	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	1	1	0	0



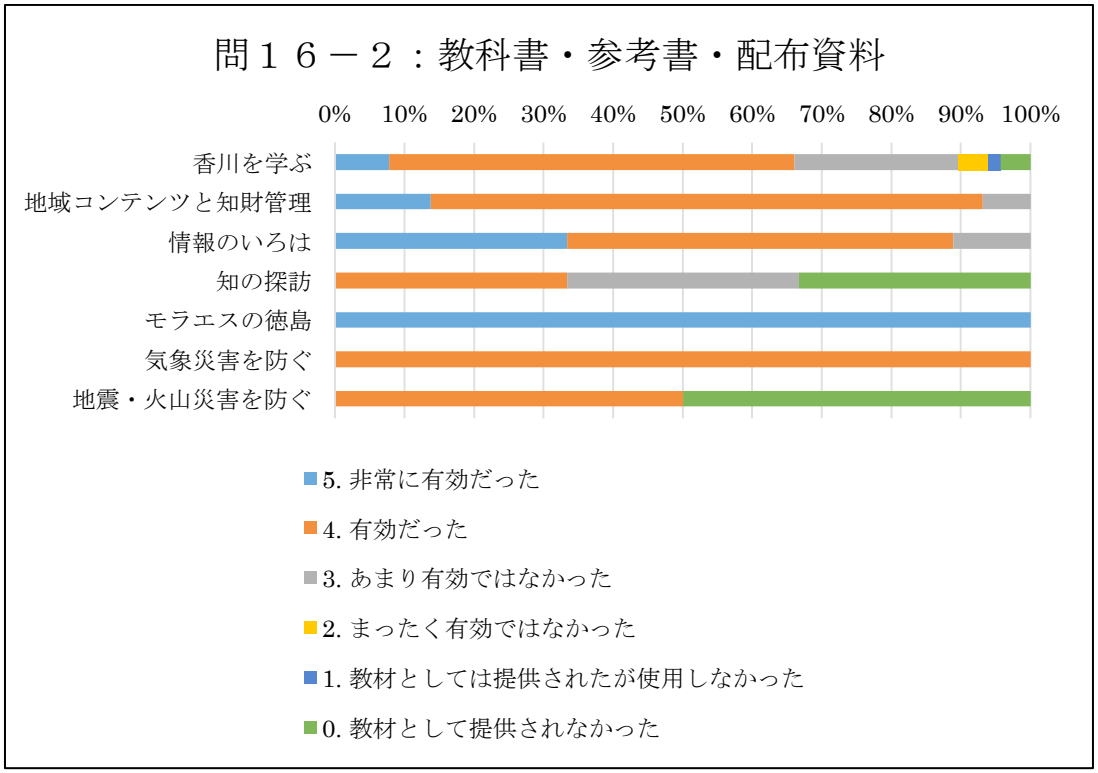
問 16-1. 視聴覚教材(ビデオ等)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	12	70	30	3	0	0
地域コンテンツと知財管理	5	22	1	0	0	1
情報のいろは	7	2	0	0	0	0
知の探訪	1	2	0	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0	0



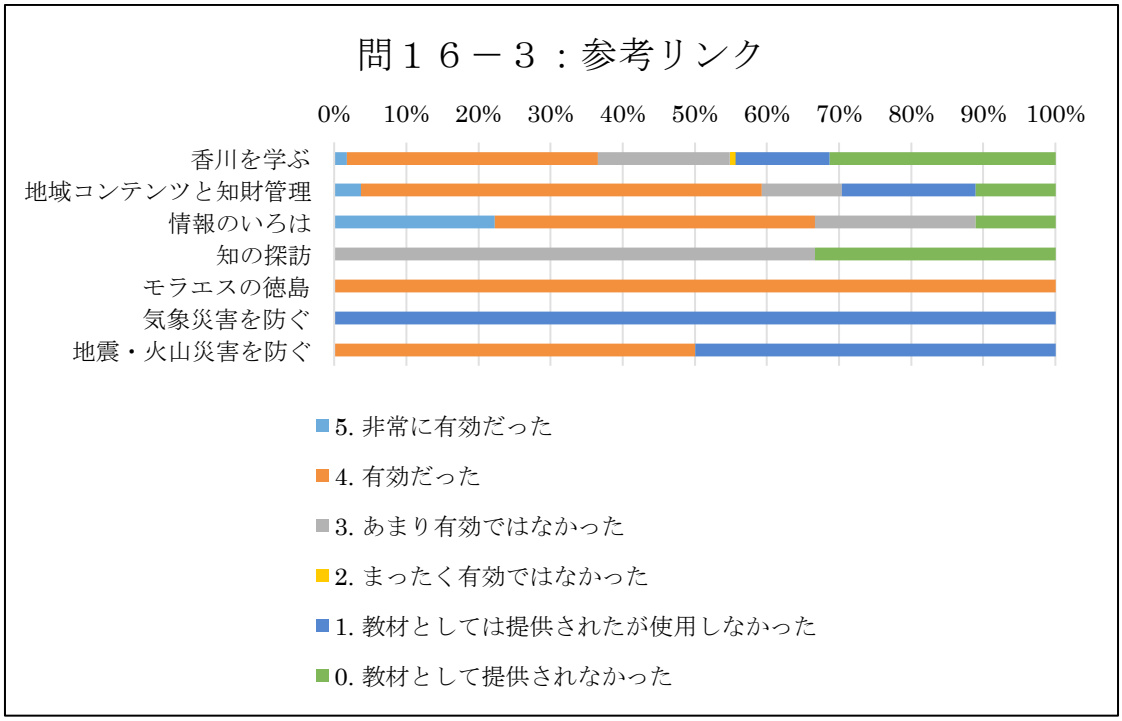
問 16-2. 教科書・参考書や配布資料

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	9	67	27	5	2	5
地域コンテンツと知財管理	4	23	2	0	0	0
情報のいろは	3	5	1	0	0	0
知の探訪	0	1	1	0	0	1
モラエスの徳島	1	0	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	1	0	0	0	1



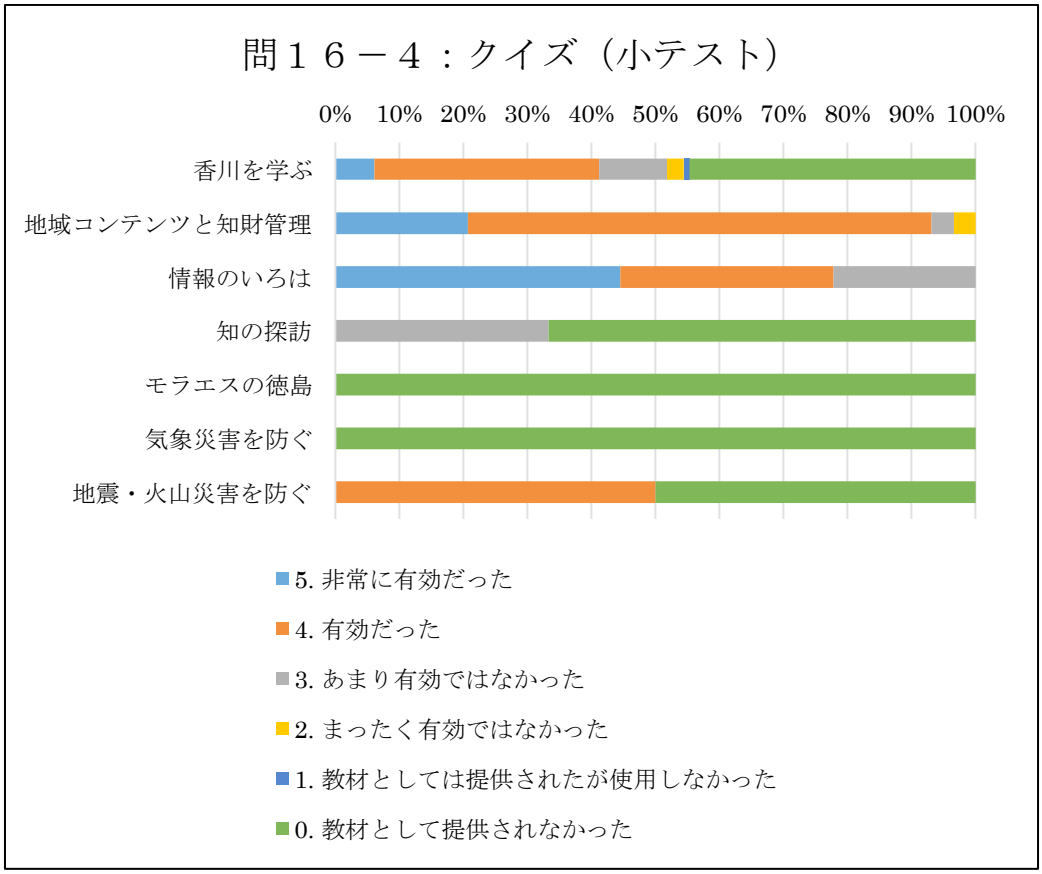
問 16-3. 紹介された参考リンク(インターネット上の情報源)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	2	40	21	1	15	36
地域コンテンツと知財管理	1	15	3	0	5	3
情報のいろは	2	4	2	0	0	1
知の探訪	0	0	2	0	0	1
モラエスの徳島	0	1	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	0	1	0	0	1	0



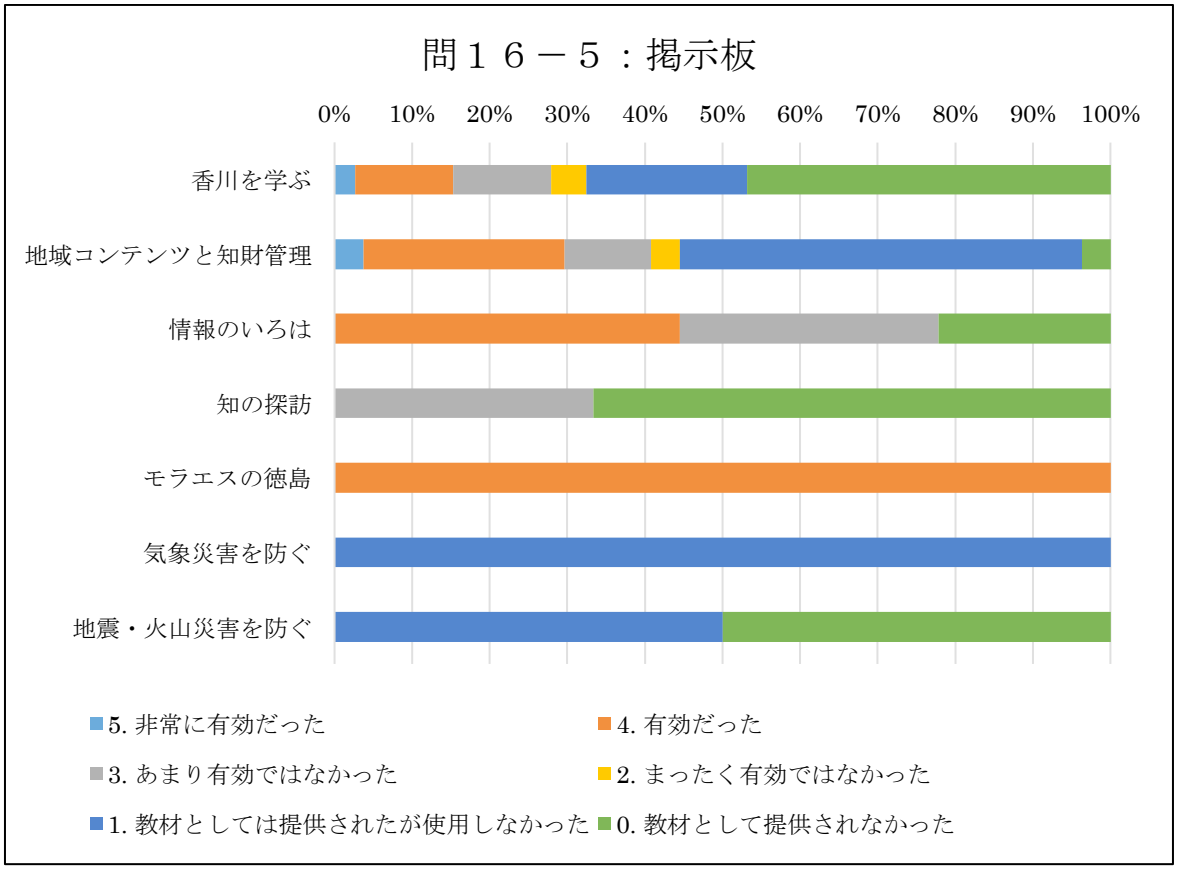
問 16-4. クイズ（小テスト）

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	7	40	12	3	1	51
地域コンテンツと知財管理	6	21	1	1	0	0
情報のいろは	4	3	2	0	0	0
知の探訪	0	0	1	0	0	2
モラエスの徳島	0	0	0	0	0	1
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	0	1
地震・火山災害を防ぐ	0	1	0	0	0	1



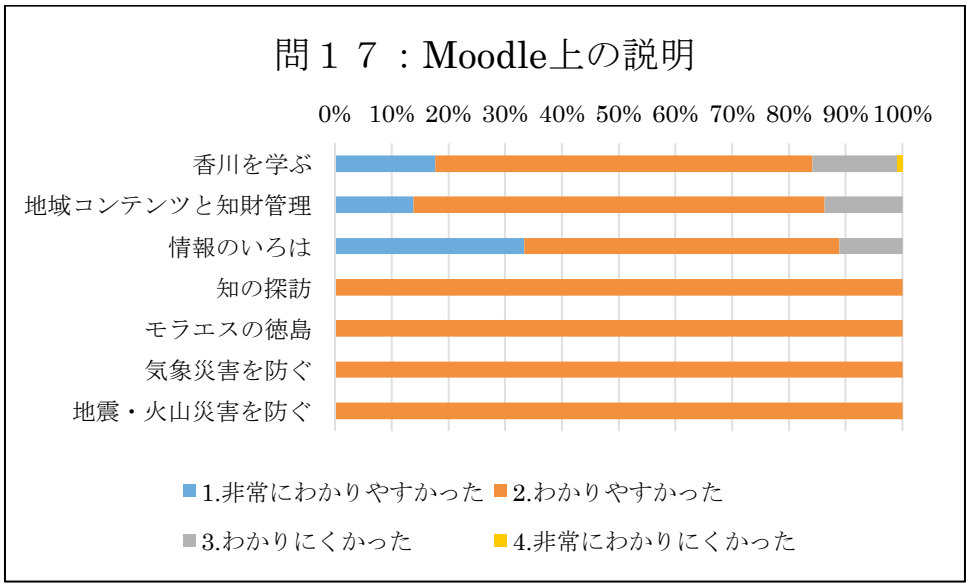
問 16-5. 掲示板（フォーラム）における受講者同士のディスカッション

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	3	14	14	5	23	52
地域コンテンツと知財管理	1	7	3	1	14	1
情報のいろは	0	4	3	0	0	2
知の探訪	0	0	1	0	0	2
モラエスの徳島	0	1	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	0	0	0	0	1	1



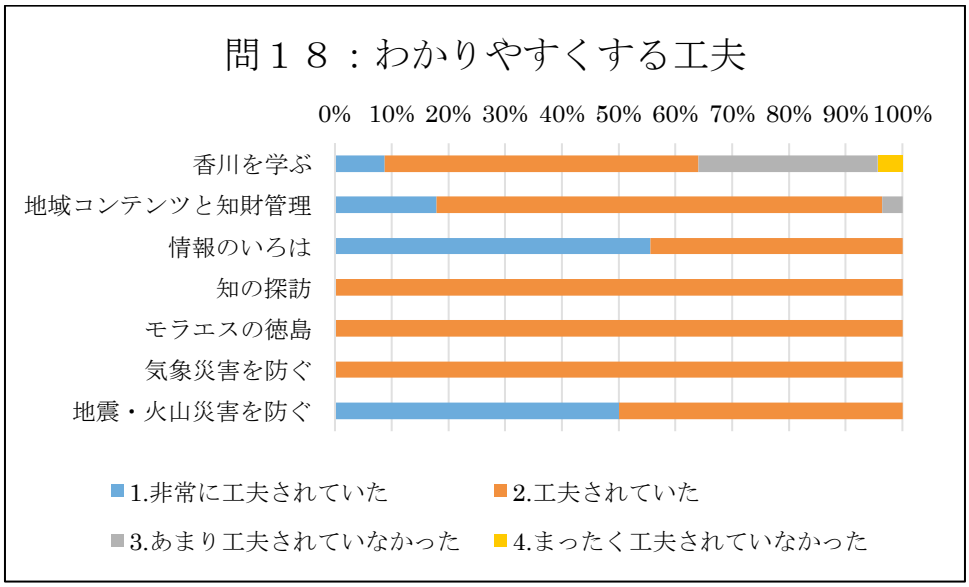
問 17. この授業の Moodle 上の説明（例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示）は、わかりやすかったですか？

	1.非常にわかりやすかった	2.わかりやすかった	3.わかりにくかった	4.非常にわかりにくかった
香川を学ぶ	20	75	17	1
地域コンテンツと知財管理	4	21	4	0
情報のいろは	3	5	1	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0



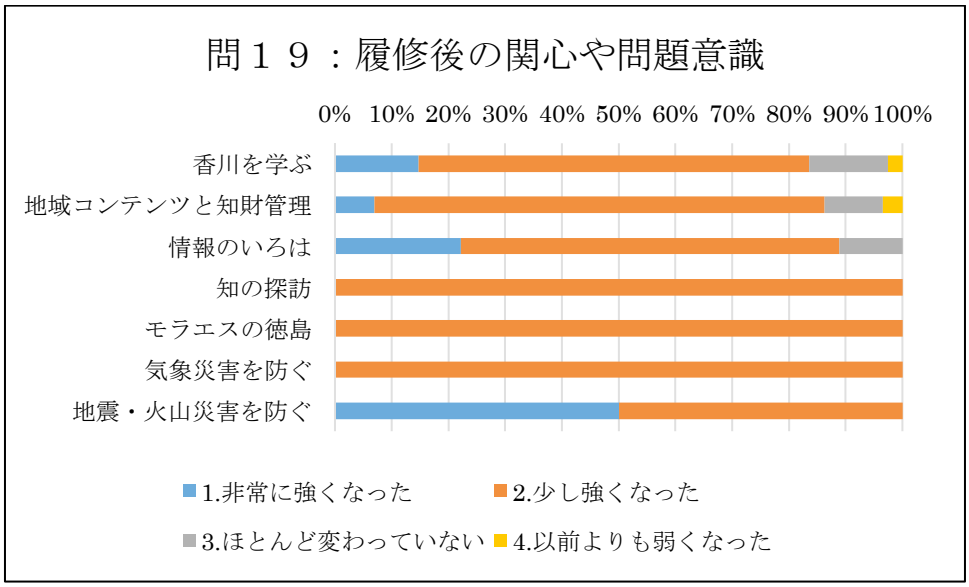
問 18. 授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？

	1.非常に工夫されていた	2.工夫されていた	3.あまり工夫されていなかった	4.まったく工夫されていなかった
香川を学ぶ	10	63	36	5
地域コンテンツと知財管理	5	22	1	0
情報のいろは	5	4	0	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



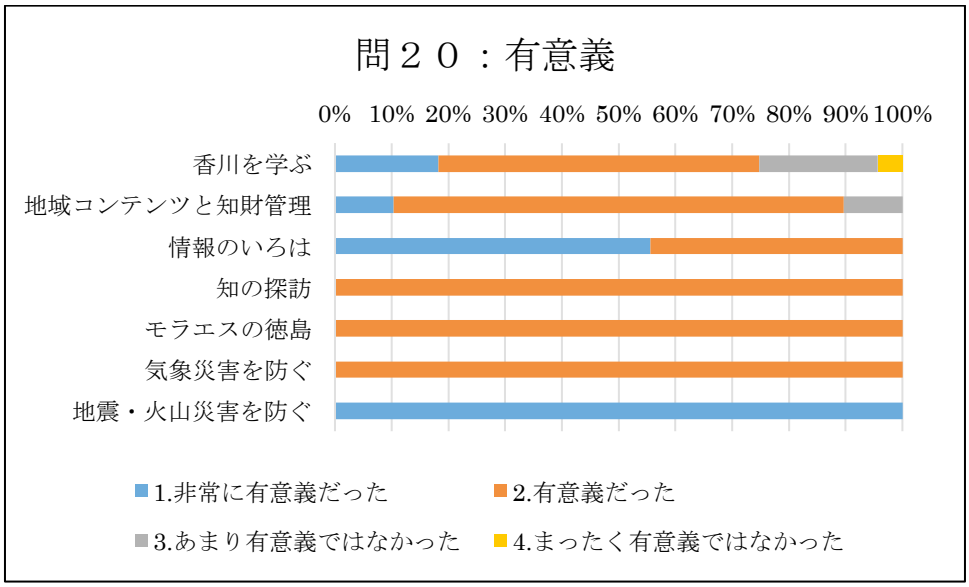
問 19. この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によってどのように変わりましたか？

	1.非常に強くなった	2.少し強くなった	3.ほとんど変わっていない	4.以前よりも弱くなった
香川を学ぶ	17	79	16	3
地域コンテンツと知財管理	2	23	3	1
情報のいろは	2	6	1	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



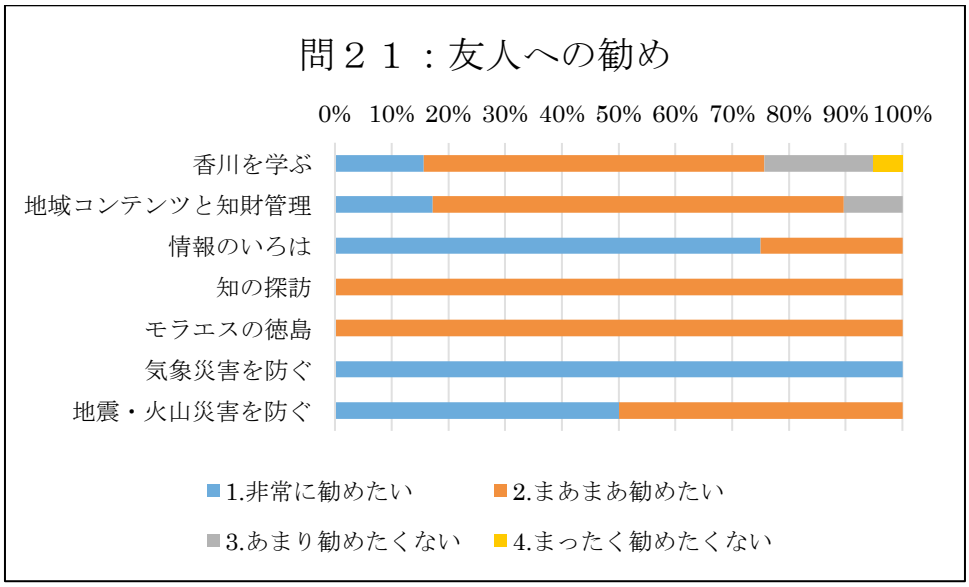
問 20. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？

	1.非常に有意義だった	2.有意義だった	3.あまり有意義ではなかった	4.まったく有意義ではなかった
香川を学ぶ	21	65	24	5
地域コンテンツと知財管理	3	23	3	0
情報のいろは	5	4	0	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	2	0	0	0



問 21. この授業を、友人や後輩にお勧めしたいですか？

	1.非常に勧めたい	2.まあまあ勧めたい	3.あまり勧めたくない	4.まったく勧めたくない
香川を学ぶ	18	69	22	6
地域コンテンツと知財管理	5	21	3	0
情報のいろは	6	2	0	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



問 22. この授業について、良かった点を、具体的にお書きください。

香川を学ぶ	香川県の歴史など様々なことについて知ることが出来、香川県についてもっと知りたいと思うようになった。
香川を学ぶ	一週間でいつでも受けることができること
香川を学ぶ	自分のペース学習を進められた点。香川に関する問題が、様々な角度から考察できる点。
香川を学ぶ	好きな時間に授業を受けられたので、自分の時間を有効に使うことができました。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強できること。
香川を学ぶ	香川について新しく得る知識が多かった点。自分の都合に合わせて講義が受けられた点。
香川を学ぶ	好きな時間に受けることが出来る
香川を学ぶ	様々な知識を身につけることができ、いろいろな分野への興味が広がった
香川を学ぶ	香川についていろいろ知れたこと。
香川を学ぶ	知らないことを勉強ができました。特に香川のことです。
香川を学ぶ	香川のことをより知ることができた。
香川を学ぶ	色んなジャンルについて学べれたので、幅広く大まかな知識が身につきました。四国の大学に通っているのだから、せっかくなので四国についてもっと知りたいと思い、受講しました。その点は良かったと思います。
香川を学ぶ	興味がある内容は何回でも学習し考えることができた。
香川を学ぶ	面白い授業が何回かあったこと。

香川を学ぶ	香川について知れたこと
香川を学ぶ	香川の文化について興味深いことを題とした講義が多く、タメになる講義だということを実感できた点。
香川を学ぶ	香川について様々な視点から学べた点。
香川を学ぶ	テーマ別で数回ごとに分かれた授業は流れとしてとても分かりやすかった。
香川を学ぶ	自分の住んでいる地域について、見落としている点に気づき、深く考えることができた。主に香川県を学ぶことで、日本にある問題について真剣に考えるよい機会になった。
香川を学ぶ	香川についていろいろと知ることができた。
香川を学ぶ	いろいろな知識が得られた
香川を学ぶ	いろんな方向の講義を受けることができる。
香川を学ぶ	要旨をまとめる力が身につく。
香川を学ぶ	香川県について、より深い教養を得られたこと
香川を学ぶ	講義資料が添付されていたこと。
香川を学ぶ	聞き逃したら、何度も再生できること。
香川を学ぶ	自分が滞在している香川について総合的に知ることができた。
香川を学ぶ	自分の都合のよい時間に講義を受けることができ、フィールドワークなどを通して香川について自ら学ぶこともできた。
香川を学ぶ	香川県について知るきっかけができた
香川を学ぶ	私は香川県にほぼ無知の状態だったので、これから香川大学に通うものとして香川の知らない情報をたくさん知ることが出来て楽しかったです。
香川を学ぶ	香川について深く学べたこと。
香川を学ぶ	香川県で生活する上で、さまざまな産業や、特色など、知っておくべきことが知れたこと。
香川を学ぶ	地域活性化やその地域の抱えている問題点について学び考えることでよりふかいちしきを得ることができた。また中間レポートや期末レポートを作ることでレポート作成の力もつけることができた。さらにフィールドワークなどを経験する機会もできて非常に有意義だった。
香川を学ぶ	先程述べたので、その通りである
香川を学ぶ	香川県のいろいろなことを知ることができる。
香川を学ぶ	今まで関心がなかったことに関心をもてたり、危機感をもっていなかったものに危機感がもてたりと非常に自分のためになった点。
香川を学ぶ	自宅でできるので自分のペースで課題を取り組むことができた。
香川を学ぶ	香川の知らなかったことを知ることができた。
香川を学ぶ	今までは、香川県について表面的なことしか理解できていなかったが、本講義を通して、香川県に対する知見を深めることができました。そのため、香川県における地場産業や中小企業について考えるきっかけとなったという点が、私が良かったと思う点です。
香川を学ぶ	好きな時にできる。
香川を学ぶ	香川について理解を深めることができた。
香川を学ぶ	分からないところがあれば、もう一度聞くことが出来る
香川を学ぶ	自宅学習ができること。
香川を学ぶ	講師が様々で、幅広い話が聞けたこと
香川を学ぶ	自分が今まで知らなかった香川について知ることができた所
香川を学ぶ	自分の知らない香川県についての知識を得ることができたので良かった。
香川を学ぶ	香川県の現状を知れる。
香川を学ぶ	香川について興味を持って学ぶことができた。
香川を学ぶ	実際の企業の話が聞けて良かった。
香川を学ぶ	いつでも受講できる点

香川を学ぶ	いつでも授業ができたので自由度が増した。小レポートで文章を書くので苦手意識が小さくなった。
香川を学ぶ	香川についてあらゆることを学ぶことができて今後役に立ちそうだと感じた。
香川を学ぶ	香川の魅力を再認識できた
香川を学ぶ	授業が公開されてから１週間という期間があり、自分の好きな時間帯に学習できた点。
香川を学ぶ	・課題が授業内容の要約であったため、講義後に要約を行うことでさらに理解を深めることができた。また、重要な部分を聞き逃してはならないという意識があったため、90 分間集中して聞くことができた。 ・好きな時間に受けることが可能であったため、週末の空いた時間を活用することができ、さらに、体調が万全な姿勢でのぞむことができた。 ・さまざまな分野の専門家の話を聞くことができ、知識の幅を広げることができた。 ・毎回の課題に関してフィードバックがあることで、モチベーションが上がった。
地域コンテンツと知財管理	著作権法や意匠法等、これまで自分にとって、関わりが少なかった法律のことを知り、理解することが出来た点。
地域コンテンツと知財管理	説明が分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	先生が面白く見やすかった。
地域コンテンツと知財管理	知的財産法の基本を学ぶことができたこと。
地域コンテンツと知財管理	講師の説明が分かりやすくよかった
地域コンテンツと知財管理	e-learning の良さをいかせていてよかったです。
地域コンテンツと知財管理	法律に関する事柄を重要な点に絞って説明されていたので、初めて学ぶ際に要点が分かり易く、効率の良い勉強ができた点。
地域コンテンツと知財管理	法律系というとっつきにくい内容だったが、説明がわかりやすかった
地域コンテンツと知財管理	知的財産法について初歩的な知識を身に着けることができた。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
情報のいろは	私たちの身近にある情報の知識について理解を深めることができてよかったと思います。
情報のいろは	初めて知ることばかりで、面白く感じられた。
情報のいろは	講義の中で少し難しいところがあり理解に苦しんでいた時でももう一度再生して見直すことだできるので大学で行われる講義と違ってかなり助かりました。
情報のいろは	講師の授業進行が非常に人を引き付け、又、不明な個所のメールを送った際、質問に対するレスポンスが早く、よい授業だと感じた。
情報のいろは	講義を受けるタイミングを自分で決めることができる点。
知の探訪	自分の知りたい内容の講義を、初学者の段階で概要だけでも知ることができたのはおおいに良かったと思う。
地震・火山災害を防ぐ	テストの日程がほかの授業とずれていること
地震・火山災害を防ぐ	講義動画の隣に資料があり、学習しやすかったです。ただ、動画と資料の配置は統一してくれていたほうが、より親切だったかと思います。

問 23. この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください。

香川を学ぶ	時々、音声がほとんど聞き取れないことがあったので困った。
香川を学ぶ	ところどころではなく、すべてにおいて何を言っているか聞き取れない回があって、レポートに困った。
香川を学ぶ	テスト週間前になってから一気に２、３つレポートを出されるのが困る。ほかの授業があることを考えて時期を決めてほしい
香川を学ぶ	情報が早めに確実に回るといいと思います。
香川を学ぶ	たまに音質が悪くて聞き取れない講義があったので、何らかの対応をとってほしい。
香川を学ぶ	ものすごく時間をかけて作成したレポートと、ものの数十分で仕上げたレポートが同じ評価点であったのには驚きました。たった３点満点で評価するのは少し低すぎると思います。
香川を学ぶ	音質を良くしてほしいです。
香川を学ぶ	音質が悪い点。授業が進んでない部分や内容に関係のない部分が多い点。
香川を学ぶ	講義によって音声が聞こえづらいものがあった点。
香川を学ぶ	音声わるい。聴き取りにくい講義がある。
香川を学ぶ	映像の音声をもう少し聞こえやすくしてほしい
香川を学ぶ	課題の工夫。
香川を学ぶ	特にないです
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	話が難しい人の話が早口や詰まり詰まりだと全く内容が入ってこない
香川を学ぶ	照明がつけっぱなしでスクリーンが見えないことや、雑音が入っているところ。また、よくわからない授業が何回もあった。
香川を学ぶ	聞き取りやすい映像にしてほしい
香川を学ぶ	録音環境をもう少し改善してほしい。
香川を学ぶ	ビデオの見やすさをもう少し重視して欲しい。
香川を学ぶ	Ⅱの問い９に同じ。
香川を学ぶ	雑音を消してほしい。もっと詳しく香川県のことについて学べる授業にしてほしい。
香川を学ぶ	すべての授業できちんと音声が聞き取れるようにして欲しい。
香川を学ぶ	いらない部分のカット
香川を学ぶ	・音声が不明瞭なことがある。（先生の滑舌や話す速さ（ビデオを介すことでより聞き取りにくくなっている）、ビデオを撮る周囲がうるさいため雑音が入っている等） ・授業の内容が 4～5 年前のことがあるので既に内容が変わっていることもある（四国の地域振興の方だが、2014 年に（2013 年のではなく）2010 年の瀬戸芸の話をする←2009 年撮影のため） ・続き物の講義の途中１回を受けることになるので、前回説明した通りなどと言われても何のことかわからない。 （・こちらに書くのもなんですが、四国の地域振興の方で、四国であるにも関わらず、知事へのインタビューを除いて徳島県と愛媛県の話がなかったのは残念です。）
香川を学ぶ	音質の改善
香川を学ぶ	映像が長い時があるので、なるべく講義と同じ 90 分に収めてほしい。
香川を学ぶ	少し授業の動画の画質が悪いことや、時々途中で停止してしまうこともあったので、そのあたりのシステムの改善を希望します。
香川を学ぶ	黒板が見づらいこと。
香川を学ぶ	うまくファイルを開けないこともある。
香川を学ぶ	16 回目の課題レポートは不要である。
香川を学ぶ	話が聞き取りにくい授業は取り上げないでほしい。
香川を学ぶ	時間帯によってつながりにくくなることがある点。
香川を学ぶ	音質が悪い。「音質が悪いところがありますが了承して下さい」と注意書きをすればいいわけではない。聞こえないとレポートが書けない。特に第 5 回が全く聞こえなかった。「一部」ではなく全体的に聞こえない。

	工場に実際に行っているという講義の時、アニメーションはこだわっているようだったが、やはり音が悪い。無駄な音を消すためのソフトはたくさんあるのに音については何もせず、題名を書いてみるなどのこだわりをする意味が分からなかった。初めの授業で「最低限の情報リテラシーがない生徒は受講しないでください。」という台詞を言うならば言うだけのことをしてほしかった。
香川を学ぶ	毎回の授業で資料が貼ってあるとさらに学習しやすくなると思います。教授によっては資料のない授業もあると思いますが、少し検討宜しくお願いします。
香川を学ぶ	期末の課題をもう少し減らすべき。もしくは、大きなレポートとレポートの課題を出す間の期間を延ばすべき。
香川を学ぶ	ほとんどが他講義の録画をそのまま用いた物で、聞きやすい工夫が全く無かった。独自調査をもっと増やして欲しい。
香川を学ぶ	音声の乱れをできるだけ少なくしてほしい。
香川を学ぶ	ビデオ教材がどうしても聞きづらいときがあるのでそこだけ改善して欲しいです。
香川を学ぶ	先程述べたので、その通りである
香川を学ぶ	１つのスライドが長すぎる。雑音がひどい。
香川を学ぶ	座学で受ける時間以上の時間がかかってしまう点。
香川を学ぶ	課題の問い、評価があいまい。前期の林先生の講義のように、明確にすべき。
香川を学ぶ	聞きなれない固有名詞が多く出てきて漢字への変換や聞き取れない時の対応が難しかった。
香川を学ぶ	雑音が激しかったり、声が小さく聞こえにくい場面があったので、改善してほしい。
香川を学ぶ	漆器に関する講義があったと思いますが、その回だけ音声が聞き取りにくかったです。一部聞き取りにくい部分があるという点については承知していますが、漆器に関する講義の回については、かなり聞き取りにくかったです。そのため、その点を改善すれば、「香川を学ぶ」はより良い講義になるのではないかと思います。
香川を学ぶ	難しめな内容のときは毎回資料があるとありがたい。
香川を学ぶ	講義内容をきちんと理解してレポートを提出したが、映像を最後まで視聴してないとされ 0 点だった点。
香川を学ぶ	期末年末のレポートや、それに対する考察のレポートなど課題が多い
香川を学ぶ	聞き取りづらいところ
香川を学ぶ	聞き取りにくい回は改善すべきだと思う。聞き取りにくいだけでやる気がぐっと低下してしまう。
香川を学ぶ	黒板に書いてあることが見えにくいので見えやすくしてほしい。授業によっては先生の声が小さかったり周りがうるさかったり謎の雑音が入ったりしていて聞き取りにくいことがあったので改善してほしい。
香川を学ぶ	手軽にスマートフォンで見られれば嬉しい。いっそ、全国の大学間で共通アプリを作ってみてはどうか。
香川を学ぶ	締め切りが近づいてきたらメールなどを通して知らせてほしい
香川を学ぶ	音質を上げてほしい
香川を学ぶ	動画の音質などが非常に悪く、生で授業を聞くほうが有意義だと感じた。
香川を学ぶ	授業の内容が数年前のものであったり、大きい講義室で講師の方が話してくださっていても聞き取りにくい時が多々あった。内容が数年前のものであると、現在の状況とは違うため、正確な情報ではない場合もあると思う。
香川を学ぶ	音声が聞き取れない授業ビデオがあるので聞き取りやすいビデオだけにしてほしい。
香川を学ぶ	ただの企業説明の回があったり、料理教室のような回があったり、面白いこともあるがよくわからないこともある。音声が非常に聞き取りにくい回もあり、字幕を付けるかきちんとした録音環境で収録しておいてほしい。
香川を学ぶ	音質改善
香川を学ぶ	もっと聞き取りやすくしてほしい。
香川を学ぶ	特になし。

香川を学ぶ	映像の中で、聞き取りづらいものがあった。授業の要約を作成するのがとても難しかったので、改善してほしい。また、レポートの回数が多いと思う。もう少し少なくしたほうがよいのではないか。
香川を学ぶ	音声に入る雑音をもう少し減らしてほしい講義もあったのでできる限り改善してほしい。板書や資料が少なく字が分からない講義もあったのでその場合には適宜メモなどが用意されたかった。
香川を学ぶ	聞きづらい動画があった。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	学校内でも、いつでも(休日でも)パソコンを使用できる環境にして欲しい。
香川を学ぶ	公開された資料を使っていない授業があったので、適切な資料を公開してほしい。
香川を学ぶ	音声が聞き取りにくいことがあったので改善して欲しい。また、聞き取りにくいという意見があり、実際にそれが確認できた回では、課題の改善（たとえば、別課題にする、その週の点数比率を減らす）など臨機応変な対応をしてほしい。
地域コンテンツと知財管理	特にありません。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	授業時間の配分を一定にしてほしい
地域コンテンツと知財管理	特にはないですが、あえて挙げるならば「できれば追加コンテンツを製作してほしかった」というぐらいです。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	小テストをやるのはいいんですけど、答えの解説をもう少し丁寧に書いていただけたら、もっと理解が深まると思います。また、年末の週の授業についてなのですが、他の普通の授業は行われていなかったので、その週に授業が配信されていたのに気付けなかったです。だから、普通の授業がない週に配信しないでほしいです。
情報のいろは	わかりやすい所は非常にわかりやすかったけれど、難しい所は理解するのが大変でした。
情報のいろは	工学的な要素が強く、理系ではないと理解に苦しむところも多々あった。浮動小数点やビットシフトの回など。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	情報系と工業系が中心の内容から派生した現代経済学に応用できる数学的内容を追加してほしい。
情報のいろは	音が途切れてしまうところが、まれにあったので、改善するとすれば、その所くらいです。
気象災害を防ぐ	・深層崩壊のビデオ（NHK の特集）の著作権に関するテロップが、たまに番組のテロップとかぶっていて読み取りにくかったです。 ・堤防を越える洪水の種類のレジュメ表示部分の文章が写真とかぶって全て読めないので、文章を読めるようにしたほうが親切かと思います。
知の探訪	ビデオの時間が９０分という、徳島大学の一時限の授業よりも長いことが多々見受けられた。そこは講義資料を配布するなどして、もう少し時間を縮めるように工夫してもらいたい。
地震・火山災害を防ぐ	テストに関しての説明がよくわからなかった。(映像授業の生徒も資料持ち込み可能なのかなど)
地震・火山災害を防ぐ	・第 8 回と第 9 回の講義内容が入れ替わっていたので、訂正お願いします。 ・第 12 回のビデオ 1・2 の内容の違いが試験の告知だけだったので、どちらか一方だけでよいと感じました。

2.2.5.4. 非常勤講師の手続きの簡素化に関するワーキンググループ

(1) 平成 27 年度の検討課題

非常勤講師の手続きの簡素化に関する WG では、非常勤講師発令等の事務手続きの仕組みを整備し、提出書類や事務手続きについて簡素化案を検討する。

(2) 検討スケジュール

下記の日程で検討を行った。

6 月：成績評価のスケジュールを整理し、成績評価表の取りまとめ方法についてメール審議

7 月：メール審議の結果を企画委員会に報告

成績評価の依頼から成績評価表提出までの手順を企画委員会で審議

郵送料の負担方法については継続審議となったため、メール審議

(3) 検討の概要

◆成績評価表の取りまとめ

分室単位で取りまとめるか、担当教員が直接送付するかは各分室の判断に任せることとなった。

◆成績評価に係る手順の整理

各非常勤講師への成績評価依頼から成績評価表の提出までの手順を整理し共通化を行った。

◆郵送に係る経費の負担

評価依頼に係る経費は科目開講大学、成績評価表送付に係る経費は科目提供大学の負担となった。

(4) 成果物

◆成績評価依頼に係る手順について

開講大学から非常勤講師への成績評価依頼の際の封入物及び成績評価表の提出方法（郵送方法）の共通化を図った。

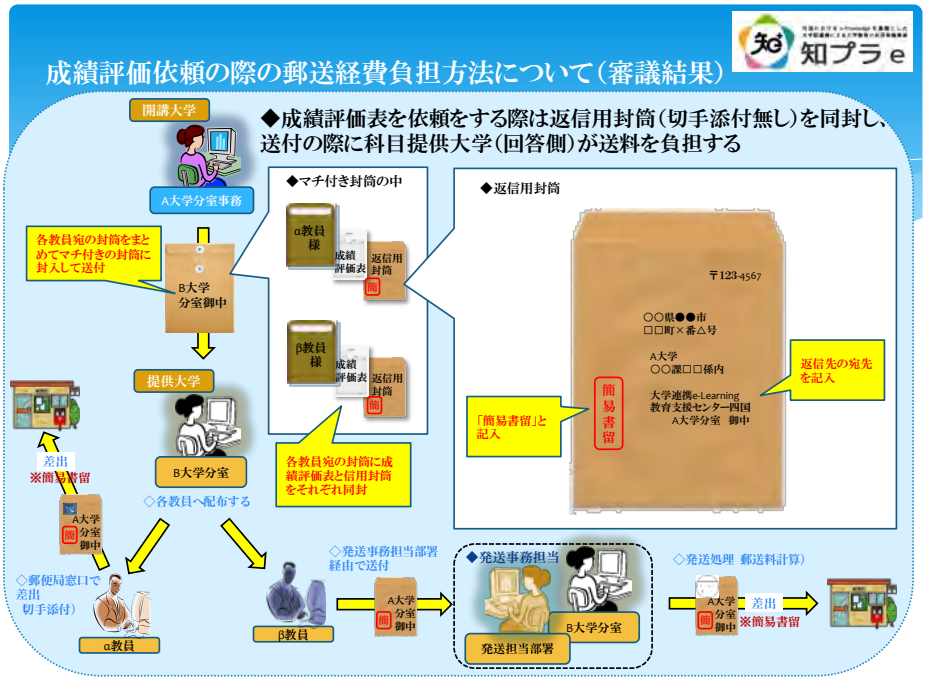
郵送に係る経費の負担についても検討を行い、整理した。

資料：成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について（審議結果）

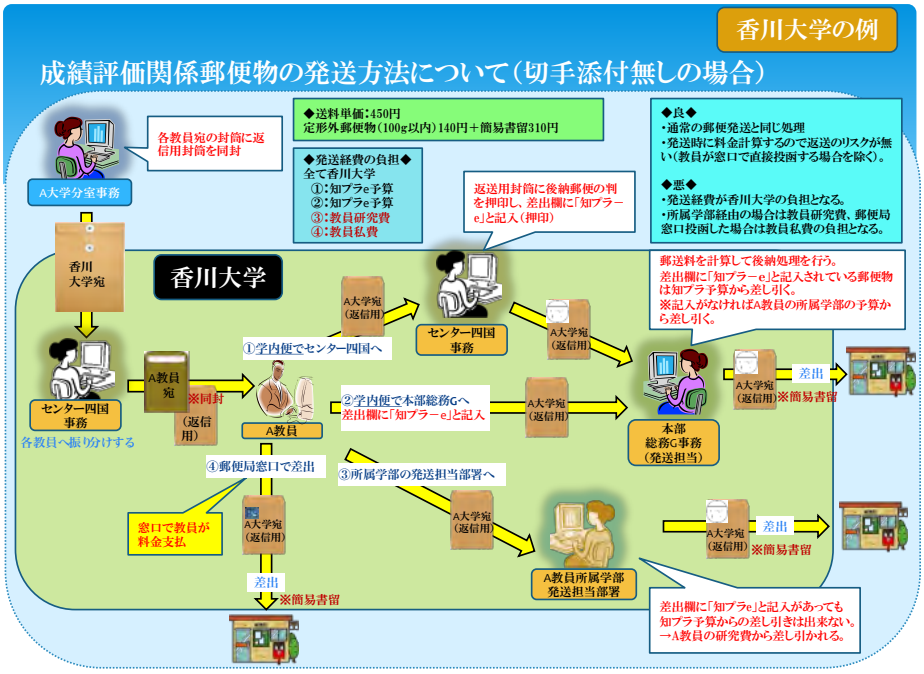
参考資料：成績評価関係郵便物の発送方法について（切手添付無しの場合）（香川大学の例）

(5) 今後の課題

非常勤講師が教務システムに直接成績データを入力することが可能かどうかの検討を行う。



資料：成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について（審議結果）



参考資料：成績評価関係郵便物の発送方法について（切手添付無しの場合）（香川大学の例）

2.2.5.5. キャリア教育科目検討ワーキンググループ

報告なし。

2.2.5.6. 専門科目検討ワーキンググループ
課題 1：専門科目を共同実施する場合の履修登録・成績評価の時期について

（大学別）専門科目履修登録、成績評価スケジュールまとめ

時期	香川	愛媛	鳴門教育大	徳島	高知
履修登録	共通と同時期(*1)	共通と同時期	共通と同時期	共通と異なる時期	共通と同時期
成績評価	～8 月末(*2) ～3 月はじめ	共通と同時期	共通と同時期	共通と異なる時期	共通と同時期
備考	(*1)医学部は 2 学期の履修登録無し (*2)医学部は 1 学期の成績評価無し				

課題 2：専門科目コンテンツの利用について
検討結果は以下のとおり。
・ 各大学改組があり、利用は限定的になる。
・ 専門科目コンテンツを要卒単位とするかは受け入れ側が決めるので、専門科目 WG の範疇外。
・ 同じく受け入れ側の判断で、教養科目として扱われる場合もある。

2.2.5.7. システム検討ワーキンググループ
(1) 平成 27 年度の検討課題
知プラ e 科目担当教員が所属大学以外の教務システム（修学支援システム）に直接ログインし、成績を入力することが現状で可能かどうかを調査した結果を下表に示す。

徳島大学	「誓約書」を提出した者について許可しているが、一度も本学に来学しない非常勤講師に対しては許可していない。
鳴門教育大学	許可していない。
香川大学	許可していない。
愛媛大学	許可している。
高知大学	許可していない。

愛媛大学以外は許可していないと回答があったことから、許可するために必要な事項についても調査した。設問内容と回答を取りまとめは次のとおり。今後、このデータに基づき、成績入力の電子化について更に検討する予定である。

設問 1：知プラ e 科目担当教員が貴大学の教務システム（修学支援システム）上で成績を入力できるようにするためには、貴学内でどのような手続きが必要ですか。
設問 2：上記 1 の手続きの実現可能性を「かなり高い、高い、低い、かなり低い」でご回答ください。回答者様の主観で構いません。
設問 3：設問 2 において、「かなり高い」又は「高い」と回答された場合、その実現（成績入力可能となる）までにどのくらいの期間が必要と思われますか。回答者様の主観で構いません。

	徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
設問1	学外非常勤講師については、授業担当教員が「誓約書」の提出及び本学学内LANにより学外利用を可能とする設定変更を行う必要がある。（本学に来学しない非常勤講師は想定していない。この処理（「誓約書」の提出及び本学学内LANにより学外利用を可能とする設定変更）を行うため、最低1度は本学に来学する必要がある。）	学外の教員が教務支援システムにログインして成績入力することは原則として認めていない。しかし、申請がある場合、嘱託講師に対してアカウントを発行することができる。ただし、セキュリティポリシーの明確な定めがないため今後の検討課題となっている。	学内で定められている情報セキュリティポリシーの一部を改訂し、全学の委員会で審議了承を得る必要がある。	既に学外から修学支援システム上で非常勤講師の成績入力が可能です。 いつからでも利用可能な状態となっています。（各先生方のID・PASSも発行済み）	全学の委員会（教育情報委員会）で審議了承を得る必要がある。
設問2	低い	教務システムに対して嘱託講師が成績入力することの実現可能性は高い。しかし、Moodleと教務支援システムをリンクさせた成績入力については実現可能性はかなり低い。	不明		高い
設問3		嘱託講師のために職員ＩＤとPassを発行するため、おおよそ一週間程度で成績入力が可能になると推測される。			平成29年度末に学内ネットワークがリプレースとなるが、その際に学内VPNが整備されれば委員会での審議了承を得られる可能性が高くなると思われる。

2.2.5.8. その他

e-Learningを用いた5大学間共同実施を行うにあたり、一定の質（知プラ質保証ガイドライン）が担保される支援の仕組みを構築する必要がある。授業実施担当者や教材開発者が授業を設計する際に参考となる「授業設計サンプルフォーマット」及び「サンプル教材」を作成するため、平成26年11月にサンプル授業設計プロジェクトを設立した。なお、本プロジェクトチームのメンバーは5大学から集め、授業設計サンプルフォーマット完成後にプロジェクトチームを解散することとしている。

【予定している成果物】

1) オンライン授業設計書+ガイダンスシート
2) オンライン授業内容確認シート
3) Moodleテンプレート

2.2.6.　各委員会報告

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 1 月 30 日の間に実施された各委員会の議事次第と決定事項を以下に示す。

第 1 回企画委員会

（1）日　時　平成 27 年 5 月 19 日（火）13 時 30 分から
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　教員 12 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）緊急審議
・平成 27 年度国立大学改革強化推進補助金(総合支援型)の交付内定(52%減)に伴う現状報告と対策について
（6）各 WG の進捗状況報告について
（7）協議題
・協議題 1　知プラ e 科目の提供計画（案）について
・協議題 2　事業シンポジウムの開催について
・協議題 3　平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
・協議題 4　規程等の公開と資料の重要度分類の整備について
・協議題 5　その他
(8)　報告議題
・報告議題 1　平成 27 年度分室単位の年間スケジュール表（案）について
・報告議題 2　スキルアップ研修会のテーマ募集について
・報告議題 3　JSiSE 全国大会企画セッション開催の案内について
・報告議題 4　その他
(9)決定事項

緊急審議

平成 27 年度国立大学改革強化推進補助金（総合支援型）の交付内定（52%減）に伴う現状報告と対策について

・近々文部科学省の国立大学改革強化推進補助金（平成 24 年度選定事業）の中間評価に係るヒアリングが実施される予定なので、資料等の作成に協力いただきたいとの発言があった。

協議題 1　知プラ e 科目の提供計画（案）について

・平成 28 年度提供科目について、センター四国が 5 大学全体の情報をとりまとめて 6 月 30 日までに各分室に送付し、平成 29 年度以降の提供科目について、9 月末までに提供計画（案）を作成することとなった。

協議題 2　事業シンポジウムの開催について

・今回の事業シンポジウムは徳島大学で開催される教育システム情報学会（JSiSE）とあわせて開催する予定であるため、徳島大学分室が主導となり実施することとなった。

協議題 3　平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について

・各分室で検討する時間が必要なため改めて審議を行うこととし、7 月の企画委員会で結果を報告することとなった。

協議題 4　規程等の公開と資料の重要度分類の整備について

・今までに決定した内容等の情報を共有するために、ガイドライン以上の規程（規程、運用細則、ガイドライン）をセンター四国のホームページに掲載することとなった。

企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 6 月 5 日（金）
（2）決定事項

協議題　平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について

・修正意見があったため次回の委員会で再審議することとなった。

企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 6 月 26 日（金）
（2）決定事項
協議題 1　平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
・修正案が了承された。
協議題 2　担当教員の成績評価表の提出方法について
・担当教員の成績評価表の提出方法（分室単位でとりまとめるか担当教員が直接送付するか）については、各分室に運用を任せることとなった。
協議題 3　平成 28 年度開講科目の決定について
・疑義が生じたため確認を行った上で改めて審議することとなった。

企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 6 月 30 日（火）
（2）決定事項
協議題　事業シンポジウム 2015 について
・事業シンポジウム 2015 の開催に関するスケジュールについて、案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 7 月 3 日（金）
（2）決定事項
協議題　平成 27 年度スキルアップ研修会計画案について
・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 7 月 13 日（月）
（2）決定事項
協議題　事業報告書（2015 年度版）目次案について
・案のとおり了承された。

第 2 回企画委員会

（1）日　時　平成 27 年 7 月 21 日（火）13 時 30 分から
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　教員 12 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）メール審議結果の確認について
① 6 月 5 日 平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
② 6 月 26 日（再審議）平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
③ 6 月 26 日（追加審議）平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
④ 6 月 26 日　平成 28 年度知プラ e 開講科目の決定について
⑤ 6 月 30 日　事業シンポジウムについて
⑥ 7 月 3 日　平成 27 年度スキルアップ研修会計画案について
⑦ 7 月 13 日　事業報告書（2015 年度版）目次案について
(6) 各 WG 等の進捗状況報告について
(7) 協議題
・協議題 1　平成 27 年度知プラ e 科目の成績評価段取りについて
・協議題 2　事業報告書の少部数印刷対応について
・協議題 3　平成 28 年度提供科目について
・協議題 4　その他
（8）報告議題
・報告議題 1　事業シンポジウムの進捗状況の報告について
・報告議題 2　センター四国 HP の各大学学生向け履修案内ページの作成について

・報告議題 3　その他
(9) 決定事項
協議題 1　平成 27 年度知プラ e 科目の成績評価段取りについて
・案のとおり了承された。なお、成績評価表の返送に要する郵送料の負担については再度検討することとなった。
協議題 2　事業報告書の小数部印刷対応について
・案のとおり了承された。
協議題 3　平成 28 年度提供科目について
・案の通り了承された。なお、単位を付与しない科目については事業の成果として公表していく方向で進めていくこととなった。

第 1 回運営委員会

(1) 日　時　平成 27 年 7 月 21 日（火）15 時 15 分から
(2) 場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
(3) 出席者　教員,事務職員 11 名
(4) 前回議事要旨の確認について
(5) 報告議題
・報告議題 1　7 月 9 日文科省ヒアリングの報告について
・報告議題 2　事業シンポジウムの開催について
・報告議題 3　その他

※報告事項のみ

企画委員会（メール審議）

(1) 日　時　平成 27 年 7 月 27 日（月）
(2) 協議題と決定事項
協議題　教育システム情報学会への共催依頼について
・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日　時　平成 27 年 8 月 3 日（月）
(2) 協議題と決定事項
成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について
・科目提供大学が負担することとなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日　時　平成 27 年 8 月 25 日（火）
(2) 協議題と決定事項
平成 27 年度知プラ e 事業実施計画に基づく自己点検について
・平成 27 年度事業実施計画案の文言修正について、案のとおり了承された。
・平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検項目（案）について、修正意見があったため次回の委員会で再審議することとなった。

第 3 回企画委員会

(1) 日　時　平成 27 年 9 月 4 日（金）9：30 から
(2) 場　所　徳島大学 常三島キャンパス 共通教育 6 号館 201 教室
(3) 出席者　教員 12 名
(4) 前回議事要旨の確認について
(5) メール審議結果の確認について
①7 月 27 日　教育システム情報学会への共催依頼について
②8 月 3 日　成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について

③8 月 25 日　平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検について
（6）各ＷＧの進捗状況報告について
（7）協議題
・協議題 1　平成 28 年度開講科目のシラバス作成について
・協議題 2　成績入力の電子化に関する検討について
・協議題 3　平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検について
・協議題 4　知プラ e 科目の講義運用について
・協議題 5　平成 27 年度開講科目のコンテンツ相互確認の段取りについて
・協議題 6　その他
（8）報告議題
・報告議題 1　平成 29,30 年度知プラ e 科目提供計画表について
・報告議題 2　スキルアップ研修会について
・報告議題 3　外部評価委員の再任について
・報告議題 4　事業シンポジウム 2015 の参加者数について
・報告議題 5　その他
（9）決定事項
協議題 1　平成 28 年度開講科目のシラバス作成について
・各科目の主担当教員が承認され、センター四国から主担当教員へシラバスの作成依頼をすることとなった。
協議題 2　成績入力の電子化に関する検討について
・システム検討 WG で検討することとなった。
協議題 3　平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検について
・案のとおり了承された。
協議題 4　知プラ e 科目の講義運用について
・案のとおり原則として VOD 型のフル e-Learning で運用していくことが了承された。
協議題 5　平成 27 年度開講科目のコンテンツ相互確認の段取りについて
・窓口担当者リストの作成について後日センター四国から各分室に事務担当者メーリングリストで依頼することとなった。また、コンテンツ確認シートに特に確認してほしい箇所の記入欄を追加することとなった。
協議題 6　その他
・平成 27 年度開講科目「知の探訪」の定期試験の取り扱いについて、対面試験をレポートに変更することとなり、徳島大学から各分室へシラバスの内容訂正を通知することとなった。

運営・企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 10 月 19 日（月）
（2）協議題と決定事項
協議題　事業報告書の掲載期間について
・案のとおり了承された。

第 2 回運営委員会

（1）日　時　平成 27 年 11 月 6 日（金）13 時 30 分から
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　教員,事務職員 10 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）メール審議結果の確認について
①10 月 19 日　事業報告書の掲載期間について
（6）協議題
・協議題 1　eK4 からの知プラ e 科目の提供依頼について
・協議題 2　その他
（7）報告事項
・報告 1　その他

（8）決定事項
協議題１　eK4 からの知プラ e 科目の提供依頼について
・e-Knowledge コンソーシアム四国(eK4)から知プラ開講科目を単位互換として従前同様に今後も継続的に提供してほしいとの依頼があり、審議の結果了承された。なお、各科目の提供可否については提供大学が決定することとなった。また、具体的な検討については企画委員会で行うこととなった。

第 4 回企画委員会

（1）日　時　平成 27 年 11 月 6 日（金）13 時 45 分から
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　教員 9 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）メール審議結果の確認について
①10 月 19 日　事業報告書の掲載期間について
（6）各ＷＧの進捗状況報告について
（7）協議題
・協議題１　外部評価委員会について
・協議題２　LMS に蓄積される学習データの取り扱いについて
・協議題３　平成 28 年度事業実施計画案について
・協議題４　第 2 回スキルアップ研修会企画案について
・協議題５　その他
（8）報告議題
・報告議題１　事業報告書（暫定版）及び自己点検（中間まとめ）について
・報告議題２　第 1 回スキルアップ研修会について
・報告議題３　知プラ e 科目提供計画案について
・報告議題４　平成 27 年度後期開講科目の履修者数について
・報告議題５　その他
（9）決定事項
協議題１　外部評価委員会について
・外部評価委員会に係るスケジュール（案）、議事次第案、外部評価用の資料について、案のとおり了承された。
協議題２　LMS に蓄積される学習データの取り扱いについて
・各大学の LMS に蓄積されている自大学以外の学生のログデータの取り扱いについて、意見交換が行われた。
協議題３　平成 28 年度事業実施計画案について
・平成 28 年度事業実施計画案について、案のとおり了承された。企画委員会の開催について、原則遠隔で開催することとなった。また年 4 回行うことが決定したが開催月については再検討することとなった。
協議題４　第 2 回スキルアップ研修会企画案について
・案のとおり了承された。
協議題５　その他
・第 2 回運営委員会からの指示により、e-Knowledge コンソーシアム四国(eK4)への科目提供について企画委員会で具体的な検討を今後進めることとなった。

企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 12 月 7 日（月）
（2）協議題と決定事項
協議題　知プラ e：新規企画委員の提案について
・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

（1）日　時　平成 27 年 12 月 18 日（金）
（2）協議題と決定事項
協議題　第 2 期中期目標期間における 5 大学連携事業に係る実績報告書の統一表記の取り纏めについて
・案のとおり了承された。

第 3 回運営委員会

（1）日　時　平成 28 年 1 月 18 日（月）13 時 15 分から
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　教員、事務職員 12 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）メール審議結果の確認について
①12 月 18 日　第 2 期中期目標期間における 5 大学連携事業に係る実績報告書の統一表記の取り纏めについて
（6）協議題
・協議題 1　平成 28 年度事業実施計画案について
・協議題 2　その他
（7）報告事項
・報告 1　外部評価委員会について
・報告 2　その他
（8）決定事項
協議題 1　平成 28 年度事業実施計画案について
・案のとおり了承された。

第 5 回企画委員会

（1）日　時　平成 28 年 1 月 18 日（月）13 時 45 分～
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　教員 13 名
（4）前回議事要旨の確認について
（5）メール審議結果の確認について
①12 月 7 日　知プラ e：新規企画委員の提案について
②12 月 18 日　第 2 期中期目標期間における 5 大学連携事業に係る実績報告書の統一表記の取り纏めについて
（6）各 WG の進捗状況報告
（7）協議題
・協議題 1　平成 28 年度企画委員会開催月について
・協議題 2　平成 28 年度自己点検項目案について
・協議題 3　サーバトラブル時の対応について
・協議題 4　平成 28 年度年間スケジュール案について
・協議題 5　その他
（8）報告事項
・報告 1　外部評価委員会について
・報告 2　事業報告書（正式版）に係るスケジュールについて
・報告 3　その他
（9）決定事項
協議題 1　平成 28 年度企画委員会開催月について
・案のとおり了承された。
協議題 2　平成 28 年度自己点検項目案について
・案のとおり了承された。

協議題 3　サーバトラブル時の対応について
・案のとおり了承され、運用上の詳細については今後検討を進めていくこととなった。
協議題 4　平成 28 年度年間スケジュール案について
・案の日付が平成 27 年度の学年歴をベースに作成されているため、センター校から分室へ平成 28 年度の学年歴等を照会し修正版を作成することとなった。
協議題 5　その他
鳴門教育大学から過年度入学者に対して、知プラ e 科目を eK4 科目として従来とおり単位互換で開講してほしいとの要望があり、本件については eK4 の企画委員会で審議してもらい知プラ e としては eK4 で決定した方針に従うこととなった。

外部評価委員会

（1）日　時　平成 28 年 1 月 18 日（月）11 時 10 分から
（2）場　所　香川大学　幸町北キャンパス　大学本部 3 階第一会議室
（3）出席者　委員 4 名
委員以外出席者 2 名（委員会規程第 8 条）
（4）議題
・議題 1　平成 27 年度事業実施報告
・議題 2　平成 28 年度事業実施計画報告
・議題 3　外部評価委員からの質疑応答及び意見交換
・議題 4　その他

（5）議事要旨
議題 1　平成 27 年度事業実施報告

（野田委員）
まだコンテンツを提供していない大学があるが各大学からコンテンツを提供することが重要である。例えば、愛媛大学の場合は愛媛県と愛媛大学が一体となって実施している魚の養殖、香川大学の場合は希少糖などもあまり一般的には知られていない。そういったコンテンツを集めると地域の大学のイメージが出てくる。コンテンツを増やすためにはもっと大きな組織で検討したほうがよいのではないか。政府の一部から文系学部不要論が出ているがそれに対して文系の存在意義を明確にして発信を行うなど、逆にそういった認識を見直す役割を果たす必要があるのではないか。そのためには各大学の学長から本事業に対する意見を集める必要がある。今後地方理学部不要論が出てくる可能性があるので注意する必要がある。できるだけこちらからアピールをして四国だけでなく政府に圧力をかけるという方向性でやっていくことで本事業の意味が大きくなってくるのではないか。

（村井委員）
我々も特色あるコンテンツを提供したいと考えているため、参考資料 4 の知プラ e 科目提供計画表のとおり愛媛大学の養殖や香川大学の希少糖など各大学の特色あるコンテンツを作成しアピールしたいと考えている。

（前田委員）
平成 27 年度履修者数について総数が増えたことで大学の努力は評価できるが、本事業は補助金を各大学に配分して事業を進めており費用対効果や事業の進捗状況を外部から求められているため、特に履修者数の面から考えると大学ごとに学生数に対して履修者数のばらつきがあることはよくない。外部から知プラ e 科目のカリキュラムやシラバスを確認しようとしたところ、シラバスにしばられている等履修者を増やしにくい事情があると考える。例えば自由科目を利用するなどの工夫が必要ではないか。学生数のわりに履修者数が少ない大学についてはシラバス、履修の手引き等に問題があるのではないか。

（村井教員）
費用対効果についてはセンター一丸となって検討したいと考えている。今年度については履修者数が増えたことで単位互換に比べて共同開講が学習効果にどういったものを与えたかは今後のアンケート等で

検証していきたい。また、各大学に e-Learning の基盤が強化されたので 5 大学全体に e-Learning が広がっていると考えている。履修者数が少ない大学については、大学の改組の時期や知プラ e 科目が要卒単位に含まれない等の事情を把握しており、一時的なものと考えているので今後改善していきたい。

（鈴木委員）
すでに事前アンケートで送らせていただいたとおりなので特に付け加えることはないが、昨年度のアンケートと同様に今回のアンケートの意見に対する回答をお願いしたい。

（村井委員）
今回の外部評価委員会での内容を受けて、業務改善計画を作成予定である。ご意見に対してはその中で回答をしたい。

（大平委員長）
今年度で試行期が終了するが、次のステップにいくために試行期までに明らかになった課題と問題解決についての総括を行っているのか。

（村井教員）
自己点検で見つかった課題及び外部評価委員からの意見を受けて新たに課題管理表を作成して解決していきたいと考えている。今年度前半の共同開講の準備期の自己点検の結果、共同開講に関する課題が見つかり、例えばセンター四国の機能強化については Web ページのワンステップ化やパソコン環境が各大学で異なるためコンテンツの視聴相互確認を行う仕組みを整備することにより解決した。このようにして一つ一つ課題を明確にし、解決していきたい。

（大平委員長）
今後の方向性や考え方は 5 大学の方針はそろっているのか。開講科目や受講者数に現時点でばらつきがあるのはやむを得ないとは思うが、5 大学で足並みがそろっていると理解してよいか。

（村井教員）
各大学の準備にばらつきはあるが、各大学 10 科目提供予定である。

（野田委員）
提供科目のテーマを各大学に任せてしまうと学生のニーズに応えることが難しくなる。講演会等で参加数が多い人気のあるテーマは医学関係である。また、学生に重要なテーマとしてモラルに関する科目、日本人における宗教感覚が希薄になっていることなど各大学の個々の問題より 5 大学の学生が興味をもってもらえる科目をセンター四国で考えてほしい。

（前田委員）
教育方針に基づいた科目開発が事業報告書に記載されているが、各大学によって AP・DP 等の教育方針が異なるため、当初の予定では教養教育科目の数学や外国語等を共同開講して各大学で共有・補完するということがうたわれていたと思う。教養教育科目を共同開講するためには各大学の教育方針を緩やかに目標設定しないと開講は難しいのではないか。

（野田委員）
将来的に四国国立 5 大学を一つの大学に統合し、教育方針も一つにしようと話が出るかもしれない。そうなると教養教育科目のコンテンツについて数学や物理の e-Learning コンテンツを流すだけではだめで学生が一方的にコンテンツを見るだけでなく、常に教員との対話が必要なのでそれができるようなシステムを作る必要がある。もし、地方大学には物理や数学は必要ないと言われる時代が来たら e-Learning が力を発揮するかもしれない。

議題 2　平成 28 年度事業実施計画報告

（前田委員）
平成 27 年度開講科目はすべて 2 単位で開講されていたが、平成 28 年度以降は 1 単位の科目がある。今までの PDCA サイクルによりモジュールやブロックを作るにあたって 2 単位では難しかったということか。

（村井教員）
愛媛大学では共通科目は 1 単位科目が e-Learning として主流と考えてよいか。

（愛媛大学根本教員（陪席））
愛媛大学では共通教育の中の高年次科目として提供を予定しているが、クォーター制を導入したため、共通教育科目は 2 単位から 1 単位で実施することとなった。また、コンテンツを制作する教員への負担、e-Learning に慣れていない学生のことを考慮して 1 単位の科目の制作を進めていくこととなった。

（村井教員）
各大学がクォーター制に移っていく時期に入っているため、今まで 2 単位だったところも徐々に 1 単位になっていくと思われる。

（野田委員）
各大学がすべてクォーター制にするのか、2 単位の科目を残すのかが明確にならないと、5 大学連携が 1 本化するという話になった時に違う方針ではまとまらないので、しかるべき場所で四国 5 大学の方針を定めたほうがすっきりするのではないか。

（大平委員長）
この事業の中だけの話ではなく、大学全体の方針と整合性を取りながら進めていく必要があるということか。

（野田委員）
そうである。平成 28 年度以降、先をみながら計画を進めなければいけない。

（前田委員）
平成 27 年度事業改善アンケート結果をみると、e-Learning を受講した場所について大多数が自宅の PC と回答しているが、自宅で受講するためのインターネット回線にかかる環境整備の費用が負担となっているのではないか。

（野田委員）
講義を自宅で学習することは望ましくないと思う。単位を出す科目の講義についてはしかるべき教室で質疑応答が自由にできる環境が必要である。大学に通わずに自宅で単位が取得できるということは単位取得制度の上でも問題ではないのか。コンテンツを流すだけならよいが質疑応答を含めると講義は大学で行わなければならないと思う。

（鈴木委員）
オンライン授業設計ガイドラインは非常によくできているが、これをどこまで守るのか。ガイドラインに沿って授業設計が行われると質の高い教育ができると思う。平成 27 年度開講科目がオンライン授業設計ガイドラインに沿っているかどうかの報告がない。ガイドラインが有名無実化しないように、作成したコンテンツがガイドラインに沿っているか確認を行った上で、次年度のコンテンツの開発を始める必要がある。コンテンツ数は増えても内容が伴わないということがないようにしてほしい。教育の領域や内容の問題ではなく、授業のコンテンツとしてのクオリティーについてはガイドラインに沿っていれば問題無いと思われる。平成 28 年度科目の作成について、平成 27 年度開講科目がガイドラインに従っているかどうかのチェックを行い、これから開発するコンテンツもガイドラインに従っていることを確認

しながら作成する必要がある。また、ガイドラインに従えば、1 単位や 2 単位であってもモジュール化することになっているので特に問題はないと思う。ガイドラインを大事にすればよい。

（大平委員長）
事業期間終了後も事業を継続させるための運営体制について検討を始める時期ではないか。予算が終われば事業も終わりといったことにならないように、次年度は具体的な体制についてそろそろ検討してはどうか。

議題 3　外部評価委員からの質疑応答及び意見交換

（野田委員）
大平委員長から話があったように今後事業年度終了後どうしていくかが重要である。e-Learning が本当に重要であるならば 5 大学がもっと結束する必要がある。であればセンター四国の方針を明確にして各大学の学長へアピールする必要がある。本事業がその準備段階として意味を持ってくるのではないか。

（鈴木委員）
違う仕組みをもつ大学が集まって同じ事業を行うというのは非常に大変である。大学間連携事業について試行期でそれを克服するノウハウが蓄積されたので今後他の大学間連携事業にも参考になると思う。また、コンテンツの質保証について、コンテンツ数を増やすことよりも数が少なくても質の高いものを作れば、同じような方法で拡大していくことができる。コンテンツの質が良く、異なるシステムを持つ大学でも受講できるということが実現すれば全国でも事例の少ない先例となると思う。他の大学の参考になるように蓄積されたノウハウを積極的に発信してほしい。

（前田委員）
外部からインターネットを使って各大学の知プラ e 科目についてアクセスしてみたところ、愛媛大学が知プラ e 科目に関するページを見つけにくかったが、教育デザイン室で作成している利用ガイドは非常に分かりやすくてよい。それが履修者増につながっていると思われる。シラバスがうまく検索できない例があったがログインしていないと利用できないのか。

議題 4　その他

特になし

（6）平成 27 年度大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員事前アンケート結果

第 1 部：平成 27 年度の活動に関する質問

1）本事業の業務は効率的に遂行され、目標を達成していますか。

回答	a.非常に優れている	b.良好である	c.おおむね良好である	d.判断できない	e.良くない
回答数	1	2	0	1	1

自由記述

○（回答：b）
ほぼ計画に沿って実施してきていると思われます。
27 年度は試行期の位置付けで実施してきていますが、28 年度からの拡充期に向けて、試行の検証は完了したと理解してよいでしょうか？拡充に当たって解決すべき課題は何で、それをクリアできる見通しでしょうか？
教育の質保証について、どのような材料・指標で検証する計画でしょうか？91～92 ページの資料ではよく分かりませんでした。

○（回答：e）
愛媛大学においては、本事業に関する事業は外部評価委員会以外には一切行われていないと思われる。（外部評価委員には知らさない方針なら別だが）

○（回答：d）
・【資料 3】は平成 27 年度の実績についての達成度なのか、それともこれまでの年度ですでに達成されているものも含めての達成度なのか、読み方が分かりません。平成 27 年度事業実施計画に基づくものであれば、すでに当該年度当初に達成されていたものは「実施計画」に入らないはずです。しかし、教育の質保証の仕組みの整備として掲げられている「設計・運用のガイドライン」については達成度 100%とされていますが、報告書案 p16 では、当該「ガイドラインは平成 26 年度に作成した」「平成 27 年度は改訂作業を行う予定」と書かれており、p18－21 に掲載された当該ガイドラインは平成 26 年度内に作成されたバージョンです。「改訂作業」が平成 27 年度の計画として書かれているべき事項であるとすれば、その作業結果は報告書には反映されておらず、自己点検で達成度 100%とすることに矛盾を感じるのですが、どう理解したらよいか教えてください。
・7 科目を開講したことはご苦労も多かったことでしょうが、受講者数の増加もあり一定の成果と考えられます。一方で、「ガイドライン」に照らした科目の評価結果は見当たらないようですが、開講中の科目は「ガイドライン」に沿ったものになっているのかどうか、自己点検情報の提供をお願いします。例えば、「授業設計ガイドライン」（5）には「自主的な学修を促すコンテンツを用意し、・・・以下の要素のいずれか一つ以上を含む」と具体的な要件が謳われています。一方で、アンケート結果（報告書 p50-54 ：問 16－2～5）を見ると、「有効であった」などのその要素が存在していたことが想定される回答と「教材として提供されなかった」との回答がそれぞれの科目に混在しているため、実態が把握できにくい状態になっています。アンケート回答の信ぴょう性も吟味する意味からも、ガイドラインに照らした科目の提供実態について客観的な分析が必要かと思われます。
・各年度・各科目の履修者の情報だけでなく、単位取得者数とその割合を示すデータの報告をお願いします。今年度の報告書には今年度の単位取得者数等についてのデータは時期的に報告が難しいと思われますが、昨年度のデータは報告されておらず、各年度・各科目の単位取得状況の実態が年度ごとの報告書には報告されずに終始する恐れがあります（アンケート結果は平成 26 年度のものが報告されていますが、単位取得状況の報告は見当たりませんでした）。各科目のシラバスに「科目設計ガイドライン」で定める条件が満たされる成績判定が明示され、それに従った成績判定をした結果として単位取得状況がどうであったかを示すことは、本事業の目標として掲げられている「現在以上に効果的な教育を実現することです」に直結する指標だと思われますので、報告漏れがないようにお願いします。
○（回答：a）
共同開講科目により受講者数が著しく増加していること

2）センター四国の組織体制は有機的に連携し、運用に効果を挙げていますか。

回答	a.非常に優れている	b.良好である	c.おおむね良好である	d.判断できない	e.良くない
回答数	0	1	1	3	0

自由記述
○（回答：d）
各大学から構成されている運営委員会や企画委員会では精力的に計画を実施しているが、各大学間で有機的に連携ができているとかは判断できない。
○（回答：c）
資料 4「開講科目」表では、3 大学のみの実施ですが、これは予定通りでしょうか？今後は 5 大学で開講を計画しているようですが、特に大きな問題なく実施できそうでしょうか？
各大学間で意識あわせが重要と思いますが、それは特に問題ありませんか？
○（回答：d）
少なくとも、愛媛大学に関する限り全く効果を上げていないと思われる。他大学は不明なので、「判断できない」とした。
○（回答：d）
効果的な運用を実現できているかどうかを判断するための資料が不足しており、判断しかねます。教務日程や時間割が異なる複数大学に科目提供する際には、一覧ページからの受講やフルオンデマンド形式は妥当なものだと理解できます。一方で、事業予算と決算の情報が示されておらず、また運用上にどのような方策がありどのような効果を上げたのかの自己評価結果も報告されていないようです。補助金終了後の運用体制や e ラーニング環境の検討も遅れているようですし、開発したコンテンツの可視化も実施計画通りには進んでいないようです。

○（回答：b）
全体状況が把握できるようになり、積極的な取り組みがなされていることがわかりました。

3) シンポジウムや研修会、ホームページ等を通じた本事業の啓発活動は効果的に推進されましたか。

回答	a.非常に優れている	b.良好である	c.おおむね良好である	d.判断できない	e.良くない
回答数		3	1		1

自由記述

○（回答：b）
HP 掲載などよく実施していますが、学生さんへの直接的なガイダンスを実施しているかどうかは分かりませんでした。ウェブサイトやポスター以外にも、そのような教員による直接的な周知も行えばより有効と思います。

○（回答：e）
四国全体では、どうされたか不明だが、少なくとも愛媛大学に関しては、シンポジウムや研修会の開催も聞かないし、学生への周知徹底もできていないようで、ウェブサイトにアクセスした事例も聞かない。

○（回答：c）
学会との合同シンポジウムの開催や関連学会などでの研究成果発表があり、本事業についての認知度が高まったと感じています。
ホームページについては、格段に充実度を増した印象ですが、本事業の研究成果が内外に啓発されていると思えるような情報はあまり見当たりませんでした。たとえば、学会での研究成果発表を行ったことや、「ガイドライン」で質保証に取り組んでいることなど、他地域でも参考になることを、その都度、タイムリーに発信していくことを望みます。

第 2 部：平成 28 年度の計画に関する質問

1） 平成 28 年度の実施計画に対する助言等ございませんか。

○共同教育実施モデルの運用過程で明らかになった具体的な課題とは何でしょうか。
○105 ページの資料 17「28 年度事業実施計画」の表で、2 項で「教育の質保証を可能にする要件の明確化」とありますが、資料 3（27 年度）にも同じ項目があります。27 年度は 100%達成と書かれています。毎回定期的に行うことは良いですが、27 年度と 28 年度の実施内容の違いは何でしょうか？
○以前から言っているが、少なくとも各大学で、それなりに業績を上げている研究者が中心になって、一定限の「自己 PR」や「学問に挑戦する意味と楽しさ」をコンテンツ化して発信することが必要で、愛媛大学でこのプロジェクトへの対応が不十分なのは、研究者でもなく、まともな教育を行ってもいないと思われる「教員」が組織を運営しているからだろうと思う。本気で、プロジェクトの再生や拡張を希望されるなら、「真の研究者」中心の組織化を進めるべきだろうと思う。
○・予定されている「フル e-Learning 授業で教育の質保証を可能にする要件の明確化」について、具体的な成果をあげ、内外に公表することを期待しています。研究成果が出れば積極的に関連学会等に報告されることを望みます。
・「外部評価委員からの意見に対する業務改善及び回答」に示されている資料（例えば、【資料 1－1】など）が見当たりませんでした。
・本アンケート第 1 部質問 1 の自由記述欄に述べたことは、昨年度の意見＜4－1＞に関することですので、十分な回答が得られていないという印象を持ちました。来年度に向けて改善をお願いします。

2） 平成 28 年度の啓発活動について助言等ございませんか。

○フル e-Learning 授業を目指される場合、いい教材の開発は当然として、まともな教育補助者の育成や、教材の質を専門家の意見で改良するシステム（愛媛で開発中：大学の関与は教育学部）や、授業中に適宜学生の意見の収集やミニテストのできるシステム（愛媛で開発中：大学の関与は工学部）等が必須になるだろう。教員は、e-Learning＋αを意識しなくては、文科省の言う通り、文系は不要とか、理学部数学科は不要等の意見に従うことになる。

第 3 部：その他助言等

1） 本事業の改善等、また次年度以降の課題・期待とする事があればご教授ください。

○ ・試行期の 2 年目で科目提供大学以外の履修者が大幅に増加したのは大きな成果である。しかし、徳島大学のような学生数が多い大学での履修者が少ないことや鳴門教育大学においてひとりも履修者がいない点がよくわからなかった。各大学での広報や履修案内に問題はないでしょうか。

・平成 26 年度-平成 27 年度の試行期から平成 28 年度-平成 29 年度の拡大期に履修者を増やすための具体策は知プラ e 科目を 7 科目から 14 科目に充実させる以外にどのような対策を考えられていますか。

・四国の 5 大学で学生への知プラ e の修学や履修の広報をどのように実施しているのかよくわからなかった。

○そろそろ事業終了後の体制や、本事業の継続の仕方やまとめ方などにつき、検討を始めることが必要と思います。

○現状では、大学間の提携が不十分だと思う。本当に、本事業を講義等に活用しておられる大学・学部や講義はどの程度あるのだろう？本来のこのような事業は、今後はおそらく四国の 5 大学が 1 法人のもとで動くようになるのでは？と思うし、そのような事態になると、この事業のようなものが、各キャンパスを通じて必須になるように思うが、ただ 90 分を流すのではいけなくて、質問 2 の自由記述欄に書いたような方向が必要と思う。また、テーマも現在の状況に見合うテーマをうまく配置すればいい。例えば、私個人で思うには、国立大学の在り方の自由討論、独創的で世界に伍する研究の在り方、地球温暖化と気象異変、現在のシリア等の問題と宗教（宗教を真正面にうたうのは問題かと思うが、私の研究者としての欧米・ロシア等の一級の研究者との専門を離れた話での大きな問題はやはり宗教だと思う。ある人は、「あなたの宗教は？」と聞いてくる。「無宗教だ」と答えると、「あなたは学問分野で世界に名前が通っているし、正しい人だからいいが、あなたの子供が可哀そうだ」とくる。無宗教は、殺人もなにをしてもいいということになる。この点、ユダヤ教もキリスト教もイスラム教も同一だし、中国でも孔子廟的な寺院が多くて、要人もそれなりの宗教心を持っている。この点、日本人の宗教観はないし、現在のイスラム国問題を考えると、イスラム教関係の教員は愛媛大学ではゼロなので、こういう問題をイスラムの視点からも捉えてもらったり、三大宗教を知ることは、単に英語を勉強する以上に、学生にグローバル社会で生き抜くすべを教えるのに役立つと思う。)、その他、多々今後のコンテンツの在り方を議論する必要があると思う。少し長くなりましたが。

2） その他、お気づきの点がございましたら遠慮なくご指摘ください。

○様々な会議等は確実に実施されているようですが、開講に当たり受講人数や開設科目数の違いなどがあり、大学間で取り組みに差があるように感じました。その点で特に問題はないでしょうか？

○上でも多々述べさせていただきました。やはり、大学での e-Learning ですから、大学の教員＝研究者が、研究者の目線で、学生を社会的に有為な人間に育成するために有用であることが必須だと思います。そのような視点で、今後も頑張っていただければ…です。

2.2.7.　シンポジウムの開催

「e-Learning を活用したアクティブラーニング」をテーマとして、平成 27 年 9 月 3 日（木）に徳島大学常三島キャンパスでシンポジウムを開催した。特別講演では、Leon Huijbers 氏（デルフト工科大学 ニューメディアセンター マネージャー）を招き、米国と比較した欧州の e-Learning 動向やオンライン教育の成功の秘訣について講話してもらった。その後、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国から e-Learning の取り組みについて紹介した。総合討論では、村上正行先生（京都外国語大学 教授）を迎えてセンター四国の各分室長と e-Learning の利点や課題について検討した。シンポジウムには 112 名の参加があった。

Leon Huijbers 氏による特別講演

総合討論

文部科学省　国立大学改革強化推進補助金事業

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施

知プラe

大学連携e-Learning教育支援センター四国

事業シンポジウム2015

入場無料

近年、学修者が主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブラーニング」）の重要性が指摘されています。本シンポジウムでは、高等教育機関のフルオンライン型授業においても学生が主体的・協調的に学ぶためにはどうすればよいか、科目や学生の特性に応じたe-Learningの活用方法はあるか、e-Learningと対面授業とをどうブレンドすることが最適かなど、「e-Learningを活用したアクティブラーニング」について議論したいと考えています。

特別講演ではMOOCsへの取り組みで著名なオランダのデルフト工科大学ニューメディアセンターマネージャーのLeon Huijbers氏から、米国と比較した欧州のe-Learning動向やオンライン教育の成功の秘訣についてお伺いします。その後、大学連携e-Learning教育支援センター四国から、四国におけるe-Learningの取り組みについて紹介します。

総合討論では村上正行先生（京都外国語大学 教授）を迎えてe-Learningの利点や課題に迫り、全体で「e-Learningを活用したアクティブラーニング」について検討します。

▶日　時

2015年 9月 3日（木）
13:45 ～ 17:00

▶場　所

徳島大学常三島キャンパス
工学部共通講義棟6階 創成学習スタジオ

テーマ

e-Learningを活用したアクティブラーニング

Program

12:30	開　場	受付開始
13:00	挨拶・表彰など	教育システム情報学会長挨拶・表彰等
13:45	挨拶・表彰など	開催校学長挨拶 香川 征（徳島大学 学長） 開催校より趣旨説明 金西 計英 （大学連携e-Learning教育支援センター四国 徳島大学分室長）
14:00	特別講演	The X-Factor in Online Education From European strategy to campus practice ※講演は英語（同時通訳はございません。） Leon Huijbers （New Media Center, Delft University of Technology）
15:30	事業紹介	センター長、各ワーキンググループ主査
16:15	総合討論	e-Learningを活用したアクティブラーニング 連携大学代表討論者 村井　礼（香川大学）　金西　計英（徳島大学） 宮下　晃一（鳴門教育大学）　田中　寿郎（愛媛大学） 立川　明（高知大学） 指定討論者 村上 正行（京都外国語大学 教授）
17:00	閉会挨拶	林 敏浩 （大学連携e-Learning教育支援センター四国 センター長）

共催：教育システム情報学会

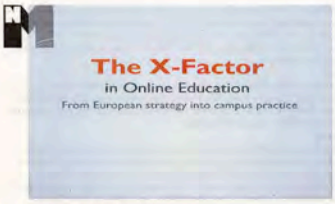
お問合せ
〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1 徳島大学内
大学連携e-Learning教育支援センター四国
徳島大学分室
Tel　088(656)7095

詳細
センター四国HP　シンポジウム案内
http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/event2015.html

申込みは裏面をご覧ください

事業シンポジウム 2015 のリーフレット

【特別講演】



Good afternoon, ladies and gentlemen.
Needless to say, I am very very pleased with the invitation to meet with you, today.

Intro
First of all, this is not a lecture! It's about how we in Europe – in the Netherlands – in the Delft University - react on a very exiting moment in education history.
What I would like to do today, is share that moment - that experience.... with you
Eh oh just one domestic notification...better warn you in advance!
I've built in some heavy alerts in my presentation! Don't be scared!! Hold your seat! Do not evacuate.

Agenda
It's about changes in our academic landscape, online education, principles and operations, in Europe, in the US and the Delft University of Technology. About translating new didactical scenarios in useful online formats. Course design – course production – and course publishing. For blended Bachelors, online Masters or Mooc's, alike. About our efficient workflow and the tools we use in Delft to produce and publish high volume academic videos and how we enhance campus education.
Most of all; about fulfilling the needs and expectations of a next generation students .
video airials campus
Let me take you by the hand and lead you through the streets of Delft
This is Delft University. The biggest and oldest of three universities of engineering in the Netherlands. About 4 square miles, 8 faculties in 8 different buildings, 3 research institutes, 20.000 students of which 14% are foreign. We offer 16 bachelors and 30 master courses, have 2600 phd's. 105 huge class rooms, spread all over the campus.

Educational landscape is changing
I firmly believe there is a transition going on. I mean look around you. Our economical processes are broke. World powers are shifting. Politicians have a hard time listening to the people. And the very foundation of our society; education, is no exception. Thus, every education system in the world is being reformed at the moment. We may bury our head in the sand and pretend not to hear, the reality is:
That somewhere in the world, as we speak, another university is going online. And somewhere, as we speak, a mass of students is enrolling on a distance online course.

1

The Industrial Revolution brought wealth and prosperity unseen before in human history. In 1750, the total wealth of the world sat at an estimated $126 billion dollars. Today world-wealth is over $70 trillion. It also brought along great leaps in transportation, medicine, civil rights and education. The bad news is: what got us here, will not take us further, anymore.
Situation in europe
In Europe, like anywhere else in the world, we are aware of this transition. And that it is complex! It requires rethinking, re-modeling. Maybe even redesigning our educational landscape. To make change in the way we teach and deliver students. Not just in Science or Engineering, but across all creative disciplines.

Effect on teaching
Education with youngsters supplied as products make way for a new thinker, with courage, imagination, entrepreneurship, creativity and organizational skills. These are the minds that will flourish. Reduction of talent in merely an IQ number is absurd. Difference and diversity are keywords. In each organization new people, new ideas will pop up. With new standards, values and responsibilities. According to Alvin Toffler (1928) futurist, journalist,

There is a huge education& technology exhibition in London each year. It is huge!
I visited this exhibition with Prof. Veen in 2003, Wim is recognized for his studies "The Homozappiens". With games, this generation is actually developing new skills and competences. In gaming, these kids take on different roles, learn different points of view. That, zapping is not being bored! But actually a fast understanding of context.. They learn different, this new generation. And it has effect on how we teach and deliver. What I saw, 12 years ago in London was, just way above my imagination. Technological classroom innovations – smart didactical software applications - learning management systems. But to my surprise, hardly any content! And I was thinking,its all about content, and content creation. If this is going to be my reality for the coming years, I better start digitizing right NOW!

2

Bottom line.....How to digitize 50.000 hours of lecture in a standard way, published organized on the Web, available for exchange and re-use, leaving the teacher in charge of his own content.

Weblecture service
My conclusion was, we should introduce a new standard service, easy to use, low cost and embedded in the organisation. We had to come up with a tutor-friendly solution. Reliable, modular built, a growth model. The source material should be archived, available for treatment, re-usable and exchangeable. With instruction and support. Above all: easy accessible by 99% of the student population. Mobile. Anytime anywhere. That's where Mediasite came in. That's how we started, 12 years ago.

Weblecture results
Today, we are currently delivering 20.000 weblectures generating 750.000 student visits per year for 33 minutes average. On a 20.000 student population, you might easy call this: Very popular! You know what is the most popular tool these 750.000 students use? The 2xspeedbutton! It seems our homozappiens is quick-witted.

Open course ware impact.
Alert, alert. Envision a world where everyone, everywhere could have access to education. The next big step for us, with a huge impact on today's situation, came in 2007. Delft embraced the Open Education movement. The Open Education Consortium is a worldwide community of hundreds of higher education institutions.

For them, openness should be a feature of education around the world. Accessible, modifiable, free.
Now why should we do that? Give away our knowledge for free? Why is Open Education so important to us? We think, like you, that education is essential to solve the challenges of the present and seize the opportunities of the future. And in order to solve these problems, we just have to open-up high-quality educational resources to a global audience. So people can fulfill their desire. And students get additional information to help them succeed - that workers may learn something to get further on the job - for teachers to find new ways to teach – and to translate, mix together and openly share materials.

3

Today, my university is re-using our web lectures, enrich them with assignments, tests and other learning materials in 165 courses, which are then published open on the web Delft is not unique! Some universities in Japan as I noticed, do the same. Japan has its own OpenCourseWare movement. Those are the main platforms we use. Until recently

Moocs impact
"There is a whole new world unfolding," said the M.I.T. president, Rafael Reif, "and everyone will have to adapt. Quite a statement here! Again time for an Alert!
Are Mooc's a hype? Or do they represent the end of the traditional academic institute, as we know it? That depends on whom you ask, I guess! Reason fenough or The New York Times to term 2012 the 'Year of the MOOC". And again, as the Opencourseware movement, it's having a huge impact on my University.

US-EU differences
At this point, although started at the University of Manitoba Canada, the MOOC movement is dominated by the United States. In the amount of courses, as-well-as in leading platforms.
In both parts of the world, the main goal is to gain institutional visibility and reputation. But also to improve quality of on campus offering, to realize more flexible off- and online education, to improve teaching and to respond better to the demands of learners and corporations.
Strange enough is it that Finance, like exploring cost reduction or generating income..... is NOT seen as a primary objective in both continents.

There are fundamental differences of opinion, though:
Take the credentials, for example. A large majority in the US, think Mooc credentials are a threat to campus value and might lead to the devaluation of the universities degree. Europe disagrees with that statement. Next, more than 80% of European institutions are convinced that MOOCs are important to learn from online pedagogy. In the US only 28% think that way. According to a European funded survey in 2014.
Even the objectives vary:
European universities have a positive attitude towards MOOCs. Those offering MOOCs, have positive experiences. What we observe is that in the US using MOOCs for student recruitment is the most important objective. While in Europe it is reaching new students and creating flexible learning opportunities, for those new students.

Moocs the European way.

4

Possible explanation for this differences is the lack of threat: European Universities are most part subsidized. The EU countries are having more government support and European funding on MOOC projects. Through HOME for example, in which 46 countries are united. Europe experiments more with online pedagogy and with different types of MOOCs. Great help is a solid ECTS framework for credentials. We are more confident in given credentials for MOOCs.

The European government stresses the need for stronger collaboration in Europe, based on the principles of transparent cooperation, mutual benefit and collective advantage. We think the open and online learning movement has great potential to educate the many. It is for those reasons that the Porto Declaration on European MOOCs calls upon all institutions to embrace open and online education.
Anyway, Europe is grabbing the opportunities MOOCs offer. And we are well on our way. Stimulated by national governments and the European parliament.

Mooc platforms

In januari 2012, Sebastian Thrun quit his respected position at Stanford to found Udacity. In April 2012, Stanford followed with Coursera and in May 1012, MIT and Harvard launched the EDX platform.
Europe's answer to keep their own educational identity is OpenUpEd, mentioned above, a pan-European MOOC initiative. Launched in April 2013. It has courses in 10 languages with universities, in France, the UK, Lithuania, the Netherlands, Slovakia, Portugal, Spain, and Italy. It also partners with universities outside Europe, in Russia, Turkey, and Israel.

TU Delft choice for edx

So, Delft University of Technology joins MIT, Harvard and Berkeley in The Edx consortium to fulfill their online ambition.
EdX aims to bring the best of higher education to students around the world and offers interactive online classes designed to be interesting, fun and rigorous.
The goals, however, go far beyond offering courses and content, only!
Openedx for example. These EDX universities want to share what they discover and inspire others? Empower educators around the world? Well, with this open source comes python-based EDX STUDIO! A simple, very complete coursemaker, any student assistant can handle. This is in my opinion, a key driver for new widely spread online platforms in Educationland.

Take "Extension Schools" for example. Originially, they offered a small program to local residents to give a taste of the University experience.
For a tiny number of people, a chance of earning an associate of some degree. A program, primary for adult part-time students.
But the school has since outgrown its original mission, and Universities move their online activities onto this local clone of OpenedX.
Designing new functionalities, pimping the the platform to their own "look and feel": OpenedX platform, Edraak from Jordan. For the Arab speaking world.
There are quite a few in China, like Tsinghua University. A French one.
Here is a japanese site using that same free sourcecode.
It looks like overnight, these worldwide platforms have become incredibly credible and highly in-demand. It sure signals a shift towards, new models of online education.
In Delft, for this reason, the board approved an innovation program, accelerated by the newly established Delft Extension School. This Extension school bundles all initiatives on open & online courses. For on-campus education and that global population of life long learners.

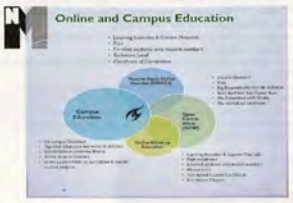
Delft online learning organization

Lets look at this video.
The Delft extension school is founded, to implement a two-year strategic program to experiment with online education, both on campus and fully online.
3 parties are collaborating in developing online courses:
Most importantly the faculty team: say the teacher with student assistance. They are the experts, the content-owners.
The NewMedia Centre: Course design, course production and course publishing.
And, this extension school: To organize, to research and develop, to take care of the learning experience, to explore new markets. And to come up with a new business model.

Business model

A "burning issue of MOOC is the lack of a clear business model. We need to make it sustainable. Funneling down from the Masses in Moocs it isn't difficult to imagine fees and credits for different audiences. Enter Spoc, small private online courses and the clue is in the "small and private" of the name. Spocs can just as MOOCs, be taken online from anywhere. They are intended for professionals with several years of working experience. It will be SPOCs for companies, in my opinion, emerging as a preferred

revenue model. We will then market right into a full campus program for full tuition. Say, MOOC'ers who might decide to come and study in Delft. We actually enrolled 377 extra international students this year, who were Mooc related.
In practice this means, we need different pedagogical agendas,re-using course materials for audiences, with different objectives on different channels.



The Delft policy

Next defined was a clear Delft online policy:
Campus education refers the use of online course material for our campus students. Students can partly follow their course online and the other part face to face.
The aim? To use face-to-face time more effectively! And hopefully better student results.
Online Distance education are Master fully online, and can be followed by current or new students all over the world. Lectures as well as guidance, takes place online.
Students can receive ECTs when finalizing these courses. OpenCourseWare is a free and open. As I explained before!, accessible to anyone, anytime on the Web. Massive Open Online TU Delft's MOOC's via the EdX platform. Students receive a certificate of accomplishment when they complete a MOOC.

Implementation and operations

Policy is one thing!. To find some early adaptors, willing to enhance their education and eager enough to participate is hardly a problem. But rolling out a long-term initiative campus-wide, is something else. The making of an online course is time consuming, time teachers are short of anyway! It differs very much from their daily routine and they may have to step out of your comfort zone. How to get them exited about it.
It is therefore, we created an atmosphere of Competition. We decided on tendering: 4 times a year. Honoring 4 online courses. Seduce them with incentives. Winning a budget for student-assistance, facilitating with advise and support, with production of learning materials, faulty can keep revenues and personal world-wide exposure.
And I must admit: Today, we sometimes even have to disappoint them. There are too many.

Blended Bachelor development.

MOOCs have an impact in reaching global audiences, and in spurring on the development of new educational technologies, even business models. However, one of the MOOC most important benefits is the opportunity to try new things. Without a willingness to experiment, we might totally miss ways to improve our courses.

Start Screencast!
Where the benefit of online education really starts is campus education, for our own students. The mix of face to face and online.

Student satisfacton

To our surprise the first blended bachelor performed much better then expected.
All lights on green for the first time in the history of the course, the satisfaction rate ended 4 on a 5 scale. It looks like flipping the classroom, mixing face to face with online, rises student satisfaction and discipline for the total course
The students in this course not only used the online tutorials, they attended all the face-to-face classes and even watched the existing web lectures.
Like one teacher said; Amazing....for the first time all of my students delivered their assignments complete and in time.
It all started off with staff sitting together looking over the total information to be teached. Deciding what was fit online and what certainly not. Which actually resulted in re-designing the course, in 5 instead of 10 classes. A huge time benefit for teacher and student. Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

How to institutionalize? In Delft

Now, thats where My trouble really began.
How the hell, am I going to survive in this landscape full of MOOCs, SPOCs, online Masters, Bachelors and still keep my job? I mean: we are talking about hundreds and hundreds of course materials. 40 to 50 academic video's per Course, 3 file types: A powerpoint, a textfile for download, a videofile. And I just new that: Straight forward capturing a classroom situation will simply be not enough, anymore!

The X-Factor

Top scientists in their field give Delft online courses. The course has to be of outstanding didactical content quality, learning material and presentation. Important side step is to position the TU Delft as leading university worldwide. This means that it's all about outstanding teachers, teaching outstanding courses, prestige and reputation.
Teaching and instructing on the Web has its own caracteristics. The dynamics of a 50 minutes classroom situation is a totally different "cup of tea". Interaction and connection with the online student, take place in another way. How do we create a solid pedagogic presentation and still make it an Xperience. Special attention should be paid to the student expectations and the way they use the web.

It should be: vivid – fascinating – reliable – enthusing – appealing – engaging- personal-quality- innovative.
I set the bar high. And to give mouth to our ambition, we went looking for the X-factor in online education. That un-definable something that make star quality.

Vision & mission NewMedia Centre

The TU Delft Library NewMedia Centre has a history in creating, producing and publishing scientific multimedia content. For print and on the web.
Since the focus is online, the NewMedia Centre developed a vision and workflow to produce didactically high quality attractive assets, as lowcost possible. Our ambition is to come up with a new standard in Course design, Course production and Course publishing. The Delft NewMedia Centre operates as one central platform., it's a platform where all comes together letting the different online initiatives benefit from each other, by exchanging educational content using it for different purposes, by standardizing new technology and functionalities as shown in this model. Most of all it's a co-creation platform between faculty – staff and creation. Lets have a look inside.

Online education platform

To manage that workflow from creation to a uniform publication on any recommended channel. Making weblectures re-usable and exchangeable, integrating existing technology and systems. Introducing the concepts: Assett management en Channel management. Looks like this....

Team & activities

If you knock on our door, we will capture all your classroom lectures and stream those 24/7 in Blackboard. We will make the invisible, visible by using 3D animated images. We do create your publishing platform, enrich it with webinars or social blogs.
But most importantly: We will help translating your new didactical scenario into an online format. How do we do that??
Well, first you need people. This is my team. Multi-dicsiplined. They are digital designers, Audiovisual engineers, copyright and pedagogical specialists. We hire students to help us out when things get rough. Without them I would n't give any garantee. Use students, its their future. And they give great feedback.

Service model

We introduce a 3 steps service model. The "You do it yourself" in this model is a strategic-one. In order to stay cost-effective we just have to share our knowledge. It will be impossible to counter the rise in demand with more staff and more budgets. Teaching the teacher the Newmedia centre is organizing workshops, online and onsite, publishing written and audiovisual tutorials as well as facilitating a few tools like the Doityourself studio.

The making of online formats & academic video

Let me be frank, straightforward capturing a classroom lecture is more like a reference book, ideal to prepare exams, isn't it? It got us started quickly and efficiently, but doesn't complete the online learning experience my University is looking for!
Today, we need to translate new instructional designed courses into a variety of online formats. And for these academic videos we would like a new efficient workflow to produce and publish hunderds of 10 minutes tutorials, Kahn-like solutions, instruction or learning modules. Whether it's a web lecture, a tutorial or any other video format, for the students today, it needs to be presented in a lively and enthusiastic way, while being engaging and personal at the same time. Matching the day-to-day Web/TV students experience
Most importantly: The translation of new didactical scenarios into online formats.
(10 examples and different ways of presentating courses, verbal explained)

The Media Tools

And how are we facilitating the production in day to day campus life?
In order to be flexible, we introduced a "roll around the campus solution".
Carts, equipped with AV technology, a sort of Click and Go system operated by instructed students. We can operate and in any room, making upmost use of machine time and life cycle.
Another benefit proved to be the fixed installs in classrooms. We had just too many students, no extra classroom space and no available teacher time. The alternative was giving class in the evening. Ofcourse no student was exited about that and no teacher either. Connecting six rooms streaming the signals to each room brought about a cost effective solution. Switching captures from room to room with 2 mediasite recorders.
Our studio really is state-of-the-art and equipped with latest greenscreen, lighting, audio and video technology. It's got LED's in all colors. Blackboard chalk is not digital. For

those teachers hanging unto blackboard writing, we have a super smartboard at their disposal. The nextdoor control room is comfortably provided with useful hard- and software to place you in practically any virtual background or location. The studio is mostly used for high quality creative academic video, webinars, and online presentations. We do facilitate videoconferences in that same room. All comes with coffee, an operator and technical support.
Blackboard chalk is not digital. For those teachers hanging unto blackboard writing, we have a super smartboard at their disposal.

DiY studio

In addition to the professional studio, the NMC recently features a small do-it-yourself studio. This space is extremely useful for the advanced presenter and shows the same functionality as Studio One. The difference is, you do it yourself according to Plug & Play principles. We'll standby! From your booking online to the publication on any online channel.
Now, some of the teachers really want to produce their lecture in their own time and pace. Understandable! And some may have experienced the studio and are ready to DoitThemeselves. My Collegerama is the desktop tool you may download from our server and have a go at it. Anytime-Anywhere. You are publishing your lecture in just a few steps. With it comes a handy tutorial to get started.

Production technique examples

In case of an online course with a clear didactical agenda, sequence and structure is needed. This guideline is arbitrary. Take it just as an example we use. The tutorial videos should be clear – personal – energetic – using quality graphics or visuals. Get his attention making a catchy or witty opening. Introduce briefly the subject of the tutorial. Refer to the previous one. Motivate with practical relevance or truly situations.
Ask a rethorical question after a few minutes for further engagement.
Point out a nice assignment and don't forget what the next lesson will be about.
We then do add some dynamics by switching images.
We will switch to full screen when PPT text or what you see is more important and dominant. And switch back to the teacher when what he says, needs the most attention

Teacher approach & execution

We'll prepare the educator as best we can. He will miss the classroom dynamic and the direct interaction with his students. We tell him to imaging a student somewhere in the world, sitting in his room behind a laptop with lots of distractions around. We tell him to

address this student personal. We offer a short training. Not to properly answer journalists questions. But to transfer information in a vivid, enthusing and engaging personal way! To play-out his passion, staying close to his character.
Next important step to get an X-factor is the spoken word. The NMC starts discussions with professors well before the actual classes are recorded. We will exchange ideas and introduce them to all possibilities. One of the few things we actually ask is scripting his speech. An online tutorial brings about a total different dynamic than a 50 minutes classroom situation. 9 to 10 minutes text needs to be written out by the teacher, to develop his method and to restructure his classroom lecture into an online format. De script is then used for metadata, for close caption or subtitles and to help communicate with assistants or fellow teachers. It might look time consuming, and it is. But it really pays off in the end. As a result, teachers are refocussing on their content. They actually enhance their style. Like one teacher said to me: " About time to pedagogically refresh after all these years, I even discovered some disorder and outdated information"

An Autocue is then placed over the camera to run the tekst. The teacher can focus on "How" to speech" instead of "what to say", avoiding stress, delay, stammering or stuttering. What will only distract from the main issue.
The teacher looks into the camera and adresses his student on his laptop screen in a personal manner.

Restyling learning materials

Most of us use slides, graphics or visuals in class. These materials need to be adapted for good online information transfer. The quality of learning materials is of paramount importance. Most classroom slide presentations are of no use online! Standard is HD 16 by 9. Fond size should be at least 24, for readability.
To much text, doubling with speech is killing. Specially when irrellevant. Slides just standing there, accompanied with minutes of speech, don't work either. It just does not Sometimes a pictures tells the story better.

Recording

Now here is where the good preparation really pays off. When all tekst is scripted, and materials are well prepared and approved, we'll record "on the fly". Since postproduction is very costly, we will record in one or two runs. More runs will wear out the teacher taking away the dynamic and energy.

So far: It's the teachers who deserve final credit for their amazing work. Some of them were naturals, some needed training but almost everyone came with an open mind ready to learn this new dimension to education and knowledge sharing.

To round it up! Video compilation lectures

MOOCs have an impact in reaching global audiences, and in spurring on the development of new educational technologies and business models. However, one of the MOOC most important benefits is in affording the freedom and opportunity to try new things. Without a willingness to experiment, our faculty members might not have ways to improve their courses. We will continue to create opportunities, along innovative tools and ideas. Stimulating new possibilities in teaching and new ways to improve learning.

Takeaways

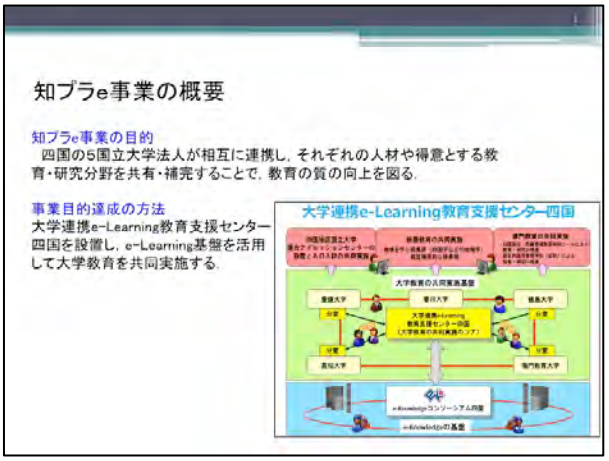
Well, I believe that online teaching and learning will be very much into the DNA of the 21st century and of great importance. I bet a fine bottle of wine the Web plays an important role in it. Rich and Multimedia technologies together with instructional designers and excellent teachers will shape the next generation University. And with it, the demand for online course design, course production and course publishing will certainly grow. I kindly invite you all to get involved in it

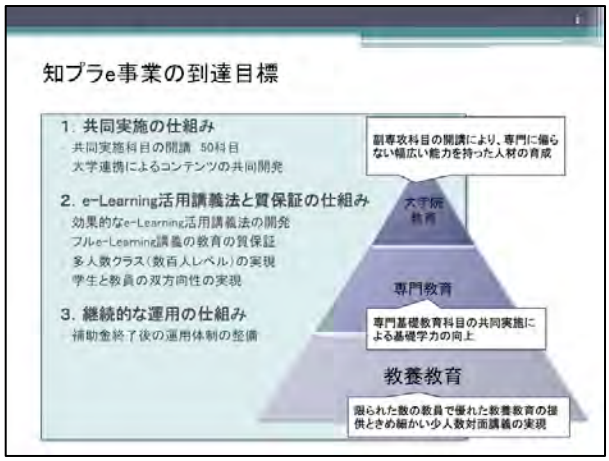
Thank you!

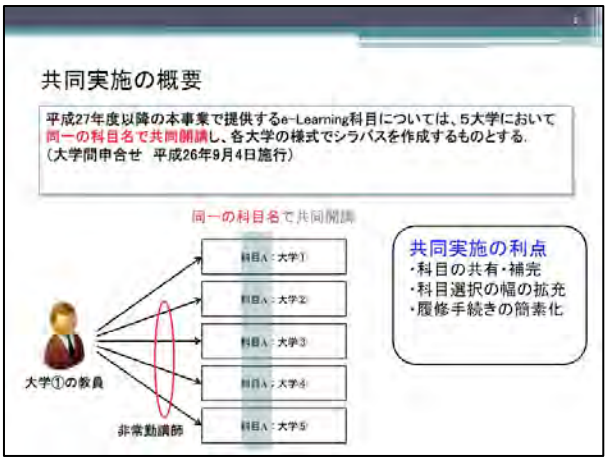
13

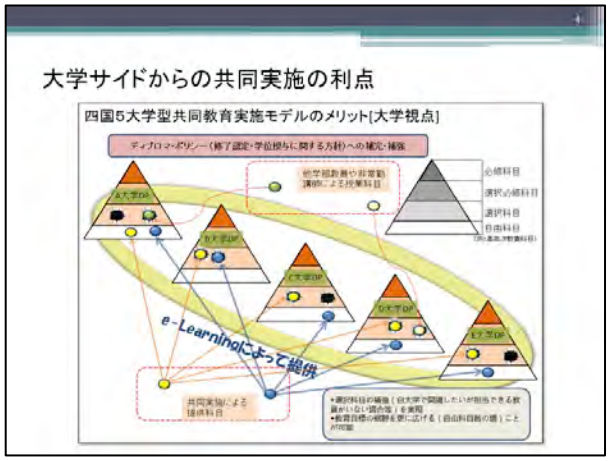
【知プラ e 事業の紹介】

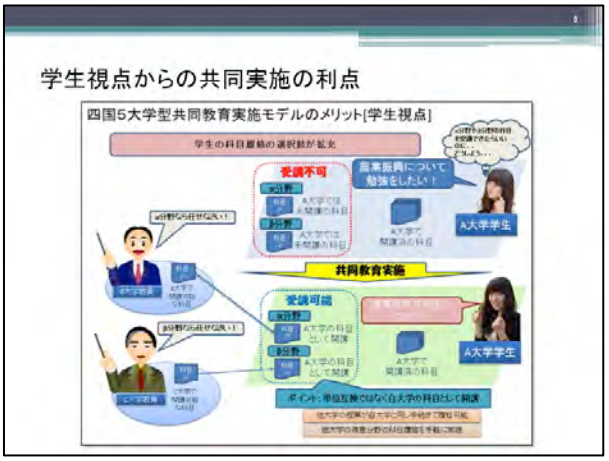
文部科学省 国立大学改革強化推進補助金事業
四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施（知プラe事業）
大学連携e-Learning教育支援センター四国
センター長　林敏浩（香川大学）
知プラ e
知プラe
検索


知プラe事業の概要
知プラe事業の目的
四国の5国立大学法人が相互に連携し，それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで，教育の質の向上を図る．
事業目的達成の方法
大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置し，e-Learning基盤を活用して大学教育を共同実施する．
大学連携e-Learning教育支援センター四国

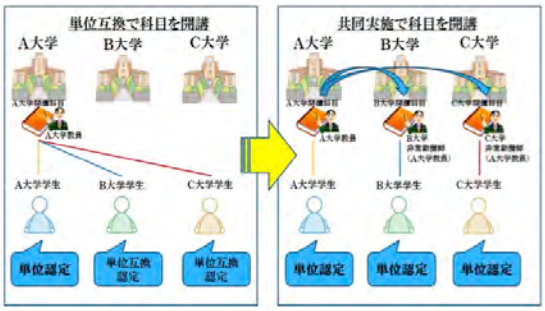

知プラe事業の到達目標
1. 共同実施の仕組み
共同実施科目の開講　50科目
大学連携によるコンテンツの共同開発
2. e-Learning活用講義法と質保証の仕組み
効果的なe-Learning活用講義法の開発
ブルe-Learning講義の教育の質保証
多人数クラス（数百人レベル）の実現
学生と教員の双方向性の実現
3. 継続的な運用の仕組み
補助金終了後の運用体制の整備
副専攻科目の開講により、専門に偏らない幅広い能力を持った人材の育成
大学院教育
専門教育
専門基礎教育科目の共同実施による基礎学力の向上
教養教育
限られた数の教員で優れた教養教育の提供ときめ細かい少人数対面講義の実現


共同実施の概要
平成27年度以降の本事業で提供するe-Learning科目については、5大学において同一の科目名で共同開講し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする．
（大学間申合せ　平成26年9月4日施行）
同一の科目名で共同開講
科目A：大学①
科目A：大学②
科目A：大学③
科目A：大学④
科目A：大学⑤
大学①の教員
非常勤講師
共同実施の利点
・科目の共有・補完
・科目選択の幅の拡充
・履修手続きの簡素化


大学サイドからの共同実施の利点
四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[大学視点]
e-Learningによって提供


学生視点からの共同実施の利点
四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[学生視点]
学生の科目選択の選択肢が拡充
受講不可
受講可能
共同教育実施
A大学学生

学生視点からの共同実施の利点



共同教育実施の課題とワーキンググループ（WG）

共同教育を行う際の課題
- 共同教育の運用体制（規程等）
- 履修方法等（異なる教育システムへの対応）
- 専門科目の開設
- キャリア教育科目の開発
- コンテンツ開発（著作権処理ほか）
- 教育の質保証
- 非常勤講師任用手続き
- LMSや遠隔講義システムなどの構築・運用

大学連携e-Learning教育支援センター四国 → 企画委員会

- 共同教育実施モデル検討WG
- 専門科目検討WG
- キャリア教育科目検討WG
- コンテンツ開発検討WG
- 教育の質保証等検討WG
- 非常勤講師の手続きの簡素化に関する検討WG
- システム検討WG

これまでの検討課題別の成果物の例

検討課題	検討項目	成果物
運用体制の整備	組織の設置、規程等の整備	四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ、ほか
共同教育の実施モデルの確立	履修手続き、成績評価方法、シラバス等、5大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備	履修・成績入力期間一覧 シラバス情報収集フォーマット
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの	授業設計ガイドライン 授業運用ガイドライン 授業評価アンケート

授業科目

H27年度後期開講科目

No	科目名	担当教員	提供大学
1	地域コンテンツと知財管理	村井礼 他	香川大学
2	香川を学ぶ	林敏浩 他	
3	情報のいろは	林敏浩 他	
4	知の探訪	金西計英 他	
5	日本におけるドイツ兵捕虜1914－1920	井戸慶治	徳島大学

授業科目

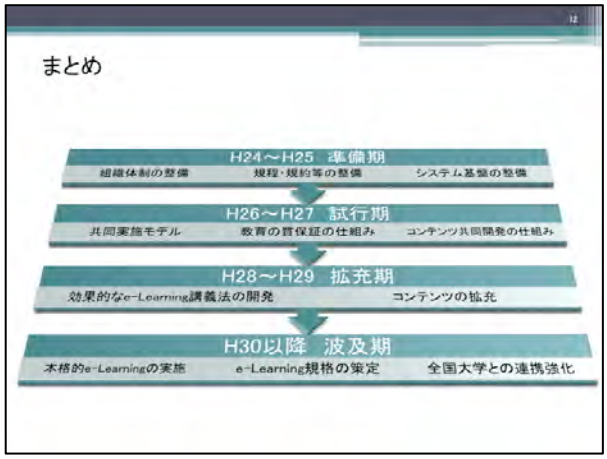
H28年度新規開講予定科目

No	科目名	担当教員	提供大学
8	瀬戸内地域活性化政策	村山卓	香川大学
9	瀬戸内海論	原直行	
10	香川の文化と歴史	原直行	
11	現代科学と研究倫理	金西計英	徳島大学
12	学校教員の世界	宮下晃一 他	鳴門教育大学
13	タンパク質で生命を斬る	坪井敬文 他	

単位を付与しないコンテンツ

H28年度新規提供予定

No	科目名	担当教員	提供大学
1	研究倫理	田中 寿郎	愛媛大学


まとめ
H24～H25　準備期
組織体制の整備
規程・規約等の整備
システム基盤の整備
H26～H27　試行期
共同実施モデル
教育の質保証の仕組み
コンテンツ共同開発の仕組み
H28～H29　拡充期
効果的なe-Learning講義法の開発
コンテンツの拡充
H30以降　波及期
本格的e-Learningの実施
e-Learning規格の策定
全国大学との連携強化

【共同教育実施モデル検討 WG】

平成27年9月3日　シンポジウム（徳島大学）

事業シンポジウム2015
共同実施モデル事業報告

愛媛大学分室　田中寿郎

本プロジェクトの目標（5年後の成果）

各大学が持っている教育資源を共有し，eラーニングを用いて有効に活用することで，現在以上に効果的な教育を実現

大学院教育	副専攻科目の開講により，専門に偏らない幅広い能力を持った人材の育成
専門教育	専門基礎教育科目の共同実施による基礎学力の向上 各大学の特徴ある専門講義の共有による教育の充実
教養教育	限られた数の教員で優れた教養教育の提供ときめ細かい少人数対面講義の実現

5年後のビジョンを達成するために解決すべき課題

モデルワーキングの主な審議事項（「四国5大学型共同教育実施モデル」の実現）

Ⅰ　共同で取り組むべき課題
1. 共同実施の仕組みづくり
2. 効果的なeラーニングを用いた講義法の開発
3. 継続的な運用に係る仕組みの策定と実施組織の整備

愛媛大学で実施する内容

Ⅱ　各大学で取り組むべき課題
1. 共同科目実施のための仕組みづくり
2. 共同実施科目を利活用した教育改善

1. H26年度までの成果
モデルWG

1. プロジェクトの到達目標共同実施モデル案
2. eラーニング科目の選定
3. eラーニング授業実施プロセス策定：履修から成績判定まで
4. 履修案内の方法と内容

2. H27の課題

平成26年度までに立案した共同実施案に基づき実際に共同実施を試行する。

- 28年度からの本格的な共同実施に向けた各手続きの問題点の洗い出しと改善

3. 愛媛大学における教育改善

- 教養教育科目に「高年次教養科目」を新たに設ける（平成28年度カリキュラムから実施）

2年次後期以降に履修すべき、高度な内容の教養科目
5大学連携による教養科目を含めて開講

4. 愛媛大学におけるコンテンツ作製の考え方

- 教養教育　愛媛大学の特徴ある研究に基づいた高度で特徴ある教養科目（高年次教養科目）
- 専門科目　専門教育で多くの大学で共通に必要な科目
  例　知的財産権（工学部など）
  安全衛生入門
- 大学院科目　研究者として共通に必要となる科目
  例　研究倫理

四国5大学型共同教育実施モデルの確立

四国5大学型共同教育実施モデル

教育システムや教育理念の異なる大学間で教育資源を共有し，eラーニングを用いて有効に活用することで，各大学がそれぞれの教育理念に基づいて効果的な教育の実現を可能とする方策。

補助金終了後の問題の議論を！

1. 共同授業の実施の継続
2. コンテンツの維持管理
3. コンテンツ作製機能の維持
4. eK4との関係

【コンテンツ開発検討 WG】

2015年9月3日

コンテンツ開発検討 WG報告

主査校：香川大学

WG発足の経緯

５大学間のコンテンツ開発体制の違い

- 撮影・編集等コンテンツ開発スキル
- 著作権処理
- コンテンツ配信の仕組み

これまでの検討課題と成果物

検討課題	検討時期	コンテンツ開発・利用できる仕組みの整備	著作権処理の共有
検討概要	H26 5月	検討課題と検討スケジュールの決定	
	9月	ガイドライン策定	各大学の著作権処理の調査
	11月	各大学のPC環境調査 コンテンツ視聴環境の担保	著作権処理の共有
	1月	運用細則（動画形式等）決定	
	H27 8月	コンテンツ視聴確認方法の決定	
成果		・コンテンツ開発ガイドライン ・運用細則 ・コンテンツ視聴確認チェックシート	・譲渡証書

コンテンツ開発ガイドラインの取決事項

コンテンツ提供者に自由利用（改変等含む）を認める

運用はゆるやかに利用許諾も可

用語の定義

ガイドライン内の用語を質保証WGに準拠

著作権等の処理

ガイドライン

制作コンテンツの著作権の帰属先、５大学間の相互利用

第三者著作物の利用・肖像権・個人情報等の権利処理

コンテンツ開発

視聴環境・動画形式・配信までのスケジュール

eラーニング講義の構成・ Moodle機能設定は質保証WGに準拠

詳細は事業報告書２０１４（HPより電子版を配信）をご参照下さい

コンテンツ配信に関する取決め

項目	内容
想定する視聴環境	最低限，各大学のPCルーム等での視聴を担保 ※詳細は運用細則 ※各大学の裁量で視聴保証する環境を提供するのは拒まない
コンテンツの開発から配信までのスケジュール	第１回目のe-Learning講義配信日の１か月前までにアップロードを行い，５大学で相互確認 ※詳細はコンテンツ視聴確認チェックシート

運用細則（概要）

視聴担保するPCスペック	
OS	Windows 7相当以上
ブラウザの種類	IE(ver. 8以上) を推奨
Adobe Flash Playerバージョン	ver. 13以上
システム メモリ	1GB以上

ビデオ書き出し設定（推奨）	
コンテナ	FLV
映像解像度	480p
フレームレート	25
ビットレート	500～800kbps

今後の課題

- タブレット端末への対応方法検討（愛媛大学提案）
- Moodleの機能設定

【教育の質保証等検討 WG】

質保証検討WG

事　業　報　告

徳島大学 総合教育センター　　金西　計英

Tokushima University 2015

質保証検討WG

5大学連携事業におけるeラーニング授業の提供において，履修学生に対し，対面授業と比して大きな差異の無い教育効果を保証することを目的に，授業の設計や授業の運用のモデルの検討・開発，継続的な改善のプロセスの確立を目指す。

Tokushima University 2015

活　動　内　容

- 基準となる項目の検討
- ガイドラインの作成
- 評価方法の検討
- PDCAサイクルの確立

Tokushima University 2015

1. eラーニング授業の位置付け

- 知プラeの提供するeラーニングの授業を、単位を付加することのできる授業の一つとして位置付けることとした。
- 愛媛大学の『愛媛大学における「多様なメディアを高度に利用して行う授業」実施等に関する申し合わせ」を参考に、eラーニング形態の授業を、各大学が提供する授業の一形態として位置付ける、内規、申し合わせ等を作成することとした。

Tokushima University 2015

2. オンライン授業設計ガイドラインの開発

- 知プラeの提供するeラーニング科目を質を保つという観点から、各大学がそれぞれ提供するeラーニングコンテンツの品質を揃えるため、「オンライン授業設計ガイドライン」を開発することとした。
- 「オンライン授業設計ガイドライン」には、eラーニングコンテンツの構成や設計に関する定義をおこなった。このことにより、5大学の提供する各コンテンツを利用した教育の水準を、まずは、外形的に揃えることを目指した。

Tokushima University 2015

3. オンライン授業運用ガイドラインの開発

- 知プラeの提供するeラーニング科目を質を保つという観点から、eラーニング科目の実施において、その運用方法を揃えるため、「オンライン授業運用ガイドライン」を開発することとした。
- 「オンライン授業運用ガイドライン」は、「オンライン授業設計ガイドライン」と対をなし、eラーニングコンテンツの構成とその実施の方法を、5大学で揃えることを目指した。

Tokushima University 2015

4. オンライン授業改善の循環形成の検討

- 知プラeの提供するeラーニング科目の質を保つためには、恒常的な改善の循環を形成する必要がある。そのための改善方法についての検討を始めた。
- 授業評価アンケートの実施と、アンケート項目の設計をおこない、平成26年度の後期より試行を始める。アンケートの結果に基づき、オンライン科目の改善を進めることとした。

Tokushima University 2015

5. 柔軟なコンテンツ活用方法の検討

- ブレンド型の授業のように、eラーニングの活用が多様化することが想定されることから、知プラeにおいても柔軟な学習環境の提供に対応することが求められる。eラーニングコンテンツの部品化や、共用に関する検討を始める。
- 「補助学習コンテンツの取り扱いに関する申し合わせ（案）」を作成することで、eラーニングの多様な活用に備えることとした。

Tokushima University 2015

6. その他

- その他、知プラeの提供するeラーニング科目の質保証に関する検討事項を取り扱うこととした。
- 各提供科目で指定された書籍の取り扱いについて、現状での実態や整備の方法について検討した。

【キャリア教育科目検討 WG】

キャリア教育科目検討WG報告

主査 宮下 晃一（鳴門教育大学）

これまでの検討結果の概要（1）

・受講対象者は、5大学の全学部学生

学生が多様な分野の職業について学ぶことによって、学生自身が持つ専門性を活かす方法を柔軟に思考できる力量をつけさせることがねらい。

・授業内容は、まず1科目目として「学校教員」に関する内容

その後、他の分野、例えば「医療」「製造業」「農林水産業」等に関する科目が考えられるが、それらに繋がりの深い学部の協力が必要になる。

・就活支援だけを目的としない

社会に出てから能力開発や基礎力を育成する上で役立つ内容を提供すること。

これまでの検討結果の概要（2）

・コンテンツの制作方法

様々な分野で活躍する専門家に対する取材映像を中心に大学教員が解説を行う。

90分の授業を、30分の取材映像2本と大学教員の解説、質疑で構成する。

90分×15回で2単位の授業とする。

学校教員の世界

学校教員の仕事の内容、学校教員と子どものかかわり、学校教員としての自己研鑽、授業の様子などを取り上げ、学校教員になるために今何をすべきかについて考えを深める。

（他学部の学生にとって）

様々な学部で学んでいる専門性を活かせる職業の一つとして学校教員の魅力と難しさを学び、大学において何を学ぶべきかを自ら気付くことを目的とする。

「学校教員の世界」制作上の特徴

・鳴門教育大学の専門性を活かした内容

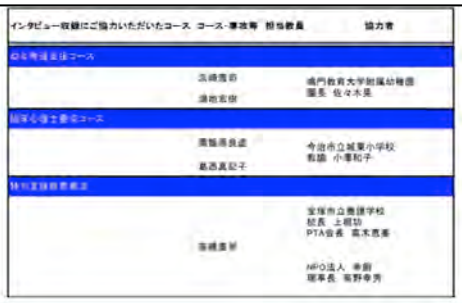
・鳴門教育大学のほぼすべてのコースが制作に関わった

担当教員の負担を分散できた

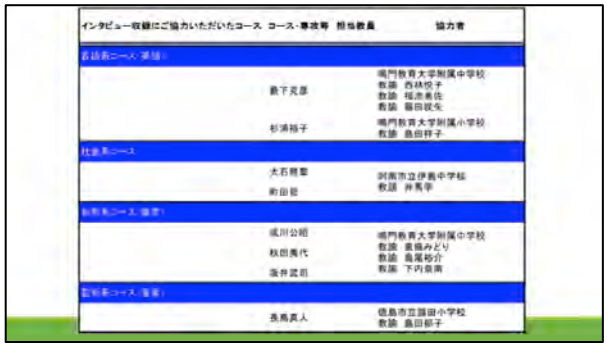
多くの先生がeラーニング制作を経験した

・現職の学校教員による、現場に密着したリアルなコンテンツ集

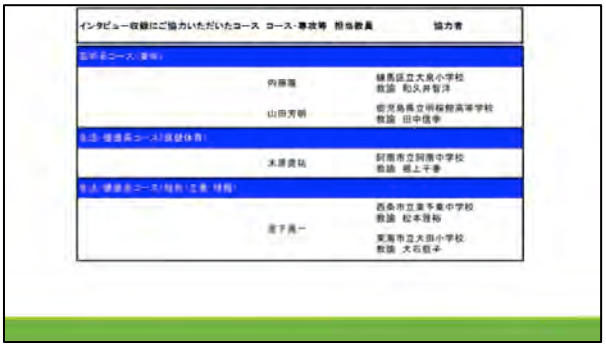
通常の授業では準備しにくい内容



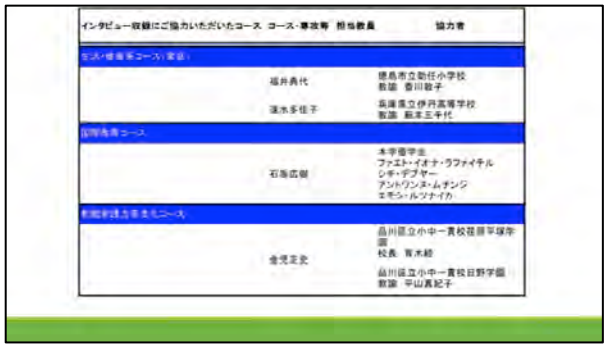
インタビュー収録にご協力いただいたコース	コース・事業等	担当教員	協力者
[illegible]			
	[illegible]		鳴門教育大学附属幼稚園 園長 佐々木晃
	[illegible]		
臨床心理士養成コース			
	[illegible]		今治市立城東小学校 教諭 小澤和子
	[illegible]		
特別支援教育概論			
			宝塚市立長尾学校 校長 上根功 PTA会長 高木恵美
	[illegible]		
			NPO法人 [illegible] 理事長 [illegible]



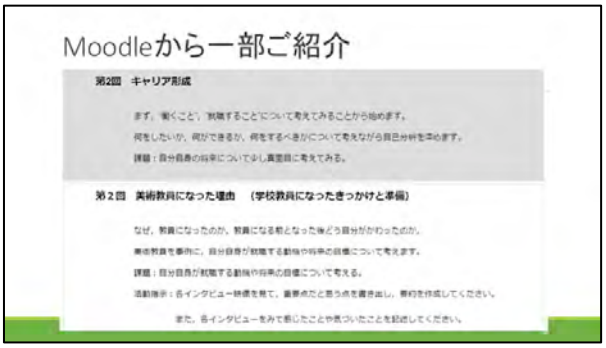
インタビュー収録にご協力いただいたコース	コース・専攻等	担当教員	協力者
言語系コース（英語）			
		鈴下克彦	鳴門教育大学附属中学校 教諭 西林悦子 教諭 福志美佐 教諭 藤田政矢
		杉浦裕子	鳴門教育大学附属小学校 教諭 島田祥子
社会系コース			
		大石晋輩	阿南市立伊島中学校
		前田哲	教諭 井馬亭
数学系コース（数学）			
		成川公昭	鳴門教育大学附属中学校
		秋田美代	教諭 倉橋みどり 教諭 島尾裕介
		海井武司	教諭 下内良南
理科系コース（理科）			
		長島真人	徳島市立論田小学校 教諭 島田郁子



インタビュー収録にご協力いただいたコース	コース・専攻等	担当教員	協力者
国語系コース（国語）			
		内藤隆	練馬区立大泉小学校 教諭 和久井智洋
		山田芳明	宮崎県立明桜館高等学校 教諭 田中信幸
生活・健康系コース（保健体育）			
		木原貴祐	阿南市立阿南中学校 教諭 根上千春
生活・健康系コース（特別・支援・特殊）			
		渡下義一	西条市立東予東中学校 教諭 松本雅裕
			東海市立大田小学校 教諭 大石恵子



インタビュー収録にご協力いただいたコース	コース・専攻等	担当教員	協力者
生活・健康系コース（家庭）			
		福井典代	徳島市立勢任小学校 教諭 香川敏子
		清水多佳子	阿南市立伊丹高等学校 教諭 新本三千代
保育専攻コース			
		石海広樹	本学保学生 ファエト・イオナ・ラファイチル シチ・デアサー アントワンヌ・ムチンク エモシ・ルツナイカ
教育学部生涯学習コース			
		金児正史	品川区立小中一貫校荏原平塚学園 校長 百木綾
			品川区立小中一貫校荏原学園 教諭 平山真紀子



Moodleから一部ご紹介

第2回　キャリア形成

まず、「働くこと」、「就職すること」について考えてみることから始めます。

何をしたいか、何ができるか、何をするべきかについて考えながら自己分析を深めます。

課題：自分自身の将来について少し真面目に考えてみる。

第２回　美術教員になった理由　（学校教員になったきっかけと準備）

なぜ、教員になったのか、教員になる前となった後どう自分がかわったのか、

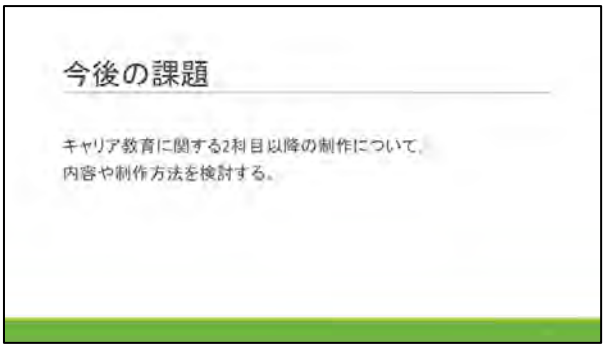
美術教員を事例に、自分自身が就職する動機や将来の目標について考えます。

課題：自分自身が就職する動機や将来の目標について考える。

活動指示：各インタビュー映像を見て、重要点だと思う点を書き出し、要約を作成してください。

また、各インタビューをみて感じたことや気づいたことを記述してください。

- 課題1：各インタビュー毎に重の事項を書き出し要約してください。
- 課題2：各インタビューをみて感じたことや気づいたことを記述してください。
- 動画1-1 鹿児島教員へのインタビュー１（担当手話明）
- 動画1-2 鹿児島教員へのインタビュー２（担当手話明）
- 動画1-3 鹿児島教員へのインタビュー３（担当手話明）
- 動画1-4 鹿児島教員へのインタビュー４（担当手話明）
- 動画2-1 東京教員へのインタビュー１（担当手話明）
- 動画2-2 東京教員へのインタビュー２（担当手話明）
- 動画2-3 東京教員へのインタビュー３（担当手話明）
- 動画2-4 東京教員へのインタビュー４（担当手話明）
- 【ディスカッション】あなたが教員になりたいと思ったきっかけ



今後の課題

キャリア教育に関する2科目以降の制作について、
内容や制作方法を検討する。

【専門科目検討 WG】

2015年知プラe事業シンポジウム
専門科目ワーキング報告

9月3日(木)
徳島大学

高知大学
大学教育創造センター
立川　明

専門科目ワーキングのミッション

- 専門科目の非常勤講師任用について
- 各大学での専門科目受け入れについて
- 履修登録等のスケジュールについて
- 科目名のバッティングについて

総合教育センター　立川　明

検討結果

- 専門科目の非常勤講師任用について

共通教育・専門科目の別なく一括承認する
（非常勤講師の手続きの簡素化に関するワーキング）

総合教育センター　立川　明

検討結果

- 各大学での専門科目受け入れについて
- 科目名のバッティングについて

要卒単位については学部に裁量権
本Wの権限でできることはなさそう

総合教育センター　立川　明

検討結果

- 履修登録等のスケジュールについて

履修登録の電子化→履修登録期間の共通化
共通教育Wで決めたスケジュールで問題ない

総合教育センター　立川　明

専門科目W今後のミッション

- 専門科目コンテンツの作成者支援

通常の分室業務

tatukawa@kochi-u.ac.jp

総合教育センター　立川　明

【システム検討 WG】

事業シンポジウム2015

システム検討ワーキンググループ(WG)報告

大学連携e-Learning教育支援センター四国
システム検討WG主査　林敏浩(香川大学)

システム検討WGの課題

大学連携e-Learning教育支援センター四国における大学教育の共同実施に必要な遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤の整備に関すること

・ポータルサイト，認証方式，コンテンツの管理
・倫理規程など

認証方式について

Shibboleth認証
徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
高知大学

GakuNin
愛媛大学

→

Shibboleth認証
徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
高知大学
愛媛大学

事業期間内又は5大学が
GakuNinに対応するまで

→

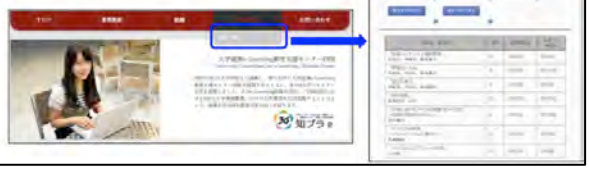
GakuNin

将来的に

課題
5大学でGakuNin対応への動きがあるが，LMSレベルのGakuNin対応は未定

ポータルサイトについて

平成27年度開講科目については，センター四国のホームページより各大学のMoodleコースにリンクを張ることで対応することとした。

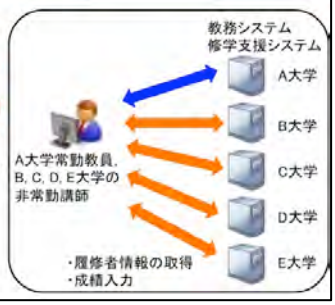


倫理規程について

知プラe科目の履修生を対象に調査を実施する場合の倫理規程(原案)を香川大学と徳島大学の工学部の倫理規程をベースに作成する。

検討中の課題

- 知プラe科目担当教員が連携大学の教務システムや修学支援システムにアクセスして，履修者情報の取得したり成績入力することに関する検討を開始
- セキュリティポリシーなどの観点から慎重な議論が必要



2.2.8.　スキルアップ研修会

(1) 平成 27 年度第 1 回スキルアップ研修会の概要を以下に示す。

【日時】平成 27 年 11 月 16 日（月）13:30～17:00

【会場】香川大学幸町北キャンパス OLIVE SQUARE2 階 多目的ホール

【講師】安部貴士氏（株式会社火燵 代表取締役）

【内容】

講義「動画撮影・編集の基礎知識と動画撮影の基本テクニック」

演習「iPhone や iPad を用いた動画撮影・編集」

株式会社火燵 代表取締役 安部貴士氏を招いて、「iPhone や iPad を用いた動画撮影・編集のスキルアップ」をテーマとした研修会を実施した。なお、会場となる香川大学内では、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国の活動に対する認知度を向上すべく FD 研修会として実施した。本研修会には 5 大学から 29 名の参加（Ustream 配信視聴による遠隔参加者を含む）があった。参加者は、前半の座学において、動画撮影・編集機器の変遷から撮影前に企画を作り込むことの重要性などの基礎知識、ズームやアングルなどの動画撮影テクニックに関する講義を受け、後半の演習では、e-Learning コンテンツとして需要のある PinP 形式の動画作成を実際に iPhone や iPad を用いて体験した。また、講義・演習内容に関して活発な質疑応答及び情報交換が行われた。

(2) 平成 27 年度第 2 回スキルアップ研修会の企画を以下に示す。

【日時】平成 28 年 1 月 13 日（水）13:00～15:00

【会場】MCU による遠隔開催　（主会場）愛媛大学

【対象】知プラ e 事業において e ラーニング開発に携わる教職員

【講師】根本淳子氏（大学連携 e-Learning 教育支援センター四国サンプル授業設計プロジェクトチーム）

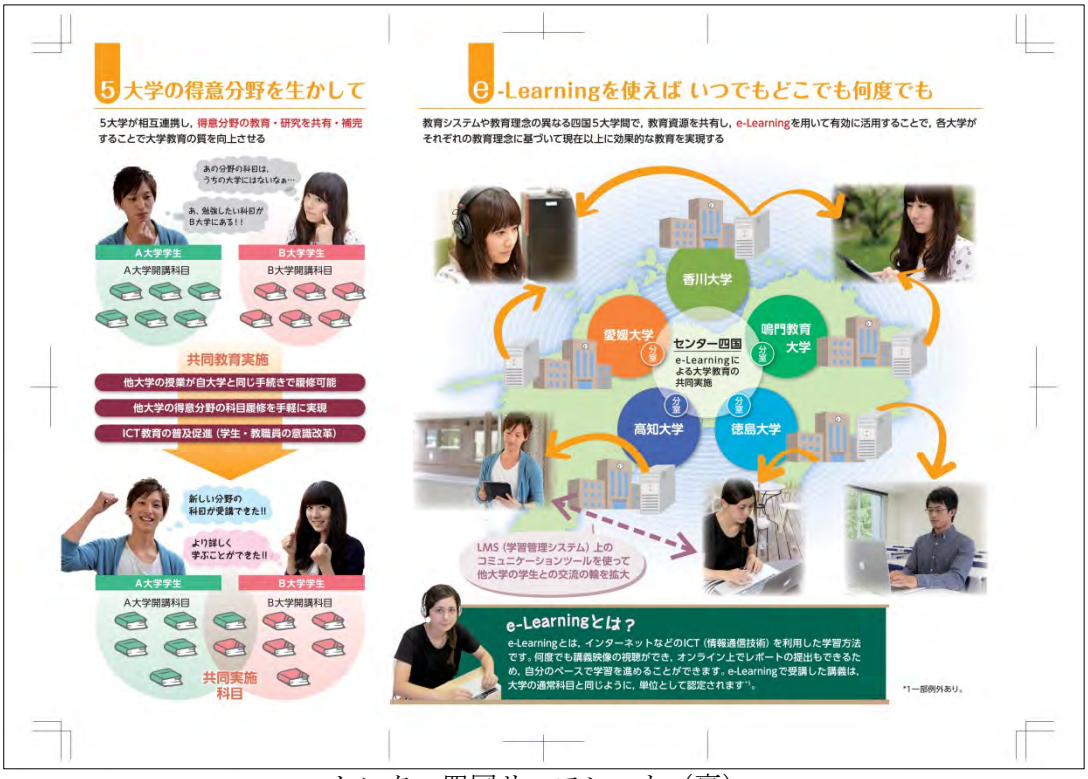
【内容】e ラーニング教材設計ワークショップ

知プラ e 事業において e ラーニング開発携わる教職員を対象に、e ラーニング教材の開発設計についての共通理解を構築することを目的とした参加型のワークショップを実施した。参加者には事前にサンプル授業設計プロジェクトチームで開発したオンライン授業設計ガイドブックと授業設計のためのワークシートが配布され、ガイドブックで提示した開発プロセスに関する各大学の現状報告とワークシートを活用した結果を事前課題として持ち寄り実施した。これらのリソースを用いて各大学の開発プロセスの現状について共有した。また、ワークブックと開発で活用できるワークシートと開発確認シートについて説明し、現場においてどのように活用できるか、また、共通の活用方法について議論した。

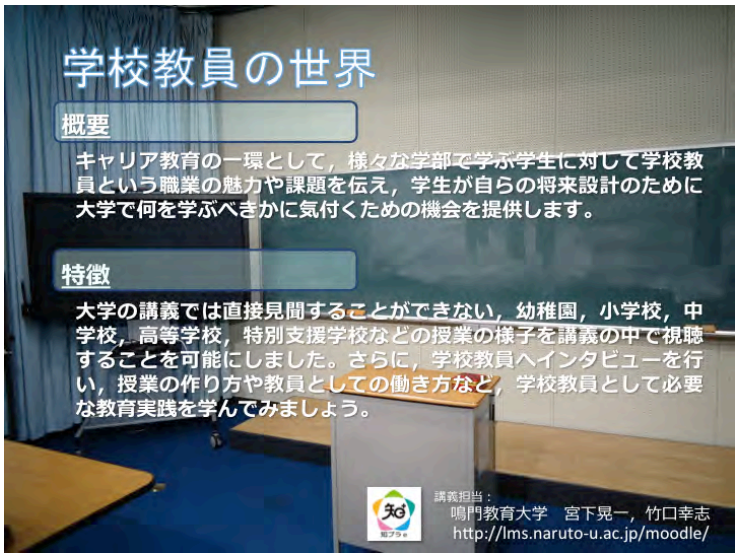
2.2.9.　広報活動

平成 26 年度に作成した知プラ e 事業に関するリーフレットを各大学の教務担当事務局に配置し、学生への広報に役立てている。また、平成 27 年度には、知プラ e 科目に関するポスター等を作成した。更に、平成 26 年 2 月に開設したセンター四国のウェブサイトにおいて、開講科目、イベント情報、事業報告書などの情報を発信し続けている。

センター四国リーフレット（表）

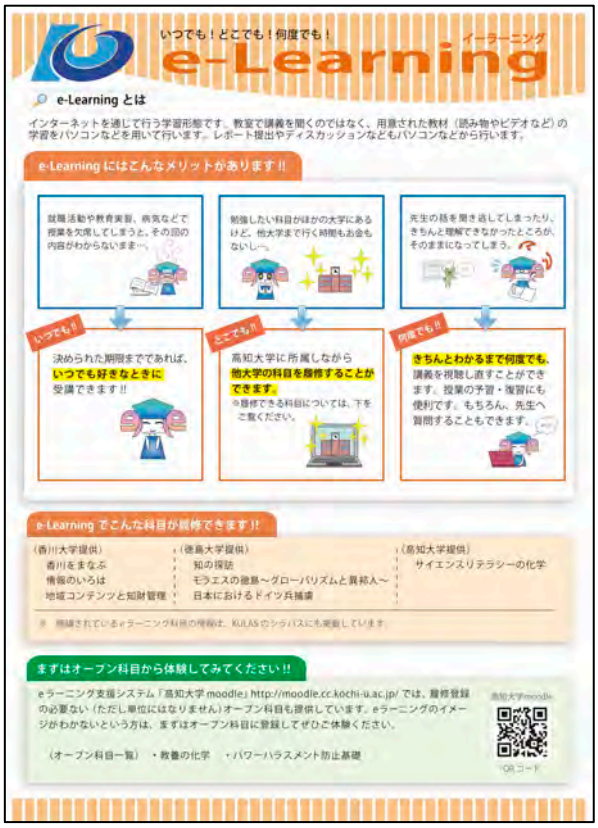


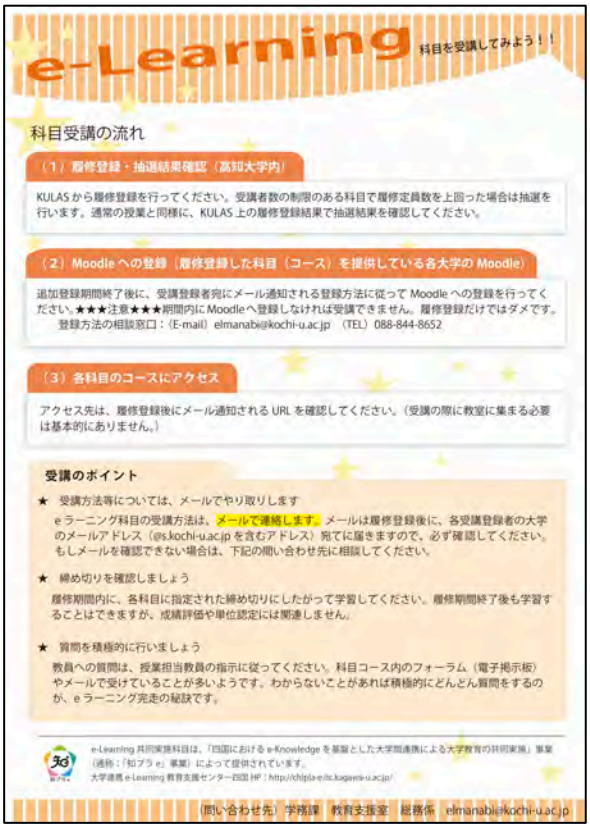
センター四国リーフレット（裏）



鳴門教育大学分室で作成した広報用資料

センター四国（香川大学）で作成した広報用資料





高知大学分室で作成した学生向け広報用資料

高知大学分室で作成した教職員向け広報用資料（その１）

高知大学分室で作成した教職員向け広報用資料（その２）

センター四国ウェブページ（http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/）

2.2.10.　事業実施内容の点検・評価

平成 27 年度の事業実施計画の点検項目と平成 27 年度 4 月から平成 28 年 1 月末までにおける実績に基づく達成度[%]を下表に示す。達成度は、点検項目数のうちレ点チェックが入っている項目数の割合から算出している。なお、項目番号 2 のガイドライン改訂は WG 内での検討事項であるため、センター四国全体の点検評価項目としては「ガイドラインを示した」等とだけにとどめている。中間評価のため達成度が 100%でない項目があるが、それらすべての項目は平成 28 年 5 月末の最終評価時には 100%になる見込みである。

		項目番号	平成 27 年度事業実施課題		目標	点検項目	点検項目に係る成果物の例/作成担当（収集期限） 中間まとめ用	達成度[%]
試行期のタスク	学期毎にＰＤＣＡサイクル	1	センター四国規則第 3 条(1)、(6) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行	四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行を行い、明らかになった課題の解決方法を検討する。	四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行により明らかになった課題について、解決方法を検討したことを示す。	☑モデルの試行において生じた課題を調査し、一覧表にまとめた。 ☑モデルの試行において明らかになった課題についてそれぞれの解決方法を検討した。	☑課題調査一覧表/全 WG（11 月上旬まで） ☑課題の解決方法を検討したことを示す WG 議事要旨/全 WG（11 月上旬まで）	100
		2	センター四国規則第 3 条(1)、(6) 教育の質保証の仕組みの整備	フル e-Learning 講義で教育の質保証を可能にする要件の明確化を行う。（講義方法の確立、修学支援体制の整備、授業改善の仕組みの整備）	フル e-Learning 講義で教育の質保証を可能にする要件を示す。	☑e-Learning 講義を設計するためのガイドラインを示した。 ☑e-Learning 講義を運用するためのガイドラインを示した。 ☑授業改善アンケートの様式及び実施要領を作成した。 ☑授業改善アンケートを実施し、報告書を作成した。	☑オンライン授業設計ガイドライン/教育の質保証等検討 WG（11 月上旬まで） ☑オンライン授業運用ガイドライン/教育の質保証等検討 WG（11 月上旬まで） ☑授業改善アンケートの様式及び実施要領/教育の質保証等検討 WG（11 月上旬まで）	100
	年度毎に PDCA サイクル	3	センター四国規則第 3 条(1)、(6) 規程等の整備	四国 5 大学型共同教育実施モデルが実施できるよう規程等を整備する。	四国 5 大学型共同教育実施モデルが実施できる規程等を明文化する。	☑各大学において四国 5 大学型共同教育実施モデルの実施に必要な規程等を作成した。	☑各大学において四国 5 大学型共同教育実施モデルの実施に必要な規程等/センター四国及び各分室（5 月上旬まで）	100
		4	センター四国規則第 3 条(1) センター運用体制の検討	補助金終了後のセンター四国運用体制の検討を行う。	補助金終了後のセンター四国運用体制について検討したこと示す。	□補助金終了後のセンター四国運用体制を検討した。	□企画委員会議事要旨/センター四国（5 月上旬まで）	0

	5	センター四国規則第３条(2)、(4) 提供科目のコンテンツの開発	年度別の提供計画に基づき、知プラｅ事業で提供する科目の検討及びコンテンツの開発と蓄積を行う。あわせてコンテンツの評価方法の整備を行う。	年度別の提供計画に基づき、知プラｅ事業で提供する科目を検討したことを示すとともに、コンテンツの開発と蓄積の状況を示す。更に、コンテンツの評価方法を示す。	☑平成28年度に知プラｅ事業で提供する科目を決定した。 ☑平成29、30年度の提供計画を作成した。 □コンテンツの開発と蓄積が行われている状況を可視化した。 ☑コンテンツの評価方法を示した。	☑平成28年度提供科目一覧/センター四国及び各分室（5月上旬まで） ☑平成29、30年度の科目提供計画/センター四国及び各分室（5月中旬まで） □コンテンツ制作進捗状況表/センター四国及び各分室（5月上旬まで） ☑コンテンツ評価ガイドライン/コンテンツ開発検討WG及び教育の質保証等検討WG（5月上旬まで）	75
	6	センター四国規則第３条（2)、(3)、(4) 提供科目を用いた授業の共同実施	平成27年度提供科目（7科目）を用いた授業を5大学で共同実施する。	平成27年度提供科目（7科目）を用いた授業を5大学で共同実施したことを示す。	☑平成27年度提供科目（7科目）を用いた授業を5大学で共同開講した。	☑各大学のシラバス/センター四国及び各分室（1月中旬まで） ☑LMS上の科目（コース）のスナップショット/センター四国及び各分室（1月中旬まで）	100
	7	センター四国規則第３条(5) e-Learning環境の整備	遠隔会議・遠隔講義システム、LMSの運用を行うと共に、補助金終了後のe-Learning環境の検討を行う。	遠隔会議・遠隔講義システム、LMSの運用を行っていることを示すとともに、補助金終了後のe-Learning環境について検討したことを示す。	☑遠隔会議・遠隔講義システム、LMSの運用を行っている。 ☑センター四国HPより開講科目の情報発信を行っている。 ☑補助金終了後のe-Learning環境について検討した。	☑遠隔会議・遠隔講義システム、LMSの運用実績を示す文書等（企画委員会議事要旨、WG議事要旨等）/センター四国及びシステム検討WG（5月上旬） ☑補助金終了後のe-Learning環境について検討した会議資料（企画委員会議事要旨、WG議事要旨等）/センター四国及びシステム検討WG（5月上旬）	100
単年度	8	四国の5国立大学における大学教育の共同実施について全国へ発信	Webページにより四国の5国立大学における大学教育の共同実施について全国へ発信する。	Webページにより四国の5国立大学における大学教育の共同実施について全国へ発信していることを示す。	☑Webページにより四国の5国立大学における大学教育の共同実施を全国へ発信している。	☑センター四国HPの更新情報/センター四国（5月上旬まで）	100

	9	スキルアップ研修会の開催	スキルアップ研修会の開催を行う。1 年に 2 回以上の開催とする。	スキルアップ研修会を 2 回以上開催したことを示す。	☑第 1 回スキルアップ研修会を開催した。 ☑第 2 回以降のスキルアップ研修会を開催した。	☑第 1 回スキルアップ研修会実施報告書/センター四国（5 月上旬まで） ☑第 2 回以降スキルアップ研修会実施報告書/センター四国（5 月上旬まで）	100
	10	事業シンポジウムの開催	平成 27 年度の事業内容を広く公開するために、事業シンポジウムを開催する。（平成 27 年 9 月）	平成 27 年度の事業内容を広く公開するために、事業シンポジウムを開催したことを示す。	☑事業シンポジウムを開催した。	☑委員会等の議事要旨/センター四国（1 月中旬まで） ☑事業シンポジウム実施報告書/徳島大学分室（1 月中旬まで）	100

2.2.11.　平成 28 年度事業実施計画

平成 28 年度は、下表に示す事業の実施を計画している。その事業概要は次のとおり。四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用過程で明らかになった課題の解決を図るとともに、フル e-Learning 授業で教育の質保証を可能にする要件の明確化を行う。知プラ e 科目（計 14 科目）を 5 大学で共同開講し、平成 29～30 年度開講授業科目の検討並びに、授業科目及びオープンコンテンツの開発と蓄積を行う。更に、事業期間終了後におけるセンター四国の運営体制を検討する。

平成 28 年度事業実施計画			
四国5大学型共同教育実施モデルの組織体制の整備、運用モデルの確立	1	センター四国規則 第 3 条(1)、(6) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用	四国5大学型共同教育実施モデルの運用過程で明らかになった課題の解決を図る。
	2	センター四国規則 第3条(1)、(6) 教育の質保証の仕組みの整備	フルe-Learning授業で教育の質保証を可能にする要件の明確化を行う。(授業方法の確立、修学支援体制の整備、授業改善の仕組みの整備)
	3	センター四国規則 第3条(1)、(6) 規程等の整備	四国5大学型共同教育実施モデルを円滑に運用するために必要な規程等を整備する。
	4	センター四国規則 第3条(1) センター四国運営体制の検討	事業期間終了後におけるセンター四国運営体制を検討する。
コンテンツ・教育プログラム開発	5	センター四国規則 第3条(2)、(4) コンテンツ開発等	平成29～30年度開講授業科目の検討並びに、授業科目及びオープンコンテンツの開発と蓄積を行う。
	6	センター四国規則 第3条(2) 授業科目の共同開講	授業科目（14 科目）を 5 大学で共同開講する。
システム基盤強化	7	センター四国規則 第3条(5) e-Learning 設備の運用と検討	遠隔会議・遠隔講義システム、LMS等のe-Learning設備を運用するとともに、ユーザ認証方式の一元化について検討する。更に、事業期間終了後のe-Learning設備についても検討する。

その他	8	四国の5国立大学における大学教育の共同実施成果等を全国へ発信	Webページにより四国の5国立大学における大学教育の共同実施について全国へ発信する。Webページの管理はセンター四国が所掌する。更に、事業報告書も作成する。
	9	スキルアップ研修会の開催	スキルアップ研修会を2回以上開催する。
	10	事業シンポジウムの開催	事業内容に対する大学関係者やe-Learning事業者等の理解の深化を図るために、事業シンポジウムを開催する。
	11	自己点検の実施	平成28年度事業実施計画に基づいて、自己点検を実施する。
	12	外部評価委員会の開催	外部評価委員会を開催し、外部評価委員の意見を参考に業務改善計画を策定する。

2.2.12. 総括

本事業では、平成 26 年度までにインターネットを用いた e-Learning のシステム基盤（遠隔会議、講義収録、学修管理等）を強化するとともに、各大学の時間割等に依存せずに大学教育の共同実施を可能とする「四国 5 大学型共同教育実施モデル」を構築している。平成 27 年度は、単位互換ではなく、「各大学から提供された e-Learning 科目を自大学の科目として共同開講する」という新しい仕組みを整備した。平成 27 年度後期に 7 科目を共同開講するにあたり、履修案内や科目提供大学の LMS（e-Learning システム）へのアクセス方法等、受講生向けの履修情報を大学連携 e-Learning 教育支援センター四国のウェブページ上で一元配信できるように同ウェブページの機能を強化するとともに、学生の所属大学でコンテンツ視聴できる環境を担保するためコンテンツ視聴確認の仕組みも整備した。これらにより、大きなトラブルなく共同開講することができた。

学生にとって、特別聴講生の手続きをすることなく他の科目と同じ手続きで履修登録が可能になることが共同開講の利点の一つである。共同開講の効果が発揮された一例を次ページの図に示す。この図は、平成 26 及び 27 年度の科目別履修者数を比較したものである。平成 26 年度は単位互換制度に基づく暫定開講であり 5 大学全体で 594 人の履修者があった。一方共同開講を実施した平成 27 年度では、5 大学全体で 777 人の履修登録があり昨年度に比して増加している。また特筆すべき結果としては、科目提供大学以外の履修登録者（図中のオレンジ色部分の合計）が全体で 17 人から 344 人へ増加したことがあげられる。他大学提供の授業科目の受講者が増えたことは本事業の成果の一つである。

外部評価委員からの意見にもあったとおり、違う仕組みをもつ大学が集まって同じ事業を行うというのは非常に大変であるところ、試行期に蓄積された各課題を克服するノウハウを公開し、他の大学間連携 e-Learning の参考になればと考えている。インターネットを利用した e-Learning 科目であることから、「いつでも、どこでも、何度でも」コンテンツを視聴できる。この学修スタイルは、インターネット時代の学生に受入れられると思われ、今後ますますの広がりが見込まれる。

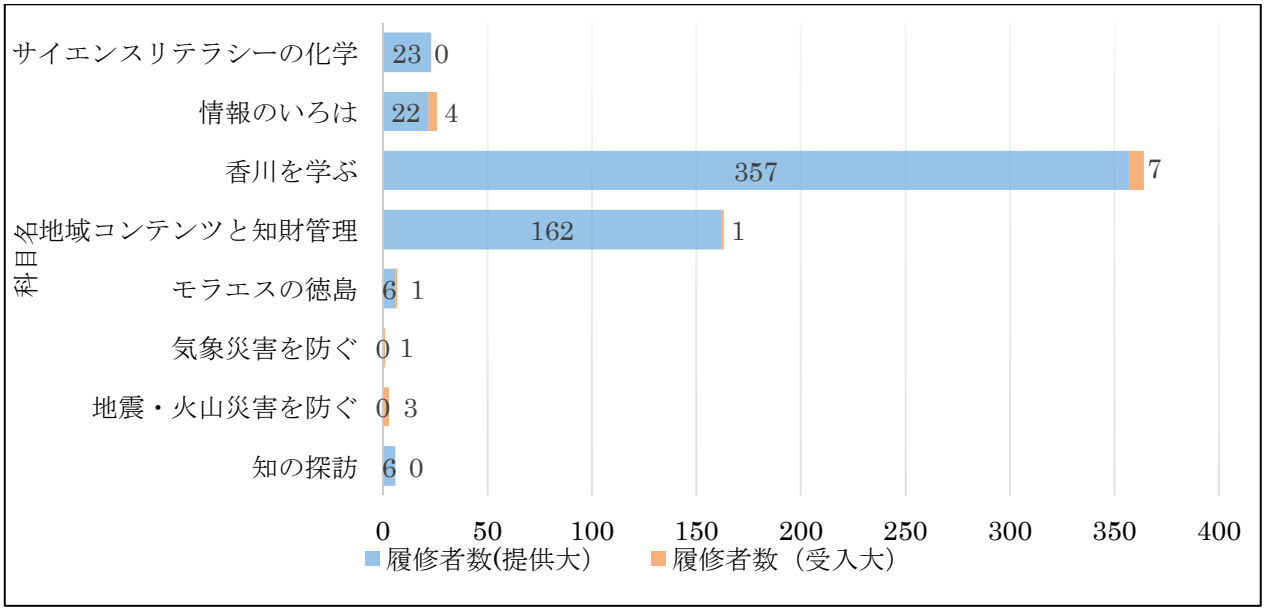
共同実施科目の設計・運用に係るガイドラインを策定するとともに授業改善アンケートを実施し、e-Learning による教育の質保証の仕組みを整備した。ガイドラインに沿った授業設計を担保するためのレビューシートも整備中であり、5 大学共通のシラバス情報フォーマットのチェックリストとあわせて、本事業の教育の質保証の仕組みを構築する予定である。

なお、平成 28 年度は 5 大学から計 14 科目が提供される予定であり、今年度の 7 科目に比べて、より一層、各大学の特色ある教育・研究分野の e-Learning 科目が充実する。2.2.3 節で述べたとおり、共同実施科目を受入れる科目区分は大学によって異なっているが、教養科目の多様性の向上、多様で柔軟な見方や考え方のできる教員養成、バランスの取れた履修担保、基盤教育における学修内容・方法の選択肢拡大、及び幅広い教養を身につける学修力の向上など、それぞれの大学における教育の質向上に役立てることができている。今後は共同実施科目を活用し、各大学における教育の質向上を図る予定である。

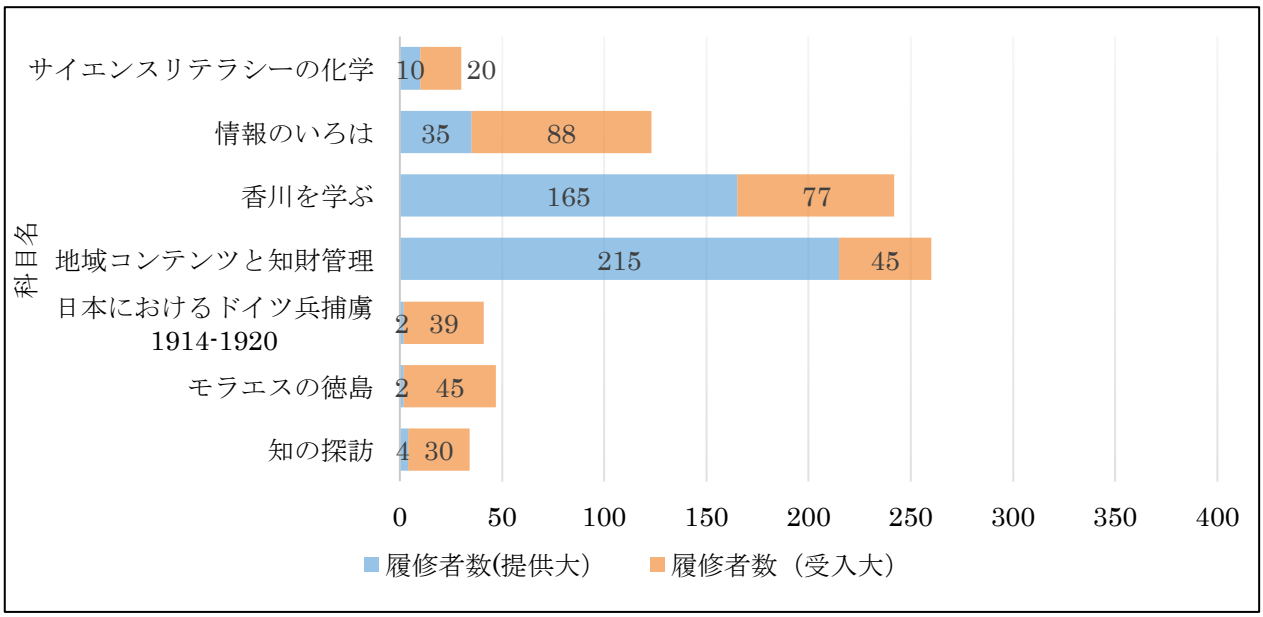
知プラ e 事業の成果発表を行うため、事業シンポジウムを教育システム情報学会と共催（場所：徳島大学）し、計 112 名の参加があった。また、事業報告書を紙媒体及び電子媒体で刊行するとともに、著

作権処理、受講抽選方法の改善及び学修支援等、知プラｅ事業に係る研究成果 6 件を三つの学術学会で発表し、事業成果の公開に務めた。学術学会等で得られた教育システムに係る専門的知見は、今後の知プラｅ事業の改善に活用する予定である。

5 大学共通で安定した授業運用ができるよう、計画停電やシステムトラブルなどの対応マニュアルの整備など、運用面から e-Knowledge 基盤（コンテンツ配信、学修管理、shibboleth による 5 大学間ユーザ認証）の強化を行なった。今後は、さらに利用者の利便性を向上するため、学認への対応や成績入力の電子化などの課題に取り組む予定である。また、平成 30 年度以降もコンテンツ更新や他事業 e-Learning へのサポート業務が入る見込みであるので、上記 e-Knowledge 基盤とあわせ、コンテンツ制作環境（映像収録・編集機器、スタジオ、スタッフなどのハード面）を維持管理する方策も検討する予定である。



(a) 平成 26 年度（単位互換）



(b) 平成 27 年度（共同開講）

科目別履修者数の比較

3. 関係規則等

3.1. 大学間申合せ

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ

（平成 26 年 9 月 4 日四国国立大学協議会決定）

四国地区 5 国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）は、四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施を円滑に行うため、下記のとおり申し合わせる。

記

1. 平成 27 年度以降の本事業で提供する e-Learning 科目については、5 大学において同一の科目名で共同開講し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする。

2. 本事業で提供する e-Learning 科目を 5 大学いずれかの常勤教員が担当する場合、他の 4 大学では非常勤講師発令のための資格審査手続きを省略するものとする。

附　則

この申合せは、平成 26 年 9 月 4 日から施行する。

3.2. 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則

平成25年7月5日

（趣旨）

第1条　この規則は、国立大学改革強化推進補助金事業「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の共同実施に関する協定書第 3 条第 2 項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条　センターは、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学(以下「四国地区国立大学」という。)との緊密な連携のもとで、大学教育・大学院教育の共同実施を行うことにより、教育の質の向上を図ることを目的とする。

（業務）

第3条　センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 大学教育・大学院教育の共同実施に向けた組織体制の整備に関すること。
(2) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
(3) 共同実施による教育プログラムの開発に関すること。
(4) オープンコンテンツ開発に関すること。
(5) 遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤強化に関すること。
(6) 共同実施の運用モデルの確立に関すること。
(7) その他前条の目的を達成するために必要なこと。

（組織）

第4条　センターは、四国地区国立大学のうち、香川大学に置く。

2　センターの業務を円滑に実施するため、香川大学を除く四国地区国立大学に、それぞれ大学連携 e-Learning 教育支援センター四国分室（以下「センター分室」という。）を置く。

3　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1)　センター長
(2)　センター教員
(3)　その他必要な職員(以下「センター職員」という。)
4　センター分室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1)　分室長
(2)　分室教員
(3)　その他必要な職員(以下「分室職員」という。)
（センター長等）
第5条　センター長は、香川大学に所属する教員のうち、同大学の学長(以下「学長」という。)が指名する者をもって充てる。
2　センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
3　センター教員は、学長が、選考又は指名し、任命する。
4　分室長及び分室教員は、当該大学の学長が、選考又は指名し、任命する。
（職務）
第6条　センター長は、センターの業務を掌理する。
2　センター教員は、センターの業務を処理する。
3　センター職員は、センターの業務に従事する。
4　分室長は、センター分室の業務を掌理する。
5　分室教員は、センター分室の業務を処理する。
6　分室職員は、センター分室の業務に従事する。
（運営委員会）
第7条　センターに、センター及びセンター分室の管理運営に関する重要事項を審議するため、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
2　運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（企画委員会）
第8条　センターに、センター及びセンター分室の円滑な運営のため、大学連携 e-Learning教育支援センター四国企画委員会（以下「企画委員会」という。）を置く。
2　企画委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（外部評価委員会）
第9条　センターに、センター及びセンター分室の業務に対して評価を行い、もって業務の改善に資するため、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。
2　外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。
（事務）
第10条　センター及びセンター分室に関する事務は、四国地区国立大学のセンター業務を所掌する課等において処理する。
（雑則）
第11条　この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。
2　前項にかかわらず、この規則に定めるもののほか、センター分室に関し必要な事項は、各大学が別に定める。

附　則
1　この規則は、平成25年7月5日から施行する。
2　この規則の施行後、最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

3.3.　大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会規程

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会規程

平成25年7月5日

（趣旨）

第1条　この規程は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則（以下「センター規則」という。）第7条第2項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第2条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 大学連携e-Learning教育支援センター四国及び大学連携e-Learning教育支援センター四国分室（以下「センター等」という。）の業務に係る重要事項に関すること。

(2) センター等の予算及び決算に関すること。

(3) センター等の教員等の人事に関すること。

(4) その他センター等の管理及び運営に関すること。

（組織）

第3条　運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　香川大学の教育担当理事

(2)　センター長

(3)　センター教員

(4)　分室長

(5)　センター業務を所掌する四国地区国立大学の課長（相当職を含む。）以上の事務職員各1人

(6)　その他センター長が必要と認めた者

2　前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条　運営委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2　委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（議事）

第5条　運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。ただし、委員に支障があるときは、あらかじめ当該委員の指名する者が、委員長の承諾を得て代理出席することができる。

2　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（開催）

第6条　運営委員会は、委員長が必要と認めたときに開催するものとする。

（委員以外の者の出席）

第7条　委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

（事務）

第8条　運営委員会に関する事務は、香川大学教育・学生支援室修学支援グループにおいて処理する。

（雑則）

第9条　この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附　則

1　この規程は、平成25年7月5日から施行する。

2　この規程の施行後、最初に任命される第 3 条第 1 項第 6 号の委員の任期は、第 3 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

3.4.　大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会規程

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会規程

平成 25 年 7 月 5 日

（趣旨）

第 1 条　この規程は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則（以下「センター規則」という。）第 8 条第 2 項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会（以下「企画委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第 2 条　企画委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1)　大学連携 e-Learning 教育支援センター四国及び大学連携 e-Learning 教育支援センター四国分室（以下「センター等」という。）の運営の実務に関すること。

(2)　研修会、セミナー等の企画・実施に関すること。

(3)　その他センター等の事業運営に関すること。

（組織）

第 3 条　企画委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　センター長

(2)　センター教員

(3)　分室長又は分室教員

(4)　その他センター長が必要と認めた者

2　前項第 4 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 4 条　企画委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2　委員長は、企画委員会を招集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（議事）

第 5 条　企画委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。ただし、委員に支障があるときは、あらかじめ当該委員の指名する者が、委員長の承諾を得て代理出席することができる。

2　議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（開催）

第 6 条　企画委員会は、委員長が必要と認めたときに開催するものとする。

（委員以外の者の出席）

第 7 条　委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

（事務）

第 8 条　企画委員会に関する事務は、香川大学教育・学生支援室修学支援グループにおいて処理する。

（雑則）

第 9 条　この規程に定めるもののほか、企画委員会の運営に関し必要な事項は、企画委員会が別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 25 年 7 月 5 日から施行する。

2　この規程の施行後、最初に任命される第 3 条第 1 項第 4 号の委員の任期は、第 3 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

3.5.　　大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会規程

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会規程

平成25年7月5日

（趣旨）

第1条　この規程は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則第9条第2項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第2条　外部評価委員会は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国及び大学連携 e-Learning教育支援センター四国分室が行う業務について、単年度毎の実績に関する評価を行う。

（組織）

第3条　外部評価委員会の委員は、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学の役員並びに職員以外の学識経験者から、センター長が委嘱し、組織する。

（委員長）

第4条　外部評価委員会に委員長を置く。

2　　委員長は、委員の互選によるものとする。

（任期）

第5条　委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（招集及び議長）

第6条　委員長は、外部評価委員会を招集し、その議長となる。

（会議の成立等）

第7条　外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

（委員以外の出席）

第8条　委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

（事務）

第9条　外部評価委員会に関する事務は、香川大学教育・学生支援室修学支援グループにおいて処理する。

（雑則）

第10条　この規程に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

1　　この規程は、平成25年7月5日から施行する。

2　　この規程の施行後、最初に任命される委員の任期は、第 5 条の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

3.6.　各大学分室規則等
3.6.1.　徳島大学分室

徳島大学総合教育センター規則

平成 26 年 3 月 18 日
規則第 81 号制定

目次
第 1 章　総則（第 1 条・第 2 条）
第 2 章　業務及び組織（第 3 条・第 4 条）
第 3 章　職員（第 5 条～第 15 条）
第 4 章　会議（第 16 条～第 24 条）
第 5 章　雑則（第 25 条・第 26 条）
附則
第 1 章　総則
（趣旨）
第 1 条　この規則は、徳島大学学則（昭和 33 年規則第 9 号）第 4 条第 2 項の規定に基づき、徳島大学総合教育センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第 2 条　センターは、全学的視点から入学者選抜、教育改革、ICT 活用教育、学生生活及びキャリア支援に関する主要施策を調査研究し、総合的に推進することにより、徳島大学の教育及び学生支援の充実・改善を図ることを目的とする。
第 2 章　業務及び組織
（業務）
第 3 条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　入学者選抜の企画立案等に関すること。
(2)　教育改革の推進に関すること。
(3)　ICT を活用した教育の開発及び支援に関すること。
(4)　学生の修学支援及び課外活動に関すること。
(5)　学生のキャリア支援に関すること。
(6)　その他センターの目的を達成するために必要な業務
2　センターは、前項に掲げる業務のほか、四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業（国立大学改革強化推進費補助金）における、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　四国地区国立大学連合アドミッションセンターの設置と AO 入試の共同実施に関すること。
(2)　四国における e―Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施に関すること。
（部門及び室の設置）
第 4 条　前条の業務を遂行するため、センターに次の部門及び室を置く。
アドミッション部門
教育改革推進部門
ICT 活用教育部門
学生支援部門
学生生活支援室
学生参画推進室
キャリア支援部門
2　前条第 2 項第 1 号の業務を処理するため、アドミッション部門は、四国地区国立大学連合アドミッションセンター規程（平成 25 年 5 月 13 日愛媛大学規則第 77 号）第 7 条に規定する四国地区国立大学連合アドミッションセンター徳島大学サテライトオフィス（以下「徳島大学サテライトオフィス」という。）を兼ねるものとする。
3　前条第 2 項第 2 号の業務を処理するため、ICT 活用教育部門は、大学連携 e―Learning 教育支援センター四国規則（平成 25 年 7 月 5 日四国地区国立大学連携事業推進会議制定）第 4 条に規定する大学連携 e―Learning 教育支援センター四国徳島大学分室（以下「徳島大学分室」という。）を兼ね

るものとする。
第3章　職員
（職員）
第5条　センターに、次の職員を置く。
(1)　センター長
(2)　部門長
(3)　専任教員（特任教員を含む。）
(4)　兼務教員
(5)　就職コーディネーター
(6)　キャリアカウンセラー
(7)　その他必要な職員
2　前項の職員のほか、センター長が必要と認める場合は、副センター長を置くことができる。
3　徳島大学サテライトオフィスにアドミッションオフィサーを置く。
4　徳島大学分室に、分室長及び分室教員を置く。
（センター長）
第6条　センター長は、学長が指名する理事をもって充てる。
2　センター長は、センターの業務を掌理する。
3　センター長の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、センター長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（副センター長）
第7条　副センター長は、センター長の意見を聴いて、学長が命ずる。
2　副センター長は、センター長の職務を補佐する。
3　副センター長の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、副センター長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（部門長）
第8条　部門長はセンター長の意見を聴いて、学長が命ずる。ただし、学生支援部門長は、徳島大学学生委員会委員長をもって充てる。
2　部門長は、所属部門の業務を掌理するとともに、センター長の職務を補佐する。
3　部門長（学生支援部門長を除く。）の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、部門長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（専任教員）
第9条　専任教員は、センターの運営を補助し、所属する部門の業務を処理する。
2　専任教員の選考は、第16条に規定する運営委員会の議を経て、学長が行う。
（兼務教員）
第10条　兼務教員は、専任教員と協力し、所属する部門の業務を処理する。
2　兼務教員は、次の各号に掲げる者をもって充て、学長が命ずる。
(1)　アドミッション部門
イ　各学部（学部に併任された大学院教員を構成員として含む。）から選出された教員　各1人
ロ　全学共通教育センターから選出された教員　1人
(2)　ICT活用教育部門
イ　各学部（学部に併任された大学院教員を構成員として含む。）から選出された教員　各1人
ロ　全学共通教育センターから選出された教員　1人
ハ　情報センターから選出された教員　1人
(3)　学生支援部門
イ　徳島大学学生委員会規則第3条第2号、第3号及び第4号の委員
ロ　保健管理・総合相談センターから選出された教員　1人
ハ　国際センターから選出された教員　1人
(4)　キャリア支援部門
各学部（学部に併任された大学院教員を構成員として含む。）から選出された教授　各1人
3　前項の規定にかかわらず、センターの業務に関し専門知識を有する者で、センター長が必要と認めるときは、センター長の意見を聴いて、学長が命ずる。

4　兼務教員（第2項第3号イの兼務教員は除く。）の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、兼務教員が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（就職コーディネーター）
第11条　就職コーディネーターは、センター長の意見を聴いて、学長が命ずる。
2　就職コーディネーターは、学生の就職先企業等の開拓、就職セミナー及び就職ガイダンス等の企画立案並びに業界の動向調査等の業務を行う。
（キャリアカウンセラー）
第12条　キャリアカウンセラーは、センターの職員のうちから学長が命ずる。
2　キャリアカウンセラーは、学生の就職相談及び進路相談業務に従事するとともに、学生と企業のマッチング支援及び面接前後の指導等の業務を行う。
（アドミッションオフィサー）
第13条　アドミッションオフィサーは、センターの職員のうちから学長が命ずる。
（分室長及び分室教員）
第14条　分室長は、ICT活用教育部門長をもって充てる。
2　分室教員は、ICT活用教育部門の専任教員をもって充てる。
3　分室長の任期は2年とし、再任されることができる。ただし、分室長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（学外者への委嘱）
第15条　センター長が必要と認めるときは、学長の承認を得て、学外者を就職コーディネーター又はキャリアカウンセラーに委嘱することができる。
第4章　会議
（運営委員会）
第16条　センターに、センターの管理運営及び業務に関する事項を審議するため、徳島大学総合教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
第17条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1)　センターの管理運営の基本方針に関する事項
(2)　センターの業務計画に関する事項
(3)　教員の人事に関する事項
(4)　その他センターの管理運営及び業務に関し必要な事項
第18条　運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1)　センター長
(2)　副センター長
(3)　部門長
(4)　国立大学法人徳島大学教育研究評議会規則（平成16年度規則第5号）第3条第1項第7号の評議員
(5)　学務部長
(6)　その他運営委員会が必要と認める者
2　前項第6号の委員は、学長が命ずる。
第19条　運営委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。
2　委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
第20条　運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
2　議事は、出席した委員の過半数をもって決する。
第21条　運営委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第22条　運営委員会に、専門委員会を置くことができる。
2　専門委員会について必要な事項は、運営委員会が別に定める。
（連絡会議）
第23条　センターに、センターの各部門間に関係する事項について連絡調整するため、徳島大学総合教育センター連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。

2　連絡会議について必要な事項は、センター長が別に定める。
（部門会議）
第 24 条　部門の運営に関する事項を審議するため、各部門に部門会議を置く。ただし、学生支援部門の運営に関する事項は、徳島大学学生委員会において審議するものとし、部門会議を置かない。
2　部門会議について必要な事項は、センター長が別に定める。
第 5 章　雑則
（事務）
第 25 条　センターの事務は、学務部教育支援課が学務部各課と連携・協力して処理する。
（雑則）
第 26 条　この規則に定めるもののほか、センターについて必要な事項は、センター長が別に定める。
附　則
1　この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
2　次に掲げる規則は、廃止する。
(1)　徳島大学学生支援センター規則（平成 15 年規則第 1753 号）
(2)　徳島大学キャリア支援センター規則（平成 22 年度規則第 38 号）
(3)　徳島大学教育改革推進センター規則（平成 24 年度規則第 62 号。以下「教育改革推進センター規則」という。）
(4)　徳島大学アドミッションセンター規則（平成 24 年度規則第 63 号。以下「アドミッションセンター規則」という。）
3　この規則施行の際、教育改革推進センター規則第 8 条の 2 の規定により任命されている分室長は、この規則第 13 条第 1 項の規定により任命されたものとみなし、その任期は、同条第 4 項の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。
4　この規則施行の際、アドミッションセンター規則第 6 条の 2 の規定により任命されているアドミッションオフィサーは、この規則第 12 条第 1 項の規定により任命されたものとみなす。
附　則（平成 27 年 3 月 17 日規則第 40 号改正）
この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

徳島大学総合教育センターＩＣＴ活用教育部門会議規則

平成 26 年 4 月 1 日
総合教育センター長制定

（趣旨）
第 1 条　この規則は、徳島大学総合教育センター規則第 24 条第 2 項の規定に基づき、徳島大学総合教育センターＩＣＴ活用教育部門会議（以下「部門会議」という。）について必要な事項を定めるものとする。
（所掌事項）
第 2 条　部門会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 授業のデジタルコンテンツ化の支援に関すること。
(2) ＩＣＴ活用教育の質向上に関すること。
(3) 四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施に関すること。
(4) その他ＩＣＴ活用教育の開発及び支援に関し必要な事項
（組織）
第 3 条　部門は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
(1) 部門長
(2) 専任教員（特任教員を含む。）
(3) 兼務教員
(4) 学務部教育支援課長
(5) その他部門会議が必要と認める者
（議長）

第 4 条　部門長は、部門会議を招集し、その議長となる。
2　議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。
（会議）
第 5 条　部門会議は、組織構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ会議を開くことができない。
（組織構成員以外の者の出席）
第 6 条　部門会議が必要と認めるときは、会議に組織構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
（庶務）
第 7 条　部門会議の庶務は、学務部教育支援課において処理する。
（雑則）
第 8 条　この規則に定めるもののほか、部門会議について必要な事項は、センター長が別に定める。

附　則
この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

3.6.2.　鳴門教育大学分室

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室規程

平成 25 年 5 月 8 日
規程第　16　号
改正　平成 26 年 3 月 24 日規程第 25 号

（趣旨）
第 1 条　この規程は、鳴門教育大学教育研究組織規則（平成 20 年規則第 2 号）第 14 条の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室（以下「分室」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定める。
（目的）
第 2 条　分室は、四国における e-knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施の効果的かつ円滑な推進に資することを目的とする。
（業務）
第 3 条　分室は、次に掲げる業務を行う。
(1) 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国との連絡調整に関すること。
(2) 大学連携 e-Learning 教育支援の関係機関との連絡調整に関すること。
(3) 大学連携 e-Learning 教育支援の運営に関すること。
(4) 大学連携 e-Learning 教育支援に係る企画・立案に関すること。
(5) その他大学連携 e-Learning 教育支援に関し学長が必要と認めたこと。
（組織等）
第 4 条　分室は、次の者をもって組織する。
(1) 分室長
(2) 分室教員
(3) その他必要な職員（以下「分室職員」という。）
2　分室長は、各教育部に属する教授のうちから学長が指名する者をもって充てる。
3　分室教員は、本学教員のうちから学長が指名する者をもって充てる。
（任期）
第 5 条　分室長及び分室教員の任期は、それぞれ 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
（職務）
第 6 条　分室長は、分室の業務を統括する。
2　分室教員及び分室職員は、分室に関する業務を処理する。
（分室会議）
第 7 条　分室に、第 3 条に掲げる事項を協議するため、分室会議（以下「会議」という。）を置く。
2　会議は、次の各号に掲げる者をもって構成する。
(1) 分室長
(2) 分室教員
(3) その他学長が必要と認めた者
3　会議に議長を置き、分室長をもって充てる。
4　議長は、会議を招集する。
5　議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。
（議事）
第 8 条　会議は、構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開くことができない。
2　会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
3　議長は、会議の結果を、必要に応じて学長又は大学連携 e-Learning 教育支援センター四国に報告するものとする。
（構成員以外の者の出席）
第 9 条　議長は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させ意見を述べさせることができる。
（専門部会の設置）

第 10 条　会議は、必要に応じ、専門的事項を調査検討させるため、専門部会を置くことができる。
2　専門部会の設置、組織その他必要な事項は、別に定める。
（事務）
第 11 条　分室の事務は、教務企画課において処理する。
（雑則）
第 12 条　この規程に定めるもののほか、分室の運営等に関し必要な事項は、別に定める。
附　則
1　この規程は、平成 25 年 5 月 13 日から施行する。
2　施行日において、第 4 条第 1 項第 1 号及び第 2 号の規定により最初に選出された者の任期は、第 5 条の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。
附　則
この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

大学連携 e-Learning 専門部会要項

平成 25 年 5 月 8 日
学長裁定
改正　平成 26 年 4 月 1 日

（趣旨）
第 1　この要項は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室規程（平成 25 年規程第 16 号）第 10 条の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室会議に置く大学連携 e-Learning 専門部会（以下「専門部会」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。
（組織）
第 2　専門部会は、次に掲げる委員をもって組織する。
(1) 学校教育学部教務委員会委員長及び副委員長
(2) 学校教育学部教務委員会委員のうち各教育部から 1 人
(3) 地域連携センター所長
(4) 情報基盤センター所長
(5) 遠隔教育プログラム推進室長
(6) e-knowledge コンソーシアム四国の企画委員及びシステム専門委員のうち本学教員
(7) 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室教員
(8) 教務企画課長
(9) その他学長が指名する者
（任期等）
第 3　前項第 2 号に規定する委員の任期は、2 年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（部会長及び副部会長）
第 4　専門部会に部会長及び副部会長を置き、部会長は分室長が指名する者をもって充て、副部会長は委員の互選によって定める。
2　部会長は、専門部会を招集し、その議長となる。
3　副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。
（審議事項等）
第 5　専門部会は、次に掲げる事項を審議する。
(1) 大学連携 e-Learning 教育支援の実施に係る企画、立案に関する事項
(2) 大学連携 e-Learning 教育支援の推進に関する事項
(3) 大学連携 e-Learning 教育支援の内容、実施方法に関する事項
(4) その他部会長が必要と認める事項

（議事）
第 6　専門部会は、委員の 3 分の 2 以上の者が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
2　専門部会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第 7　部会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を専門部会に出席させ、意見を述べさせることができる。
（事務）
第 8　専門部会の事務は、教務企画課において処理する。
（雑則）
第 9　この要項に定めるもののほか、専門部会の運営に関し必要な事項は、専門部会が別に定める。
附　則
この要項は、平成 25 年 5 月 13 日から実施する。
2　第 2 第 2 号の規定により最初に選出された者の任期は、第 3 の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。
附　則
この要項は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。

3.6.3.　愛媛大学分室

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室規程

平成 25 年 9 月 11 日
規則第　117　号

（趣旨）
第 1 条　この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第 21 条の 4 第 2 項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室（以下「センター分室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第 2 条　センター分室は、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学（以下「四国地区国立大学」という。）との緊密な連携のもとで、教育プログラムの共同実施を行うことにより、教育の質の向上を図ることを目的とする。
（業務）
第 3 条　センター分室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　四国地区国立大学における教育プログラムの共同実施の支援に関すること。
(2)　四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
(3)　前 2 号の業務を円滑に行うための全学的な連絡調整に関すること。
(4)　その他前条の目的を達成するために必要なこと。
（組織）
第 4 条　センター分室に、次の各号に掲げる職員を置く。
(1)　分室長
(2)　専任教員
(3)　兼任教員
(4)　その他必要な職員（以下「分室職員」という。）
（分室長）
第 5 条　分室長は本学の専任教員のうちから、学長が指名し、任命する。
2　分室長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、分室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（兼任教員）
第 6 条　兼任教員は、総合情報メディアセンターの専任教員のうちから、学長が指名し、任命する。
2　兼任教員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（職務）
第 7 条　分室長は、センター分室の業務を掌理する。
2　専任教員は、分室長の職務を助け、センター分室の業務を遂行する。
3　兼任教員は、センター分室の専任教員とともにセンター分室の業務を遂行する。
4　分室職員は、センター分室の業務に従事する。
（事務）
第 8 条　センター分室に関する事務は、総合情報メディアセンター事務課及び教育センター事務課において処理する。
（雑則）
第 9 条　この規程に定めるもののほか、センター分室に関し必要な事項は、別に定める。

附　則
1　この規程は、平成 25 年 9 月 11 日から施行する。
2　この規程の施行後最初に任命される分室長及兼任教員の任期は、第 5 条第 2 項及び第 6 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

3.6.4.　高知大学分室

高知大学大学教育創造センター大学連携e-Learning教育支援センター
四国高知大学分室規則

平成 27 年 3 月 25 日
規 則 第 127 号

（趣旨）
第 1 条 この規則は、高知大学大学教育創造センター規則第 3 条第 2 項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国高知大学分室（以下「センター分室」という。） における組織及び運営に関し必要な事項を定める。
（目的）
第 2 条 センター分室は、国立大学改革強化推進補助金事業「四国 5 大学連携による知の プラットフォーム形成事業」の共同実施に関する協定に基づき、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学（以下「四国地区国立大学」という。）の緊密な連携の下で、「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」を推進し、教育の質の向上を図ることを目的とする。
（業務）
第 3 条　センター分室は、前条の目的を達成するため、次の各号に揚げる業務を行う。
(1) 大学教育・大学院教育の共同実施に関すること。
(2) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
(3) 大学教育・大学院教育の共同実施を円滑にするための学内調整に関すること。
(4) その他前条の目的を達成するために必要なこと。
（組織）
第 4 条　センター分室に、次の各号に掲げる室員を置く。
(1) 分室長
(2) 分室教員
(3) 分室職員
2　分室長は、分室の業務を掌理する。
3　分室教員及び分室職員は、分室の業務を処理し従事する。
4　第 1 項に掲げる室員は、高知大学の学長が選考又は指名し、任命する。

（任期）
第 5 条　前条第 1 項第 1 号に揚げる分室長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、分室長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員会）
第 6 条　センター分室の円滑な運営を図るため、その運営に関する委員会を置くことができる。
（事務）
第 7 条　センター分室に関する事務は、学務部学務課において処理する。
（雑則）
第 8 条　この規則に定めるもののほか、センター分室に関する必要な事項は、分室長が定める。

附　則

1　この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
2　高知大学総合教育センター大学教育創造部門大学連携 e-Learning 教育支援センター四国高知大学分室規則（平成 25 年規則第 40 号）は、廃止する。

4. 連絡先情報

大学連携 e-Learning 教育連携センター四国

〒760-8521　香川県高松市幸町 1 番 1 号

電話 087-832-1365

Fax 087-832-1155

Mail chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp

URL http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html

徳島大学分室

〒770-8502　徳島県徳島市南常三島町 1 丁目 1

電話 088-656-7095

FAX 088-656-7292

鳴門教育大学分室

〒772-8502　徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

電話 088-687-6463

Fax 088-687-6463

Mail e-learning@naruto-u.ac.jp

愛媛大学分室

〒 790-8577　愛媛県松山市文京町 3 番　総合情報メディアセンター内

電話 089-927-8978

Fax 089-927-8805

Mail chipula-e@stu.ehime-u.ac.jp

高知大学分室

〒780-8520　高知市曙町二丁目 5 番 1 号

電話 088-844-8644

Fax 088-844-8644

Mail elmanabi@kochi-u.ac.jp

事業報告書 2015年度版

四国における
e-Knowledgeを基盤とした
大学間連携による大学教育の共同実施